



学校法人南山学園

2021 年度

事業報告書

NANZAN
SCHOOL CORPORATION

I. 学校法人の概要

学 園 概 要

法人の名称	学校法人南山学園
名称英語表記	NANZAN SCHOOL CORPORATION
学園設立	1932 年（昭和 7 年）
学園創立者	ヨゼフ・ライネルス師（神言修道会員）
学園本部所在地	愛知県名古屋市昭和区南山町 1
電話番号	052-832-0217（経営本部総合企画室）
FAX 番号	052-832-8315（経営本部総合企画室）
ホームページ	https://www.nanzan.ac.jp/
設置母体となるカトリック修道会	神言修道会／聖霊奉侍布教修道女会／聖心の布教姉妹会

南 山 学 園 の 教 育 理 念

南山学園は、幼稚園から大学院までを擁するカトリックの総合学園で、キリスト教世界観に基づく教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成をめざしています。

本学園がその基礎においているキリスト教世界観の要は、「一人ひとりの人間がまさに一個人としてかけがえのない存在であり、侵すべからざる尊厳をもつ」という考えです。したがって、キリスト教世界観に基づく教育の目標は、一人ひとりがまず自分の尊厳に気づき、その徹底を図る一方、他者の尊厳を認め、共に、人間の尊厳が尊重され推進される社会づくりに役立とう、という生き方を培うことです。

この建学の理念を端的に表現するために、南山学園の各学校はラテン語で“Hominis Dignitati”、すなわち「人間の尊厳のために」という統一の教育モットーを掲げています。

法 人 の 沿 革

年月	概要
1909 年 8 月	南山学園創立者ライネルス神父来日
1932 年 1 月	財団法人南山中学校設立 (名古屋市中区五軒家町 6 番地の 1＝現在、昭和区五軒家町 6)
1936 年 1 月	南山小学校設立 (1941 年 3 月名古屋市に移管)
1946 年 7 月	財団法人南山中学校を財団法人南山学園に組織変更 南山外国語専門学校 (英語科・華語科) 設立
1947 年 4 月	学制改革により新制南山中学校 (男子部) 設立 外国語専門学校に独語科・仏語科を増設 (8 月名古屋外国語専門学校と改称、1951 年 4 月廃止)
1948 年 4 月	新制南山高等学校 (男子部) 設立 南山中学校に女子部を設置
1948 年 5 月	南山高等学校 (男子部) に定時制を併設 (1953 年 3 月廃止)
1948 年 10 月	財団法人南山学園の経営をカトリック名古屋教区から神言修道会に委譲
1949 年 4 月	南山大学設立

1950年3月	大学附属南山第二高等学校設立（1952年大学附属四日市南山高等学校と改称）
1951年3月	財団法人南山学園を学校法人南山学園に組織変更、同時に四日市市の財団法人海星学園を併合（1955年3月四日市南山高等学校の経営を学校法人エスコラピオス学園に委譲）
1951年4月	南山高等学校に女子部を設置
1952年5月	学校法人長崎東陵学園を併合、長崎南山高等学校・中学校と校名変更（1955年2月学校法人長崎南山学園を新設し学校法人南山学園より分離）
1953年11月	南山高等学校女子部、昭和区隼人町の新校舎（現在地）に移転（中学校女子部は1956年4月同地に移転）
1964年4月	南山大学 昭和区山里町の新校舎（現在地）に移転
1968年4月	南山短期大学（英語科）設立
1971年4月	南山短期大学 昭和区隼人町の新校舎に移転
1979年4月	南山中学校に海外帰国子女特別学級を設置
1981年4月	南山中学校に国際部を設置
1982年4月	南山高等学校に国際部を設置
1993年4月	南山高等学校・中学校国際部を発展させて南山国際高等学校・中学校設立（豊田市亀首町八ツ口洞 13-45）
1995年6月	学校法人名古屋聖霊学園と法人合併し、名古屋聖霊短期大学、聖霊高等学校、聖霊中学校が設置校となる。
2000年4月	南山大学瀬戸キャンパス開設（瀬戸市せいれい町 27）
2005年3月	名古屋聖霊短期大学閉学
2008年4月	南山大学附属小学校開校
2011年4月	南山短期大学を南山大学短期大学部に名称変更、南山大学名古屋キャンパスに移転（2020年10月廃止）
2014年9月	南山学園史料室と南山大学史料室を統合し、学園に南山アーカイブズを設置
2015年4月	南山大学理工学部を名古屋キャンパスに移転
2016年4月	学校法人聖園学院と法人合併し、聖園女学院高等学校、聖園女学院中学校、聖園女学院附属聖園幼稚園、聖園女学院附属聖園マリア幼稚園が設置校となる。
2017年4月	大学キャンパス統合 南山大学総合政策学部を名古屋キャンパスに移転

（注）南山学園の主な沿革を記したもので、大学・大学院等の学部・研究科等の設置（改組等）については記載していません。

設置する学校・学部・学科等

2021年5月1日現在

南山大学

〒466-8673 愛知県名古屋市昭和区山里町 18

Phone 052-832-3111（代表） Fax 052-833-6985（経営本部総務課） <https://www.nanzan-u.ac.jp/>

【大学院】

人間文化研究科	キリスト教思想専攻（博士前期課程）／宗教思想専攻（博士後期課程） ／人類学専攻（博士前期・後期課程）／教育ファシリテーション専攻（修士課程）／言語科学専攻（博士前期・後期課程）
国際地域文化研究科	国際地域文化専攻（博士前期・後期課程）
社会科学研究科	経済学専攻（博士前期・後期課程）／経営学専攻（博士前期・後期課程）／ 総合政策学専攻（博士前期・後期課程）
法学研究科	法律学専攻（博士前期・後期課程）
理工学研究科	システム数理専攻（博士前期・後期課程）／ソフトウェア工学専攻 （博士前期・後期課程）／機械電子制御工学専攻（博士前期・後期課程）
法務研究科（法科大学院）	法務専攻（専門職学位課程）

【学部】

人文学部	キリスト教学科／人類文化学科／心理人間学科／日本文化学科
外国語学部	英米学科／スペイン・ラテンアメリカ学科／フランス学科／ドイツ学科／アジア学科
経済学部	経済学科
経営学部	経営学科
法学部	法律学科
総合政策学部	総合政策学科
理工学部	ソフトウェア工学科／データサイエンス学科／電子情報工学科／機械システム工学科
国際教養学部	国際教養学科

南山高等学校・南山中学校

男子部：〒466-0838 愛知県名古屋市昭和区五軒家町 6
 Phone 052-831-6455 Fax 052-831-7059 <https://www.nanzan-boys.ed.jp/>
 女子部：〒466-0833 愛知県名古屋市昭和区隼人町 17
 Phone 052-831-0704 Fax 052-834-4575 <http://www.nanzan-girls.ed.jp/>

【課程[高等学校]】 ・ 全日制普通科

南山国際高等学校・南山国際中学校※

〒470-0375 愛知県豊田市亀首町八ツ口洞 13-45
 Phone 0565-46-5300 Fax 0565-46-5303 <http://www.nanzan-kokusai.ed.jp/>

【課程[高等学校]】 ・ 全日制普通科

※南山国際中学校は 2020 年 4 月より休校。

聖霊高等学校・聖霊中学校

〒489-0863 愛知県瀬戸市せいれい町 2
 Phone 0561-21-3121 Fax 0561-82-2025 <http://www.seto-seirei-js.ed.jp/>

【課程[高等学校]】 ・ 全日制普通科

聖園女学院高等学校・聖園女学院中学校

〒251-0873 神奈川県藤沢市みその台 1-4
 Phone 0466-81-3333 Fax 0466-81-4025 <https://www.misono.jp/>

【課程[高等学校]】 ・ 全日制普通科

南山大学附属小学校

〒466-0838 愛知県名古屋市昭和区五軒家町 17-1
 Phone 052-836-2900 Fax 052-836-7401 <https://www.nanzan-p.ed.jp/>

聖園女学院附属聖園幼稚園

〒251-0053 神奈川県藤沢市本町 4 丁目 8-7
 Phone 0466-22-2636 Fax 0466-22-2766 <https://www.misono.ac.jp/misono-k/>

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

〒251-0871 神奈川県藤沢市善行 7 丁目 1-4
 Phone 0466-81-4141 Fax 0466-81-6113 <https://www.misono.ac.jp/maria-k/>

1. 学校法人南山学園役員等

2021年5月1日現在

理事長 市瀬英昭

理事	ロバート・キサラ マイケル・リンストロム ジェフリー・エグゼニウス・セフ ※ 井上淳 松田京子 天野源之 ※	ヨセフ・ブルーノ・ダシオン ミカエル・カルマノ 梅村祥子 ※ 品田豊成 ※ 笹山達成 ※ 片岡明典 ※	山田利彦 鳥巢義昭 市瀬英雅 丸山夫 上田薫
----	---	--	------------------------------------

※私立学校法第38条第5号に基づく、選任時に本学園の役員または職員でない者（外部役員）

監事 蒔田 一 根本 景子

評議員	赤尾道夫 濱口和孝 星野昌裕 クチツキ ヤヌシュ 松田京子 マイケル・リンストロム ロバート・キサラ 上田薫 市瀬英昭 西脇正導 松浦悟 品田豊 ジェフリー・エグゼニウス・セフ	青木清 濱口吉宏 池田真一 マルチヌス オマン 松浦典文 ムンシ ロジェ ヴァンジラ 笹山達成 山田利彦 小島隆史 梅村祥子 永井淳 武田ミエ子	福田尚登 ヘラ マリアヌス パレ 井上淳 丸山雅夫 ミカエル・カルマノ 西脇良文 鳥巢義文 ヨセフ・ブルーノ・ダシオン 松岳大樹 九鬼綾子 佐久間勤 坪光正 躬
-----	--	---	---

学長・校長・園長	南山大学長 南山高等学校長・南山中学校長 南山国際高等学校長・南山国際中学校長 聖霊高等学校長・聖霊中学校長 聖園女学院高等学校長・聖園女学院中学校長 南山大学附属小学校長 聖園女学院附属聖園幼稚園長・ 聖園女学院附属聖園マリア幼稚園長	ロバート・キサラ ヨセフ・ブルーノ・ダシオン 山田利彦 マイケル・リンストロム ミカエル・カルマノ 鳥巢義文 マルチヌス オマン
----------	---	--

事務局	事務局長 経営本部長 大学本部長	笹山達成 児玉和典 福田尚登
-----	------------------------	----------------------

■役員にかかる賠償責任保険等の締結について

南山学園は役員を対象に、以下のとおり役員賠償責任保険に加入しております。

保険 契約 内容	保険契約者	学校法人南山学園
	被保険者	学校法人南山学園の理事および監事
	契約期間	2020年11月1日～2021年10月31日（1年間） 2021年11月1日～2022年11月1日16時（1年間）
	保険金額	10億円（1請求/加入期間内の総額）
	補償対象	役員が役員としての業務につき行った行為に起因して、保険期間中に第三者から損害賠償請求を提起された場合において、被保険者が負担する損害賠償金・争訟費用
職務執行の適正性が損なわれないようにするための措置		・理事の職務執行については、監事が常時理事会に出席し業務執行状況を確認しています。 ・学園に大きな影響を与える可能性がある事項等、理事会で合議して決定する事項は理事会付議事項一覧を理事会の決定に基づいて定めているほか、利益相反に関する事項は私立学校法等法令に基づいた対応を行っています。

2. 南山学園学生・生徒・児童・幼児数一覧表

2021年5月1日現在

南山大学

(1) 大学院[博士前期課程・修士課程]

研 究 科	専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
人間文化研究科	キリスト教思想専攻	8	3	16	7
	人類学専攻	8	4	16	12
	教育ファシリテーション専攻	10	3	20	3
	言語科学専攻	12	3	24	9
	計	38	13	76	31
国際地域文化研究科	国際地域文化専攻	20	3	40	6
社会科学研究科	経済学専攻	7	6	14	9
	経営学専攻	7	5	14	12
	総合政策学専攻	7	6	14	11
	計	21	17	42	32
法学研究科	法律学専攻	6	1	12	4
理工学研究科	システム数理専攻	18	7	36	16
	ソフトウェア工学専攻	18	11	36	18
	機械電子制御工学専攻	18	14	36	21
	計	54	32	108	55
合 計		139	66	278	128

(2) 大学院[博士後期課程]

研 究 科	専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
人間文化研究科	宗教思想専攻	3	1	9	1
	人類学専攻	3	0	9	0
	言語科学専攻	4	0	12	6
	計	10	1	30	7
国際地域文化研究科	国際地域文化専攻	3	2	9	5
社会科学研究科	経済学専攻	3	0	9	2
	経営学専攻	3	0	9	2
	総合政策学専攻	3	0	9	3
	計	9	0	27	7
ビジネス研究科	経営学専攻(※1)	－	－	－	1
法学研究科	法律学専攻	3	0	9	2
理工学研究科	システム数理専攻	2	1	6	2
	ソフトウェア工学専攻	2	2	6	2
	機械電子制御工学専攻	2	0	6	0
	計	6	3	18	4
合 計		31	6	93	26

※1 2016年度から学生募集停止。

(3) 大学院[専門職学位課程]

研 究 科	専 攻	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
法務研究科	法務専攻	20	9	60	25
合 計		20	9	60	25

(4) 学 部・学 科

学 部	学 科	入学定員	入学者数	収容定員	学生数
人文学部	キリスト教学科	20	18	80	89
	人類文化学科	110	119	440	431
	心理人間学科	110	122	450	444
	日本文化学科	100	107	400	409
	計	340	366	1,370	1,373
外国語学部	英米学科	150	159	618	631
	スペイン・ラテンアメリカ学科	60	58	240	239
	フランス学科	60	54	240	249
	ドイツ学科	60	54	240	233
	アジア学科	60	74	246	284
	計	390	399	1,584	1,636
経済学部	経済学科	275	279	1,100	1,085
経営学部	経営学科	270	271	1,080	1,102
法学部	法律学科	275	292	1,100	1,116
総合政策学部	総合政策学科	275	226	1,120	1,090
理工学部	システム数理学科 (※1)	－	－	225	225
	ソフトウェア工学科	70	69	310	327
	機械電子制御工学科 (※1)	－	－	240	250
	データサイエンス学科	70	68	70	68
	電子情報工学科	65	69	65	69
	機械システム工学科	65	67	65	67
	計	270	273	975	1,006
国際教養学部	国際教養学科	150	147	610	612
合 計		2,245	2,253	8,939	9,020

※1 2021年度から学生募集停止。

(5) 外国人留学生別科(正規生) 43 名

南山高等学校

区 分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
男子部	200	198	600	615
女子部	200	200	600	603
合 計	400	398	1,200	1,218

南山国際高等学校*

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
—	—	320	113

*2021年度新入生より募集停止

聖霊高等学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
240	239	720	721

聖園女学院高等学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
120	63	360	243

南山中学校

区 分	入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
男子部	200	206	600	612
女子部	200	203	600	612
合 計	400	409	1,200	1,224

南山国際中学校*

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
—	—	—	—

*2020年度より休校

聖霊中学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
200	199	600	641

聖園女学院中学校

入学定員	入学者数	収容定員	生徒数
120	67	360	217

南山大学附属小学校

入学定員	入学者数	収容定員	児童数
90	92	540	553

聖園女学院附属聖園幼稚園

入園者数	収容定員	幼児数
60	245	221

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

入園者数	収容定員	幼児数
33	280	150

学園合計（別科を除く）

入学定員	入学者数	収容定員	学生・生徒・児童・幼児数
4,005	3,894	15,195	14,500

注記

・入学者数は、再入学者、編入学・転入学者および原級留置者（新入生でない1年次生）を除いた人数。

3. 南山学園専任職員数

2021年5月1日現在

[専任教育職員数]

南山大学

学部・研究科 等	専任教育職員					計
	学 長	教 授	准教授	講 師	助 教	
人 文 学 部	(1) *	32	18	9	0	59
外 国 語 学 部		26	12	14	0	52
経 済 学 部		14	10	2	0	26
経 営 学 部		17	9	1	0	27
法 学 部		17	6	1	0	24
総 合 政 策 学 部		18	7	2	0	27
理 工 学 部		27	6	3	0	36
国 際 教 養 学 部		14	8	0	0	22
法 務 研 究 科		12	1	0	0	13
人 類 学 研 究 所		1	1	0	0	2
宗 教 文 化 研 究 所		3	0	2	1	6
社 会 倫 理 研 究 所		1	2	0	0	3
外国語教育センター		8	2	17	0	27
教 職 セ ン タ ー		3	2	0	0	5
情 報 セ ン タ ー		0	0	0	0	0
体育教育センター		2	4	0	0	6
国 際 セ ン タ ー		0	0	3	0	3
保 健 セ ン タ ー		1	0	0	4	5
外国人留学生別科		0	0	5	0	5
合 計	(1) *	196	88	59	5	348

南山高等・中学校

	校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
男 子 部	(1) *	(1) *	57	1	2	60
女 子 部		(1) *	58	1	2	61
合 計	(1) *	(2) *	115	2	4	121

南山国際高等・中学校

校 長	教 諭	養護教諭	講 師	計
(1) *	17	1	1	19

聖霊高等・中学校

校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
(1) *	(1) *	59	2	5	66

聖園女学院高等・中学校

校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
1	—	38	2	1	42

南山大学附属小学校

校 長	副校長	教 諭	養護教諭	講 師	計
(1) *	—	35	1	2	38

聖園女学院附属聖園幼稚園

園 長	副園長	教 諭	養護教諭	講 師	計
1	(1)*	9	—	—	10

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園

園 長	副園長	教 諭	養護教諭	講 師	計
(1)**	(1)*	10	—	—	10

南山学園専任教育職員数合計

654

()*の数字は内数、()**は他の学園内設置校と兼任

[専任事務職員等数]

区 分	専任職員	専任嘱託	実験助手	計
経 営 本 部 (学校事務部除く)	51	10		61
南 山 大 学	107 (再雇用3含む)	50		157
南 山 高 等 学 校	6 (再雇用1含む)	2	3	11
南山国際高等学校	3	2		5
聖 霊 高 等 学 校	4			4
聖園女学院高等学校	4			4
南 山 中 学 校	3	3		6
聖 霊 中 学 校	1	1		2
聖園女学院中学校	4 (再雇用1含む)			4
南山大学附属小学校	3	2		5
聖園女学院附属 聖園幼稚園	1	1		2
聖園女学院附属 聖園マリア幼稚園	1 (再雇用1含む)	1		2
合 計	188	72	3	263

4. 土地および建物

2021年5月1日現在

土 地

(㎡)

	校舎等	運動場	その他	合計
南山大学	119,630	32,974	4,764	157,368
南山高等学校 南山中学校	35,221	19,566	7,799	62,586
南山国際高等学校 南山国際中学校	32,462	16,664	0	49,126
聖霊高等学校 聖霊中学校	86,471	30,765	55,722	172,958
聖園女学院高等学校 聖園女学院中学校	54,914	21,450	344	76,708
南山大学附属小学校	6,968	977 *1	0	7,945
聖園女学院附属 聖園幼稚園	1,643	876	0	2,519
聖園女学院附属 聖園マリア幼稚園	1,080	2,380	1,805	5,265
法人本部	0	0	100,262	100,262

*1：他に 11,783 ㎡を南山高校と共有する。

建 物

(㎡)

	校舎等	体育用	寄宿舎	その他	合計
南山大学	128,337	13,320	5,485	3,900	151,042
南山高等学校 南山中学校	35,072	5,431	0	688	41,191
南山国際高等学校 南山国際中学校	13,764	4,627	0	0	18,391
聖霊高等学校 聖霊中学校	21,703	2,267	0	0	23,970
聖園女学院高等学校 聖園女学院中学校	11,167	4,234	0	100 *2	15,501
南山大学附属小学校	8,435	1,316	0	0	9,751
聖園女学院附属 聖園幼稚園	1,535	0	0	0	1,535
聖園女学院附属 聖園マリア幼稚園	1,694	0	0	0	1,694
法人本部	0	0	0	5,398	5,398

*2：職員宿舎

【注】学校法人基礎調査（日本私立学校振興・共済事業団）の報告形式に則り、建物・土地ともに項目ごとに1平方メートル未満は四捨五入しています。

5. 学 園 施 設 お よ び 学 園 関 連 施 設

2021年5月1日現在

学 園 施 設

名 称		住 所	収容定員
南山アーカイブズ		名古屋市昭和区五軒家町6	
南山学園講堂		名古屋市昭和区五軒家町6	客席 922名
南山学園研修センター		名古屋市昭和区広路町字隼人30	70名
南山学園伊勢海浜センター		伊勢市大湊町497-1	50名
南山大学キリスト教センター (ロゴスセンター)		名古屋市昭和区八雲町104	
学 生 寮 (南山大学)	名古屋交流会館	名古屋市昭和区山里町50	56名
	山里交流会館	名古屋市昭和区山里町90	20名
	フォワイエ南山	名古屋市昭和区五軒家町7-3	57名

学 園 関 連 施 設

借用マンション (南山大学 学生用)	四ツ谷の里	名古屋市千種区朝岡町1-22	52名
神言会施設	多治見修道院 ログハウス・研修セ ンター	多治見市緑ヶ丘38	80名

2021年度事業報告（学園全体）

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

2021年度は、新型コロナウイルスによる継続的な影響を受けながらも、年度当初に計画した事項を着実に実行し、学園経営および各単位校の教育・研究活動の維持および向上に努めた1年となりました。あわせて、2020年度に策定した「南山学園中期計画」および「南山学園ガバナンス・コード」の達成状況・遵守状況の点検を初めて行い、現状の分析・確認を通じて、これから何をすべきかを確認した上で、学園として目指すべき姿の実現に向けた各種事業の推進を行いました。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・事務組織統合による「経営本部」としての業務遂行を通じた事務業務の見直しを行いました。
- ・災害発生後のBCP（事業継続計画）の策定のために、外部コンサルティング業者の導入を含めた検討に取り組みました。
- ・学園共通Web受付フォームや事務における電子決裁システム等ICTを活用した学園全体の業務効率化に取り組みました。
- ・「国際校諸課題進捗ミーティング」を通じた南山国際高等学校・中学校閉校準備を行いました。

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・各種計画等の実施状況の点検・評価を通じて、学園運営の課題を明らかにし、解決に向けて取り組みました。
- ・校舎等の非構造部材を中心とした建物点検を行い、対策が必要な箇所を明確にしました。
- ・学園財政の健全な運営のため、遊休資産の処分や財政改善に向けた予算統制と管理に努めました。

II. 新規事業

1. 学園全体

（1）BCP（事業継続計画）の策定作業の実施 ★

2018年度・2019年度の内部監査結果に基づき、学園としてのBCP（事業継続計画）の策定に向け、外部コンサルティング業者の導入・検討を進めました。また、2022年3月開催の南山学園危機管理委員会において具体的にコンサルティング業者からの提案説明を受け、取り組みの方向性を審議しました。2022年度から具体的な計画作成に取り組むことができるよう、その下準備を行うことができました。

（2）「経営本部」としての業務遂行

2021年4月より、従来の法人事務局と大学総務部の統合を中心に、大学本部と経営本部として新たな事務組織のスタートを切りました。これまで法人業務、大学業務を切り分け、別の部署で対応していた業務をひとつの部署で対応することになり、経営本部各部署にて業務の効率化を念頭に、従来業務の見直しを進めました。

2. 施設・設備

（1）学園共通Web受付フォームの運用開始

2021年9月から、学園共通Web受付フォームの運用を開始しました。南山大学ではこれまでも大学独自のWeb受付フォームを利用していましたが、それを発展させ、学園全体で利用できるシステムとしました。本フォームの運用開始により、南山大学以外の設置校では、外部のWeb申込ツールの利用や、メール・電話等での申込受付対応から、順次学園共通Web受付フォームの運用へと移行しつつあり、個人

情報の取扱いにかかるセキュリティ強化や業務の効率化が図られています。またメールアドレス確認機能や英語表示機能の追加も行い、利用者にとっても利便性や情報の確実性が高まりました。

3. その他

(1) 新型コロナワクチン職域接種の実施

2021年8月から10月にかけて、新型コロナウイルス感染症の早期収束に向けての社会的協力ならびに南山学園内で勤務する教職員および委託業者職員等の健康維持と、学校運営機能の維持の観点から、社会福祉法人聖霊会聖霊病院の協力を得て、新型コロナワクチン職域接種（1回目・2回目）を実施しました。

この職域接種は、南山大学と連携している学校法人トヨタ学園豊田工業大学の学生、聖霊病院の職員およびその家族、南山学園関係者の家族ならびに名古屋大学が行う職域接種での接種予定者で事情により接種できなかった南山大学および他大学学生等も接種対象とし、文部科学省から地域貢献に資する大学拠点接種としての認定を受けて実施しました。総数として691名・1338回の接種を行いました。

(2) 文書関係規程の整理および検討

南山学園の各単位校で定められている文書およびその保存に係る規程を見直し、「南山学園諸規程管理規程」、「南山学園事務局事務決裁規程」、「南山学園事務局文書規程」、「南山学園事務局文書作成要項」および「南山学園事務局文書保存規程」を制定しました。これにより、学園全体で統一したルールの下で文書処理業務の効率化と信頼性を高めることができ、また電磁的文書の取り扱いなど、実態に合わせたルールを定めることができました。

(3) 南山学園電子決裁システムの導入 ★

事務執行に係る意思決定の迅速性および正確性を高め、ペーパーレス化を推進し、業務の効率化を進めるため、南山学園全体に電子決裁システムを2021年4月から導入しました。

(4) 南山国際高等学校・中学校の閉校に向けた準備

2023年3月31日の南山国際高等学校・中学校閉校に向けた校地・校舎の取り扱いなどの諸課題の確実な実行とその進捗を管理するため、「国際校諸課題進捗ミーティング」を定期的に実施しました。今後も「国際校諸課題進捗ミーティング」において、進捗管理、情報共有および課題整理等を実施し、確実に事務手続きを進めていくように取り組みます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学園全体

(1) 理事会のガバナンス強化に向けた総合企画室業務・組織改編の検討 ★

2021年4月に法人事務局と大学総務部の事務組織統合を行い、新たに「経営本部」としてスタートしましたが、組織統合・事務室移転の対象とせず、ピオ十一世館にそのまま残した総合企画室の業務についても、この1年をかけて、業務を遂行しながら、運営上の課題等の把握を行いました。これを踏まえ、2022年度において、引き続き業務のあり方について継続して取り組むこととしています。

(2) 南山学園中期計画の実行と評価 ★

2021年度に「南山学園中期計画（2020年度～2024年度）」の計画1年度目の進捗確認を行いました。評価方法については、各単位校からの事業報告書に基づき、進捗度に応じ4段階で評価を行い、理事会および評議員会での共有と確認を行いました。初めての取り組みであったこともあり、評価基準のあいまいさが課題として残りましたが、2年度目評価に向けて、評価基準について検討します。この活動を通じて、南山学園中期計画の実質的な達成と、学園のさらなる発展・充実に向け、2024年度の計画期間終了まで継続的に取り組みます。

(3) 「私立大学版ガバナンス・コード」に基づく対応

日本私立大学連盟が策定した「私立大学ガバナンス・コード（第1版）」に沿った形で2020年4月に「南山学園ガバナンス・コード」を策定し、2021年度に初めて遵守状況の点検を行いました。全体としてはおおむねガバナンス体制は整っているものの、規程等の整備がされていないものや、個々のルールはあるが、総体として方針が整っていないもの、外部資金獲得や社会貢献・地域貢献の体制づくりの部分でさらなる取り組みが必要であるという状況を確認しました。今回の点検結果をふまえ、学園・大学運営のガバナンス強化や改善に向けて、引き続き取り組みます。なお、点検結果については、南山学園 Web ページにて公表しています。

2. 広報活動

(1) 学園広報活動 ★

2019年度から実施している各設置校での進学相談会「トワイライト合同相談会」を、2021年10月に名古屋マリオットアソシアホテルを会場として行いました。新型コロナウイルス感染症の感染防止対策を十分に講じながら対面で実施し、各学校の入試広報の支援だけでなく、南山学園の一貫教育をアピールできる場として学内外から高い評価を得ることができました。また、中期計画に定めた学園の戦略的広報の再構築の検討の一環として、複数の広告代理店等に提案を依頼し、新しい広報計画を学園広報委員会において決定しました。この決定に基づき、ターゲット層を明確にしたうえで、様々な広告媒体を用いて広報展開をすることとしました。加えて、関東エリアにおける広報媒体の充実と時期や場所を踏まえた交通広告の実施を中心として、聖園各校が南山学園の一員であることの周知および学園のブランド・イメージのさらなる向上に資するよう、2022年度に取り組みます。

さらに、「学園総合案内誌」と「学園概要」については、双方を統合した新しい「学園総合案内誌」に一本化することとし、2021年7月には学園広報委員会において、複数の制作会社におけるコンペティションを実施し、選定された業者とともに発行準備を進めました。紙面構成を見直し、南山学園の90年の伝統やカトリックのミッションスクールであること、共通の教育モットーの下での教育共同体の形成が読み手に伝わる内容を意識して制作しました。

3. 施設・設備

(1) PCB 廃棄物の処分 ★

2019年度から高濃度 PCB 廃棄物である蛍光灯安定器の処分を3年計画で実施し、2021年度に処分が完了しました。今後、低濃度 PCB 含有の可能性のある機器について濃度検査を実施し、処分期限の2027年3月末までに適切に処分を行います。

(2) 校舎の耐震対策 ★

2021年度は、専門家による非構造部材を中心とした建物点検を実施しました。点検により、対策が必要な箇所が明確になりましたので、今後の整備計画に盛り込んでいきます。

(3) 遊休資産等の活用と処分 ★

南山学園が所有する遊休資産等について、活用方法や将来性を視野に入れて検討した結果、2021年度は学園が管理する名古屋市内の本郷スクールバスターミナル跡地を処分する手続きを進め、2021年12月に売却しました。

(4) 聖園女学院高等学校・中学校正門前土地問題

聖園女学院高等・中学校正門前の土地は、合併前から国道467号線との境界が明確ではなかったため、合併後、神奈川県と協議を進めています。2021年度においても進展せず、問題解決には至りませんでした。

4. 財務

(1) 有価証券運用の取り組み ★

2021年度の南山学園資産運用方針において、リスク性資産の購入に制限を加えるとともに、安定性資産の中途売買を可能とする改正を行いました。それに伴い、中途売却した場合に金額面で有利と考えられる銘柄について、リスクを十分に考慮しつつ売却を行い、一定の収益を獲得しました。

今後も中・長期の視点から南山学園の教育・研究活動に対し、資金面で安定的な貢献が可能となる運用方法を継続的に検討します。

(2) 財政改善に向けた取り組み ★

財政目標については、当年度収支差額の収支均衡を掲げつつ、財政状況を踏まえ設置校毎の目標を設定し、段階的な収支改善を図りました。また、中・長期的な財政改善策として、将来的な資金不足が懸念される設置校において、現在予定している施設・設備に関する中・長期事業計画を精査し、財政シミュレーションの改善を図りました。経常的に行われている事業に関する予算については、2022年度当初予算編成時に2021年度予算との比較検証を行い、必要最低限の予算計上に努めるとともに、南山学園として網羅的に予算の管理・抑制を行いました。

5. その他

(1) 2021年度事務職員等研修の実施

①「人事考課」研修の実施

主任以上を対象とし、人事考課が職員の能力開発や組織力の強化に資するという目的を理解し、考課者がその役割や責任について認識したうえで、面談のポイントや部下育成を支援するコーチング、OJTの進め方を習得するための研修を2021年8月と11月に合計3回実施しました。

②「事務ミス防止」研修の実施

一般職・専任嘱託職員を対象とし、業務の流れの中でチェックすべき点を洗い出し、ミスを防ぐ仕組みや工夫についての事例を参考に、ミス防止対応策を考える研修を2021年8月と11月に合計5回実施しました。

③「クレーム対応研修」研修の実施

一般職・専任嘱託職員を対象とした研修と主任以上を対象とした研修に分けて、それぞれの職能に求められるクレーム対応スキルの修得を図る研修を2021年10月に合計8回（一般職・専任嘱託職員対象5回、主任以上対象3回）実施しました。

以 上

2021年度南山大学事業報告

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

2021年9月に大学創立75周年を迎え、各種の記念事業を実施しました。また、新型コロナウイルス感染症の拡大防止を徹底し、学生や教職員が安心して教育・研究に取り組める環境を整えました。南山大学の建学の理念、および「人間の尊厳のために」という教育モットーに立ち返り、2020年度から掲げているキーワード「地球規模の関心、私たちの貢献」を心に刻んで、大学としての使命を果たしていきます。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・「南山大学『人間の尊厳賞』」の創設
- ・「ライネルス中央図書館構想」の募金事業の開始
- ・大学院理工学研究科データサイエンス専攻の設置検討
- ・学部・大学院での交換留学生の受け入れと外国人留学生別科の新プログラムの開始
- ・新しい国際学生宿舎を拠点にした国際交流の活性化
- ・100分授業の導入

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・大学創立75周年記念各種事業
- ・ハラスメント相談体制の見直し
- ・オープンアクセス化の推進
- ・COIL型授業の強化
- ・国際的な大学間連携のさらなる推進
- ・「大学の世界展開力強化事業」等の外部資金獲得による国際化の継続
- ・Nanzan International Certificateの発展・強化
- ・認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行
- ・外部研究資金の獲得に向けた継続的な取り組み
- ・コロナ禍における就職活動支援
- ・地域連携の促進と取り組みの強化
- ・オンラインを活用した戦略的な入試広報活動の実施
- ・大学院の受け入れ体制の拡充
- ・安定的な財政基盤の構築

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 「南山大学『人間の尊厳賞』」の創設

大学創立75周年を機に、「南山大学『人間の尊厳賞』」を創設しました。この賞は、「人間の尊厳のために」という南山大学の教育モットーの実現に貢献された方や団体を表彰するものです。これを価値あるものとするために、幅広く社会に候補者を求め、適切な選考基準を定めました。2022年3月に、第1回受賞者を発表しました。

(2) 「ライネルス中央図書館構想」の募金事業の開始

図書館は本学の構成員にとどまらず、学園内の中高生や地域社会の人々の利用に供する機会が増えて

います。大学創立 75 周年を記念した図書館リニューアル事業である「ライネルス中央図書館構想」の実現に向けて、2021 年 4 月から 5 年間の予定で募金事業を開始しました。パッヘスクエア、フラッテンホールに続き、南山学園創設者であるヨゼフ・ライネルス神父 (Fr. Joseph Reiners) の名を冠することで、カトリック神言修道会を母体とする本学の歴史を在学生や地域社会に広く周知する事業です。

2. 教育・研究

(1) 大学院理工学研究科データサイエンス専攻の設置検討

2021 年度より理工学部は改組再編され、「データサイエンス学科」、「電子情報工学科」、「機械システム工学科」の 3 学科を新設し、既設の「ソフトウェア工学科」と合わせて 4 学科構成となりました。社会的要請が大きい学問領域であるデータサイエンスについては、学部生および大学院生に対する教育が最大限の成果を生むような、理工学研究科データサイエンス専攻の設置構想を検討しました。

(2) 学部・大学院での交換留学生の受け入れと外国人留学生別科の新プログラムの開始

多様化する日本語学習者や留学のニーズに応え、また新たな協定校を開拓するために、2021 年 9 月、学部・大学院で交換留学生の受け入れをはじめるとともに外国人留学生別科が改組され、既存の Intensive Japanese Program (以下 IJP) (定員 120 名) に加えて、Modern Japan Program (以下 MJP) (定員 45 名) が開始されました。IJP が日本語を集中的に学習したい学生を対象としたプログラムであるのに対して、MJP は基本的な日本語を勉強しながら、日本人学生とともに質の高い英語で開講される日本事情科目を履修するプログラムです。

(3) 新しい国際学生宿舎を拠点にした国際交流の活性化

2022 年 2 月に、神言修道会の創設者アーノルド・ヤンセン (St. Arnold Janssen) 神父の名前を掲げた、新しい国際学生宿舎「南山大学ヤンセン国際寮 (Nanzan University Janssen International Residence)」が竣工しました。また宿舎内に居住する全学生を対象とし、留学生と日本人が協働して実施できるような教育プログラム「ダイバーシティ&インクルージョン実践力養成プログラム」をつくりました。国際センターの下、宿舎アドバイザーやレジデントリーダーを置いて、参加者への助言、評価やフィードバックを行うことで、教育プログラムとしての質を保証します。

(4) 100 分授業の導入

2021 年度から 100 分授業が導入されました。これによって、1 つの科目は原則として 14 回となり、余裕のある学年暦となりました。今後、学生が短期留学やインターンシップ活動、正課外活動等に参加する機会や、教員が調査研究活動に従事する時間に充てるなど有効活用を図っていきます。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 大学創立 75 周年記念各種事業

2021 年 9 月に大学創立 75 周年を迎えるにあたり、大学創立 75 周年プロジェクト実行委員会が設置され、2020 年 9 月より各種事業が開始されましたが、コロナ禍の影響もあり一部の事業では延期や規模の縮小を余儀なくされました。2021 年度には、キックオフイベントや記念式典・記念講演会、特設 Web ページを通じた広報展開、学内装飾・グッズ制作等を実施しました。また、2022 年 3 月に『南山大学 75 年史』を刊行しました。

(2) ハラスメント相談体制の見直し

本学はかねてよりハラスメント問題への組織的な対応を図ってきました。近年では、相談の種類が複雑化しており、また 2020 年 6 月より、職場におけるハラスメント防止対策の強化が法令上定められることにもなりました。こうした状況に対応するため、ハラスメント相談体制をより充実化し、事案の整理と適切なアドバイスができる仕組みを構築しました。

2. 教育・研究

(1) オープンアクセス化の推進

本学は2020年度に「南山大学オープンアクセス方針」を策定しました。この方針は、研究成果に対する学内外からの自由な閲覧を保証することにより、学術研究のさらなる発展に寄与するとともに、情報公開の推進、社会に対する説明責任と研究成果の社会への有効かつ積極的な還元を果たすために定められました。2021年度には「南山大学オープンアクセス実施要領」を定めました。学位論文はすでに公開していますが、過去の紀要論文等の研究成果についても幅広くオープン化できるように取り組んでいきます。

(2) COIL 型授業の強化

2021年度もコロナ禍にあつて、世界中で移動が著しく制限されましたが、2018年度に採択された「大学の世界展開力強化事業～COIL型教育を活用した米国等との大学間交流形成支援～」の取り組みを通じて、引き続き、活発な国際交流を維持しました。また、各学部・研究科で積極的にCOIL型授業を導入しました。

(3) 国際的な大学間連携のさらなる推進

学生交流協定を締結した海外の大学・機関は2021年度末の時点で33カ国・地域で116大学（2020年度末時点115大学）となりました。2015年度に策定された「南山大学国際化ビジョン」では、グランドデザイン完成年度である2027年度までに約130大学との協定を目指しています。今後も積極的に交流協定校の開拓に努めていきます。

(4) 「大学の世界展開力強化事業」等の外部資金獲得による国際化の継続

上智大学と協同で実施してきた「大学の世界展開力強化事業（中南米）」（LAP：Sophia-Nanzan Latin America Program）は2019年度に終了しましたが、文部科学省よりきわめて高い評価結果を受けました。LAPで作上げたプラットフォームは、外国人留学生別科サマープログラムにも、LAP（Late August Pre-sessional）コースとして継続されましたが、2021年度はコロナ禍の影響を受け中止となりました。コロナ禍後の再開を目指すとともに、今後も「大学の世界展開力強化事業」等の新たな外部資金獲得によって国際化を進めていきます。

(5) Nanzan International Certificate の発展・強化

本学では、経済学や政治学など、国際科目群と呼ばれる英語で学べる授業が約70科目あります。これらの科目から24単位以上修得すると、本学で国際力を身に着けた証として、Nanzan International Certificateが発行されています。これまで教務課を中心に取り組んできましたが、各学部・国際センター等とも連携して、国際力の涵養に資する授業履修や留学経験、課外活動参加なども発行基準に取り入れるなど、学生にとってNanzan International Certificateがより魅力的なものになるよう引き続いて努めていきます。

(6) 認証評価を踏まえた改善計画の策定と実行

本学は、2020年度に大学基準協会の認証評価を受審しました。その結果は肯定的な評価でしたが、いくつかの改善課題も提示されましたので、内部質保証委員会が中心となって改善計画を策定しました。大学基準協会に改善報告書を提出することになる2024年に向けて、引き続き改革に取り組んでいきます。

(7) 外部研究資金の獲得に向けた継続的な取り組み

科研費をはじめとする外部研究資金は、充実した研究を遂行するために必要不可欠な基盤です。2021年度も引き続き積極的な獲得を目指しました。とくに、学内外の様々な研究者や機関と連携して、社会的な要請に応える学際的な研究プロジェクトの拠点となるよう努めました。

(8) コロナ禍における就職活動支援

2020年は就職活動が本格化する時期にコロナ禍による緊急事態宣言が発令され、学生の就職活動およ

びキャリア支援室による学生指導やサポートに大きな制約が生じました。2021 年度も引き続きコロナ禍にあって、オンライン面接の導入など就職活動にも変化が生じました。こうした状況を踏まえ、オンラインを活用しながら、学生の就職活動を効果的に支援する方法を検討しました。

3. 社会貢献

(1) 地域連携の促進と取り組みの強化

本学はこれまでも国内外の研究機関、産業界や地方自治体といった様々なステークホルダーとの共生・協働に努めてきました。2017 年度に発足した南山チャレンジプロジェクトでは、2020 年度から「産学連携企画」がはじまり、同窓生が社長を務める家田製菓株式会社との連携によってエチオピアにゆかりのある食材等を用いた「ポン菓子」の開発・販売に取り組んでいます。2021 年度からは、名古屋税理士会との連携で新たに寄附講座が開かれました。大学間の連携では、大学院法務研究科が 2021 年度に名古屋大学法学研究科と共同開講科目を設置しました。また本学は日本カトリック大学連盟の会長校であり、アジア・キリスト教大学協会（ACUCA）の日本代表理事にも就任していますが、さらに東南・東アジアカトリック大学連盟（ASEACCU）や国際カトリック大学連盟（IFCU）などを通じて、世界のキリスト教系大学との連携を深めていきます。くわえて、南山学園は 2008 年度に「南山学園環境宣言」を発表し、早くから環境問題に注目してきました。2021 年度に創設された「カーボン・ニュートラル達成に貢献する大学等コアリション」に参加しました。これからも本学の研究・教育活動を通じて、その理念を実現するために成し得ることを考えていきます。

4. その他

(1) オンラインを活用した戦略的な入試広報活動の実施

2021 年度もコロナ禍の影響を受けましたが、オープンキャンパスの対面とオンラインによるハイブリッド開催や各学部の紹介動画の作成、Web 広告の活用など、オンラインを活用した入試広報活動を積極的に実施しました。2020 年度末に提出された「大学戦略広報ワーキンググループ」の最終報告書の提言を踏まえ、これからも課室間の連携を緊密にしながら大学全体の広報活動を積極的に進めていきます。

(2) 大学院の受け入れ体制の拡充

大学院各研究科では、学内の研究科・研究所・研究センターはもちろん、学外のさまざまな機関との連携を一層強化しながら、研究を通して新たな社会的課題に対する関心を高め、課題解決に貢献できる人材を幅広く育成していく必要があります。そのため、学部からの進学者はもちろん、留学生や社会人の受け入れに積極的に取り組みます。既に一部の研究科で実施される学部早期卒業生の受け入れや、社会人学生を科目等履修生として受け入れ、博士前期課程を 1 年で修了させる仕組みなどについても検討を始めます。また、より多くの優秀な大学院生に修学の機会を提供すべく、大学院博士後期課程奨学支援制度を設置することにしました。

(3) 安定的な財政基盤の構築

本学の魅力を維持・向上させるためには、安定的な財政基盤を構築し、今後も教育・研究の充実を図ることが不可欠です。2021 年度は、学生納付金を改定しました。これに加えて、入学定員の充足に努めながら、支出削減・学納金改定検討小委員会で支出削減などの方策を継続して検討し実施しました。寄附金についても、引き続き、その多様化と卒業生・企業などへの有効な周知方法について検討を進めていきます。

以 上

2021年度南山高等学校・中学校（男子部）事業報告

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

「キリスト教精神による教育」・「6カ年一貫教育」・「国際的視野の育成」の教育目標を不易のものとして、社会の変化・保護者のニーズ・生徒の変化にも対応してきました。コロナ禍にあっても、朝の祈りやクリスマス聖式・宗教映画などの宗教行事を通して「人間の尊厳のために」という教育モットーを浸透させるべく事業を実施しました。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・コロナ禍における部活動・行事等の点検修正にて可能な活動を実施しました。
- ・全ての普通教室への可動式電子黒板の設置とWi-Fiの完備とともに、生徒1人1台の端末活用の検討を行いました。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・中長期を見通した将来構想の策定を議論しました。
- ・生徒の聖書に基づく価値観の育成・宗教心を涵養しました。
- ・「新学習指導要領」と「高大接続改革」への対応を行いました。
- ・統合型校務支援システムの整備点検を実施しました。
- ・勤怠管理システムにて出退勤時間の適正な把握を行いました。
- ・スクールカウンセラーと連携した精神的なストレスを抱えた生徒へのケアおよびサポートを行いました。
- ・非常時における危機管理体制と保護者との連携体制の確立に努めました。
- ・「高大接続改革」を見据えた6カ年一貫の体系的な進路と進学支援を行いました。
- ・「国際的視野の育成」を目指す海外研修やプログラムの充実を目指しました。
- ・学園内単位校との連携と広報活動の充実を図りました。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) コロナ禍における点検

部活動は愛知県教育委員会が示すコロナ禍における学校運営方針に則し、活動停止の時期もありましたが、感染対策を行い可能な限りの実現に努めました。行事に関しては宿泊を伴う行事は中止しましたが、代替行事として日帰りでの遠足の実施や、各種行事の目的に関連する講演会を行うなど、可能な限りの実施に努めました。

2. 施設・設備

(1) 可動式電子黒板の全ての普通教室への設置 ★

ICT環境は、特別教室には既に整備されていましたが、全ての普通教室への可動式電子黒板の設置とWi-Fi環境の完備を行いました。これにより新型コロナウイルスによる学級閉鎖や自宅待機を余儀なくされる陽性者・濃厚接触者の生徒へのオンライン配信がスムーズに行われました。あわせて、さらにより充実したICT環境整備に努め、2023～24年度を目処に生徒一人一台の端末活用の検討を行いました。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 中長期を見通した将来構想の策定

中学校の卒業生がそのまま高等学校に進学することで、6年間の計画的・継続的な教育指導が展開でき、ゆとりをもった効果的な一貫教育が可能です。男子部では、生徒の優れた才能を発見してその個性を伸長できるように、「生徒に求めるべき学力」と「教科教育力の向上」についての模索を継続して行いました。各教員はその目的に則して自らの教育実践の見直しを図っています。これらに加え、カトリック学校としての男子部の使命、学園内他設置校との連携、南山大学・南山大学附属小学校との教育連携、財政見通し等の将来計画を議論しました。

(2) 聖書に基づく価値観の育成・宗教心の涵養

カトリック学校として宗教の授業を何よりも大切にしています。中学では、新型コロナウイルスにより2020年度は実施できなかった、1年生の多治見修道院での講話と創立者の墓参を実施することができました。この行事を通じて、男子部の歴史を学び、南山をよく知ると同時に、母校を愛する人物の育成を目指しています。また、高校では、古今東西の世界の思想を学び、より広い視野を育成しています。このほかにも、聖堂の扉を常に開放し、誰でも自由に、祈りや黙想を通して静かに心を落ち着かせ、自分を見つめる時間を持つことができました。

(3) 新学習指導要領・高大接続改革への対応 ★

新教育課程への対応を含め精査、検討し最終案を決定しました。新学習指導要領、大学入試改革に関する情報について、オンラインセミナーを通じ情報収集し、新学習指導要領の理解も進めました。調査書・指導要録の新形式にも対応可能なように、校務支援システムの保守、メンテナンスをすすめ、入力の手簡易化により、作業時間を短縮するだけでなく、入力される情報量の拡充を図ることができました。

(4) 統合型校務支援システムの整備点検の実施 ★

可動式電子黒板の利用を推進し、動画撮影の機器等の拡充を図ることで、オンライン授業への対応に努めました。Microsoft社のTeams、Swayを利用し、学校と家庭での学習情報の共有化を図り、コロナ禍の状況においても、生徒が不安無く学習が継続できるようにしました。加えて、Teams、Sway、PowerPointを利用した授業方法の提案について、教員研修を通じて行うことで、ICTを利用した授業力の向上も図りました。

(5) 勤怠管理システムの導入による出退勤時間の適正な把握

ICカードをかざす方法で記録することにより、客観的に出退勤時間を把握することができるようになりました。また、年次休暇の取得状況もシステムにより簡単に把握できるようになったため、適切に年次休暇の取得を促すことが容易になりました。

(6) スクールカウンセラー(SC)との連携による生徒へのサポート

週に4日間、2名の臨床心理士の資格を持ったSCが相談室を開室し、心のケアが必要な生徒および保護者が利用できる場を整えています。SCは、個人情報を守りつつ、該当生徒の担任・学年・カウンセリング委員会(教頭・指導部長・養護教諭)と密接かつ迅速な連携をとりました。さらに、外部の医療機関や相談機関とも綿密に情報交換を行ってきました。教職員・保護者がSC・外部医療機関等と協働して、生徒が安心して学校生活を送ることができる環境を作りました。

(7) 非常時における危機管理体制、および保護者との連携の確立

想定される南海トラフ地震や火災等自然災害による非常事態発生時に備え、校内の避難経路を明示し、生徒・来校者・教職員が迅速に避難できるようにしました。避難訓練は、コロナ禍で密を避けるため中学1年生を対象に実施し、他の学年は避難経路の確認を行いました。生徒・保護者へは、メイ

ル配信と Web ページ等、あらゆる方法で連絡できる体制を構築しています。年度初めには各家庭で「生徒資料」を作成してもらい、非常事態時の対応の周知徹底と把握に努めました。また、帰宅困難な生徒に対する食糧・日用品等を備蓄管理し、アレルギー対応食を増量しました。使用期限が近くなった非常食については、カトリック教会の福祉団体を通じて地域市民への支援に活用しています。

(8) 保護者・在校生・卒業生・外部向け Web ページの拡充 ★

2020 年度に続き新型コロナウイルス感染症拡大のため、本校主催の学校説明会・体験授業や私学協会主催の私学フェア・塾主催の個別相談会が中止や規模縮小を余儀なくされました。広報部では感染症対策を徹底しつつ人数等を制限したうえで説明会や体験授業の実施とともに、Facebook を中心に Web ページでの情報発信を積極的行いました。

(9) PC 教室、タブレット PC の活用 ★

タブレット PC を活用して授業配信を行いました。PC 教室は、情報の授業だけではなく、他教科の授業にも活用しました。ICT 機器の整備と教育への活用により、資料の収集とその分析、レポート作成とプレゼンテーション等、多様な教科において授業効果の向上を図ることができました。

(10) 語学研修と英語教育の充実

中学 3 年生では 3 学期の 3 カ月間にわたる「ニュージーランド・ターム留学」を、高校 1 年生では「オーストラリア語学研修」という語学研修を、例年どおり予定しましたが、新型コロナウイルスにより実施できませんでした。今後も引き続き人気のあるこの英語研修参加を軸に、6 カ年一貫の英語教育の充実と改革を目指します。

(11) 植栽の検討 ★

2020 年度に校門付近に「シダレサクラ」「ツバキ」「ヒラドツツジ」「サツキツツジ」「ハナミズキ」が植栽され、2021 年度は、校舎北側・南側の除草を実施しました。今後も緑溢れるキャンパスを目指し、四季を通じて生徒や教職員、来校者の癒しの場となるよう植栽を実施します。緑化を推進するとともに、「八事の森のミッションスクール」として自然環境の教育にも力を注いでいきます。

(12) 教職員の研修・研鑽・自己点検

生徒による「中学校学習アンケート」・「高校進路調査」を分析して自己点検としました。また、各教科の定期考査や実力考査の検討会を教材研究・授業研究の一助にし、授業力・教育力の向上を図りました。加えて、スクールカウンセラーによる「いじめや体罰の未然防止」に関しての教員研修を行いました。

2. 教育・研究

(1) 図書館の充実

校舎の玄関近くに位置する図書館は「知の拠点」として活用されています。英語科選定による多読・速読洋書コーナーや各教科からの推薦図書リストがあり、「社会探究ゼミ」や国語科の「表現」の授業を通じ、読書指導・論文指導に活用されました。新型コロナウイルス対応のために、閉鎖する期間もありましたが、貸出方法や座席配置、利用時間の見直しにより、安全に利用できるように工夫しました。メディアコーナーや、読書カウンター・閲覧テーブル・学習室の利用を通じ、生徒が気軽に使えるように配慮しています。全国の大学入試用過去問題集を自習室に移動したことで、書庫での保管になっていた大型書籍の開架が可能になりました。

(2) 6 カ年の体系的な進路・進学指導

「進路調査」や「外部模試」の実施・分析は例年通り行い、進路指導に役立てましたが、2020 年度から続く新型コロナウイルスの流行・感染拡大を受け、「オリエンテーション合宿」をはじめとしたいくつかの行事は中止せざるを得ませんでした。しかし、従来の形式、計画していた形式通りではないものの、外部講師の講演の代替として本校教諭による講演を実施したり、大学教授による模擬授業の代替として本校卒業生複数人による座談会を実施したりするなど、各学年団と協力しながらできる限

りの進路行事を行いました。

(3) 生活指導

「安全・健康・美化」のテーマに沿って、主体的に生活実践できる生徒の育成に努めました。始業式や終業式の式典後に生徒へテーマにかかる情報提供や注意喚起を行いました。朝の通学時には、地下鉄通学者や自転車通学者への指導を行い、交通安全の講演会も開催しました。また、携帯電話・LINE等を安全に使用するための情報倫理教育については、合同ホームルームや講演会を開催するにとどまらず、各クラスの朝礼を通して繰り返し注意喚起を行いました。

(4) 生徒の自治活動 ★

生徒会行事については 2020 年度の教訓を生かし、時間をかけて検討し、かたちを変えて実施できるものについては実施しました。早い段階で文化祭をオンライン開催と決定したことが功を奏し、しっかりと準備できたため、2020 年度よりも良いものになったと生徒も手応えを感じていました。体育祭は綿密に計画していたものの緊急事態宣言が発出されたことにより中止しました。一度は中止としたものの、高校体育委員会の強い要望から 3 学期に実施できるよう再度計画しましたが、残念ながら実施は叶いませんでした。3 学期に予定していたスポーツ大会は一部種目を変更し実施することが出来ました。

芸術鑑賞は、2020 年度に中止となった東京演劇集団風による「Touch～孤独から愛へ～」という演目を、学園講堂にて上演していただきました。感染予防対策として、一学年ごとに計 6 回の公演とし、劇団の方々には相当なご無理を聞いていただき実現できました。

日常的な生徒会活動として、新型コロナウイルスにより活動が制限される中、生徒は話し合いを繰り返し、学内環境の充実と美化、講演会や講習会等の文化活動、機関紙『南窓』の発行と電子化など様々な企画・運営を通して自治意識・自立意識を醸成することができました。

例年清掃活動を共に実施してきた 3 校(男子部・女子部・中京大学附属中京高校)合同企画については、例年の活動時期である 3 学期に 3 校で集まることが難しく、中京大学附属中京高校を除く男子部、女子部で学内交流会を持ちました。

社会福祉施設の児童生徒とともに活動するスプリングカーニバルは、残念ながら 2021 年度も新型コロナウイルスの影響で実施できませんでしたが、例年喜んでいただいている生徒お手製のぶたのぬいぐるみは、お菓子とともに施設の子どもたちへ贈り届けることができました。

(5) 部活動

2021 年度は新型コロナウイルスにより多くの大会が中止になり、学校内の活動もかなり制限されましたが、その中でもできる限りの活動を継続しました。運動部は、アメリカンフットボール、ラグビー、水泳の各部は東海大会に、バドミントン、柔道、テニスの各部は県大会に出場をしました。また事故防止の対策・啓発として、体育の時間等を利用して熱中症対策・AED の講習を行いました。

文化部は、文化祭が中止になった影響で発表の場が少なくなりましたが、プラスバンド部が個人のみならず団体でも各種大会で活躍を果たし、アマチュア無線同好会は一般の部で東海大会優勝、将棋部も個人の部で全国大会出場という結果を残しました。

(6) オーストラリア語学研修、ニュージーランド・ターム留学およびイタリア・キリスト教文化研修

新型コロナウイルスの感染拡大により、「オーストラリア語学研修」「ニュージーランド・ターム留学」とともに中止せざるを得ませんでした。しかし、南山の教育目標の一つである「国際的視野の育成」に引き続き努めるため、新たなプログラムとして、「エンパワーメントプログラム」を実施しました。これは、国内の大学に在籍する世界からの留学生とともに、新しい価値観や異文化への理解を深め、グローバル感覚を養い、英語力の必要性に気づくことができるプログラムとして実施し、非常に満足度の高いプログラムとなりました。

また、「イタリア・キリスト教文化研修」は、例年 12 月 23 日から 30 日までの 1 週間、クリスマスを祝うパチカン、サンピエトロ寺院のローマ、聖フランチェスコのアッシジ、フィレンチェ、ピサ、ミラノを訪れています。ヴェネツィア派・ロンバルト派などの展示が充実したブレラ美術館や、メディチ家の美術コレクションをはじめルネサンス絵画で有名なウフィツィー美術館、その他世界遺産となっている史跡を訪れ、現地では教会のミサにも参加しています。しかし、2020 年度・2021 年度と新型コロナウイルス感染症のため実施に至っていません。

(7) 広報活動の充実 ★

新型コロナウイルスの影響により、私学協会主催の私学フェアや塾主催の学校説明会が全て中止となり、本校で開催する学校説明会や体験授業も人数制限の関係で規模を縮小せざるを得ませんでした。こうした状況下でも可能な限りの広報活動を行うべく、Web ページ上での学校紹介動画の公開を行い、学校説明会も、規模を縮小しつつ回数を増やすことで、本校の魅力を知ってもらう機会を確保しました。また、学園広報委員会のもとで南山大学、南山高等・中学校（男子部・女子部）、聖霊高等・中学校、南山大学附属小学校の各設置校が連携してトワイライト合同相談会を実施し、小中高大が揃っている総合学園の強みを活かした広報活動を行いました。Facebook も男子部の教育活動を細かく発信していくためのツールとして頻繁に更新しており、広く認知されてきています。学習塾の訪問は厳しい状況ではありましたが、可能な限り実施しました。また、学習塾によるオンラインの説明会やイベントなどにも積極的に参加し、可能な限り私学全体や本校の雰囲気や魅力を伝えました。その結果多くの志願者が集まりました。

(8) 学園内高等学校・中学校・南山大学・南山大学附属小学校との連携推進

新型コロナウイルスにより直接の交流が非常に限られる中、南山大学附属小学校 5 年生による学校見学会を細心の注意を払いつつ実施することができました。ブラスバンド部の演奏した動画を小学校の授業で活用してもらう等、従来の活動を維持・発展させることもできました。また、南山大学人類学博物館による社会科展示では、男子部の授業内容や進度に合わせた展示をお願いし実現、授業内容の深い理解に繋がりました。

3. その他

(1) 学園内単位校における教職員の人事交流 ★

学園内単位校との人事交流に努め、より良い実践を共有することで活性化に繋げていくために、同じ教科の教師が協働することで「教科教育力」の向上を図ろうとしましたが、新型コロナウイルスの影響で、残念ながら実施することはできませんでした。

(2) 校務分掌の検討 ★

6 ヶ年一貫教育を体系的に推し進めていくために、国際校からの移籍による専任教員枠増加に伴う校務分掌の適正配置を検討しました。

(3) 財政状況にかかる検討 ★

財政状況の改善に向けて検討を行い、2036 年度までは校舎建築の借入金返済が続くことに加え、教育の充実および ICT 環境の整備等を目的とし、寄附金募集について 2021 年 4 月から Web ページに掲載しました。今後もさらに補助金の獲得に努め、教育環境を低下させることのないようにしながら、支出削減を進めます。

以 上

2021年度南山高等学校・中学校（女子部）事業報告

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、学校活動全般にわたって何らかの制限を断続的に受けることとなりましたが、ICT環境という学校インフラの整備がほぼ整ったおかげで、授業時間の縮減等学習への影響を極小化することができました。一方で、学校祭（前夜祭・文化祭・体育祭）や研修旅行（国内・海外）等宿泊を伴う行事、遠足などの校外での体験的プログラムについては、中止や延期、代替を余儀なくされました。しかし、生徒・教職員の高い意識と臨機応変の対応で休校措置をほぼとることなく、可能な範囲で女子部らしい学びや行事を継続することができました。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・新カリキュラムの実施に向け、土曜出校日をなくすことを決定し、校時表を改訂しました。
- ・女子部ネットワーク回線を増強し、構内無線LAN環境の授業等における本格的運用を開始しました。
- ・専任教員配付用PCの設定を終え、タブレット端末活用の幅も広げつつ校務の効率化を図りました。
- ・北・南校舎の空調機の全面入れ替えを行いました。

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・新カリキュラムが完成し、生徒向け「学習の手引き」等必要な改訂を行いました。
- ・生徒のメンタルケア強化のため、スクールカウンセラーの勤務を週2日から3日に増やしました。
- ・ICTを活用した授業等の展開について、授業公開や実践例を共有し合う学習会を随時行いました。
- ・第1体育館の建て替えに向け、学園内に設置されているワーキンググループにて要望を伝えました。
- ・財政状況改善に向け、事業計画の見直しや経費削減に努めました。

II. 新規事業

1. 学校全体

（1）学校改革の推進 ★

2022年度からの新カリキュラムの実施にあたり、主に「総合的な学習・探究の時間」に充てていた年間5日程の土曜出校日をなくし（高2のみ旧課程のため残存）、平日の授業時間数増（7限授業日増）を決定しました。同時に、放課後の時間縮減に伴う生徒会活動や部活動などの課外活動への影響や、引き続き、新型コロナウイルス感染防止策を講じたなかでの学校生活に即した校時表の策定を進め、2022年度から当面は、1コマ47分授業・8分休み時間を決定しました。中・高で終礼時間が異なることもあり、2022年度以降も学校活動全般にわたる見直しは行なっていく予定です。部活動のあり方をめぐっては、3月に生徒会に部活動特別委員会が発足し、教員との意見交換などが行われました。今後は双方で議論を進めていく予定です。

なお、教員の働き方改革の観点からも、とりわけ部活動のあり方をめぐって議論を進めてきましたが結論には至っておらず継続課題となっています。

2. 教育・研究

（1）構内無線LAN環境の授業等における運用開始 ★

GIGA スクール構想に向けて文部科学省は生徒一人一台のタブレット端末の整備をうたっていますが、構内に設置された無線LANを生徒が活用できるよう、2021年度11月よりBYOD(Bring Your Own Device)方式での導入を図りました。使用ルールについては、生徒たち自らが策定に関わるようなプロ

セスを経て、当面のルールを整備しました。生徒側では、生徒会アンケートや生徒総会での投票などに活用しました。また、教員も授業でタブレット端末を積極的に活用しようという気運が高まってきました。

(2) 専任教員に対する一人一台 PC 環境の整備 ★

2020 年度から教員の校務軽減ならびに情報セキュリティ強化のため、新たな学園共通統合型校務支援システム（スコーレ）の運用を開始しました。2021 年度には、専任教員に対し一人一台のノート PC を貸与するための設定等の準備を進めましたが、PC やネットワーク環境に一定程度精通した一部の教員自らの手による（過重な負担はかけられない）ところもあり、本格的な運用は 2022 年度からとなりました。一方で、教員のタブレット端末の活用の幅は広がっており、授業はもちろん教員間の連絡や情報共有、会議等校務運営の効率化・ペーパーレス化に寄与しています。

3. 施設・設備

(1) ICT を活用した教育環境の整備 ★

2020 年度に無線 LAN の整備が完了し、2021 年度は、生徒一人一台のタブレット端末の導入が図れるようネットワーク回線の増強工事を行いました。

(2) 北・南校舎空調機の入替え

北・南校舎（2006 年竣工）の空調機の故障が 2019 年頃から頻発していましたが、2021 年の夏休み期間中にリース契約による全面的な入れ替え工事を行いました。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教精神に基づく人間観、世界観、「人間の尊厳のために」生きる人となるための価値観の育成

新型コロナウイルスの影響で、従来の静修会（中 2・中 1）や長崎（中 3）・沖縄（高 2）への研修旅行は代替という形を取らざるを得ませんでした。校長や指導司祭の講話などは適宜実施しました。2021 年 11 月には前校長（西経一神父）による講話を、中 3（長崎研修旅行中止した学年）対象にオンライン（Zoom）で実施しました。

朝礼時の聖歌やお祈りは、地域の感染状況をみながらの判断でしたが、断続的ではあったものの声に出す機会は増えました。また、月に 1 回程度の校長または指導司祭による講話（朝の心）を実施しました。

例年実施している全学年対象のクリスマス聖式については、密を避けるために南山教会での式には中 1 のみが参列し、他学年は各 HR 教室にて YouTube ライブで参加する形（リアルタイム）で実施しました。

中 1 希望者対象のクリスマス修養会、音楽部クリスマス聖歌隊コンサート、器楽部有志による医療施設でのクリスマスコンサートはすべて中止しました。

(2) 6 ヶ年の体系的な一貫教育の確立

中高 6 ヶ年の体系的な一貫教育の内容を科目ごとに明記した『中学学習の手引き（教科別）』『高校学習の手引き（教科別）』をそれぞれ入学時に配付しました。

また、年度初めに、学習についてのアドバイスやさまざまな学問分野の紹介、職業紹介、大学入試の仕組み等を詳述した『学年別進路の手引き』を中 3 から高 3 に配付しました。年度末には、主に卒業生の社会人や大学生等によるアドバイスをまとめた『進路の手引き・別冊』を全校生徒に配付しました。6 ヶ年のゆったりとした流れのなかで生徒たちが自らの将来をじっくりと構想できるよう、合わせて 11 冊の『進路の手引き』を在学中に配付しています。

生徒たちが安全・安心に生活できるよう、生活指導の一環として、毎年、外部機関等に依頼していくつかの講座を実施していますが、2021 年度は中 2 対象の防犯教室（2 月）を、高 1 対象に「ネットいじめ

対策講座」(5月)を実施しました。

6ヵ年の縦のつながり・交流としては、部活動はもちろん、文化祭や体育祭の行事を中高一緒に開催していますが、2021年度は体育祭を10月に中・高を午前・午後に分けて開催し、前夜祭(クラスダンスの発表)と文化祭は11月に代替行事(学内者のみ)として開催しました。クラス対抗のダンス大会(当該学年以外はリモート中継を各HR教室で鑑賞)、中学のクラス発表、高校の有志発表、部活発表など、生徒たちの工夫と努力の成果が見られた2日間となりました。

2021年度の芸術鑑賞会は、6月にセントラル愛知交響楽団による演奏会を愛知芸術劇場で実施しました。

高3の3学期の特別授業では、6ヵ年の集大成として、高3担当以外の教員も授業を担当し、最終学年の最終学期にふさわしい有意義な授業を実施しました。

進路指導関係では、高1を対象としたOG大学生によるオンライン(Zoom)パネルディスカッション(4月)、キャリア教育の一環としての外部講師特別授業(6月)、中3対象の外部講師による進路講演会(10月と2月)等を実施しました。

また、中学生対象の「(中高一貫校向け)学力推移調査」、高校生対象の「スタディサポート」や外部模試は校内で可能な範囲で実施しました。

(3) 第1体育館建て替えの検討 ★

第1体育館建て替えについては、建築委員会および職員会議にて現段階での建築の概要を確認し、学園内に設置されているワーキンググループにて建築計画の概要を説明し、学園への要望を伝えたところでした。

(4) 精神的なストレスを抱えた生徒に対するケア、サポート体制の強化

相談や支援を要する生徒が増えていることから、スクールカウンセラー(臨床心理士)の勤務を1日増やし週3日(月・火・木)としました。教育相談主任、養護教諭、保健委員会委員長、生活指導部長、スクールカウンセラー、教頭、副校長で構成する教育相談報告会を毎月1回開き、各学年会と連携してケアの必要な生徒の個別サポートを継続しました。

(5) 家庭(保護者)とのより密接な連携の推進

新型コロナウイルスの影響で、授業参観の実施は見送りましたが、学年別保護者会、クラス別保護者会、個別面談、部活動の保護者会については、可能な範囲で実施しました。保護者対象の講演会についても、中2の保護者を対象に南山大学准教授池田満先生による講演会を実施しました。

保護者対象の「宗教講話」は実施を見送りましたが、学年通信・クラス通信等を適宜発行し、生徒たちの学校での様子を保護者にお伝えできるよう努めました。加えて2021年度も、感染予防への理解・協力依頼、行事の中止や延期、内容変更のお知らせ等の保護者宛文書を小まめに配付しました。

(6) 植栽管理についての検討

校舎建築から年月が経ち、また近年の気候変動により、植栽という資本を失っていく状況にあります。対処として、校舎建築当時のコンセプトおよび植栽の状況を熟知する業者のコンサルティングを活用して費用対効果の高い、かつ教育の観点もふまえたメンテナンスについて検討し植栽の入れ替えも一部行いました。猛暑対策として自動灌水システムの保守・点検等も行いました。

2. 教育・研究

(1) 国際的視野の育成

主に高1・高2希望者を対象とした3コースの海外研修については、2020年度に続きすべて中止しましたが、一方で新しい試みとして、英語科主催の、留学生がファシリテーターとなってディスカッションなどを行うエンパワーメントプログラムと称する5日間のプログラムを校内で実施しました。

(2) 男女別学の特色を生かした教育の推進 ★

愛知県下唯一の男女別学校という特色を生かすため、男子部プラスバンド部・女子部器楽部の「ジョ

イントコンサート(第39回)」を開催しました。

(3) 特色ある教育づくり

2009年度から世界117カ国が参加する文部科学省指定事業「地球学習観測プログラム(グローブ)」の指定校としてGLOBE委員会を設置し、生物・水質・大気の観測調査を続けています。2015年度に国立研究開発法人科学技術振興機構の「中高生の科学研究実践活動推進プログラム(学校活動型)」に採択されました。学校が主体となり、中高と大学等が連携・協働し、中高生自ら課題を発見し、科学的な手法にしたがって進める探究活動の継続的な取り組みを推進するプログラムです。2018年度でプログラムは終了しましたが、学校独自で活動を継続しました。

理科主催の特別企画として、中1動物園実習、JAXAや国立天文台による授業やさまざまな分野の研究者による「出前授業」を実施しています。

家庭科では、高1の「家庭基礎」で日本新聞協会が行っているNIE(Newspaper in Education)活動の「新聞切り抜きコンクール」への参加を継続しました。家庭科と保健体育科が共同で計画していた近隣の2つの保育園での保育実習は2021年度も中止しました。

社会科や国語科主催のフィールドワーク企画等についても計画立案を見送りました。

沖縄研修旅行(高2)は、代替地として金沢・白川郷方面へ2泊3日、長崎研修旅行(中3)は、大津市湖畔へ1泊2日の宿泊行事を11月に実施しました。

(4) 大学入学者選抜試験への対応

2回目を迎える「大学入学共通テスト」に向けて、大学入試センターや各種教育業界からの情報なども分析しながら、必要な対策を講じました。

(5) 新カリキュラム(教育課程表)の完成

新しい時代の学力育成を目指す学習指導要領改訂を受け、女子部の独自性を失うことのない2022年度からの新しいカリキュラムが完成しました。同時に新カリキュラムのスタートに向けて、特に中学の「総合的な学習の時間」および高校の「総合的な探究の時間」の授業づくりに関する研修・学習会を随時行いました。

(6) 英書の多読の実施

英語科では、大学入学共通テストに向けて4技能の育成を図るため、中1から高1においては授業内、全学年で授業外の英書の多読活動を行っています。また、希望者向けの朝多読や、休み時間でも使える読書室を設けています。将来的にはiPadを使つての多読、多聴が同時にできるよう計画中です。2018年度からスタートした英書の増冊(4年計画、最終目標：約5,000冊)も完了しました。

(7) キャリア・トライアル(職業体験プログラム)

2016年度からキャリア教育の一環として、高校生の希望者を対象とした職業体験プログラムをスタートさせましたが、2021年度は募集人員を約100名に拡大して実施しました。また、実施後は中3を対象に、キャリア・トライアル体験報告会を開催しました。

(8) 性に関する教育

保健体育科・家庭科の授業で性に関する教育として毎年、高2・中2を対象に産婦人科医による性に関する講演を実施しています。2021年度はオンラインで高2は11月に、中2は2月に行いました。

(9) 教職員の研修・研究

教員の研鑽・自己点検に資するため、学校生活、学習、進路、行事等についての生徒アンケートを全学年で実施しました。

新型コロナウイルス対応でICT機器利用は教員の必須となりましたが、不慣れな教員も、教員間の学び合い(教え合い)効果で活用域が広がりました。この間の教育実践も一部含めた2021年度の教育・研究活動をまとめた『年報』32号を発行しました。

(10) 南山大学・南山大学附属小学校との連携の推進 ★

高校生の南山大学学園内オープンキャンパスおよび保護者向けの南山大学キャンパス見学会、総合学習の一環としての高1対象の南山大学の先生による特別授業「南山大学土曜セミナー」を実施しました。また、心理人間学科の先生に依頼して2019年度から新たに始めた中2対象のコミュニケーションスキルアップのためのプログラムも実施しました。

その他、南山大学での教員免許状更新講習に参加するなど、大学との協力関係を継続しました。

南山大学附属小学校との連携については、小中高協議会や同引継ぎ分科会を例年同様に実施しましたが、双方の教員が交流・意見交換できる機会を設けることは叶いませんでした。

3. 社会貢献

(1) 地域清掃

近隣住民の方への感謝の気持ちも込めて、学校周辺の地域清掃を含む「全校一斉大掃除」を毎年実施していますが、2021年度は、計画はしていたものの天候不良のため中止しました。

(2) 募金活動

寄附活動として、宗教活動委員会の呼びかけによる、クリスマス献金(教会を通じた世界児童福祉・国際協力援助・国内生活困窮者援助等のための献金)と、東日本大震災直後に始まった、教員・生徒有志が参加しての「被災地支援チャリティーコンサート」(11回目)を開催し、募金活動やチャリティーに関連した物品の販売なども行いました。

(3) ボランティア活動

新型コロナウイルスの影響で、これまで実施してきた各種ボランティア活動はいずれも中止しましたが、状況をみて再開していきたいと考えています。

(4) 地域貢献

サッカー部の生徒がボランティアとして参加していた、日本サッカー協会主催ユニクロ共催のJFAユニクロサッカーキッズ企画(愛知県内児童対象)は中止となりましたが、2022年度以降再開されれば協力する予定です。

4. その他

(1) 危機管理体制の確立

守衛室常駐体制を維持し、教員による授業中・放課後の校舎内巡回を継続しました。また、火災・地震対策のための避難訓練を1回(地震・火災想定)実施しましたが、不審者侵入時の緊急対応訓練については、2021年度は見送りました。2019年度の内部監査で指摘のあった大災害発生後の事業継続計画(BCP)については策定を行い、今後は学園全体のBCPとの整合性を図っていく予定です。

危機管理委員会、災害対策本部、生活指導部、教育相談、いじめ対策委員会等と、外部諸機関(警察・消防署・児童相談所・医療機関)の連携については、愛知県警に依頼して中2対象の「防犯教室」を実施しました。また、愛知県弁護士会による「いじめ予防出張教室」も例年同様に実施しました。

緊急連絡等の体制については、メール配信を主軸にしています。より早くて確かな内容で生徒・保護者に伝えるため、学校(送信者)の携帯端末やパソコンから、容易に発信できるシステムを維持していきます。生徒・保護者の個人情報(メールアドレスのみ)で、委託業者のサーバで厳重管理されています。全校一斉配信、学年やクラス、部活動ごとの配信のほか、校外行事等についても対応できるよう、きめ細かい多系統の配信にしています。また、学校からの一方向の連絡のみでなく、生徒や保護者からも応答が可能になるよう双方向配信システムも採り入れています。

2021年度は新型コロナウイルスの影響で学校活動全般の縮小のためか、大きな事故や怪我、トラブルはほぼなく、いわゆる「インシデント・アクシデントレポート」等の報告がほとんどありませんでしたが、引き続き危機管理の意識は堅持しつつ、既存の対応マニュアル等についてもチェックしていきます。

（２）広報活動の充実

春の入試説明会(育友会主催)、秋の学校説明会は実施しましたが、部活動体験会は中止しました。新型コロナウイルスの影響で女子部を知っていただく機会が減っていることから、新規の活動として８月にオープンスクール(体験授業)、12月には３日間の校舎見学会を実施し、可能な範囲で受験生・保護者のニーズに対応しました。

また、人数制限により説明会に参加できなかった保護者・児童のために、説明会を録画し配信しました。フェイスブックで学校の日常を広く情報発信し、女子部への理解を深めてもらうよう努めてきました。

以 上

2021年度南山国際高等学校・中学校事業報告書

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

南山国際高等学校・中学校は、段階的に生徒募集を停止し、2022年度末に閉校します。2021年度は、2020年度に引き続き新型コロナウイルス（COVID-19）感染防止のため、教育活動は大きく制限されました。しかし、理事会が表明した「最後の一人の生徒まで、入ってよかったと思える学校」を実現するため、学園と学校が一体となり、生徒・保護者、卒業生のご理解とご協力を得て、創意工夫をこらし、休校等のリスクを最小限にとどめることができました。きびしい条件の中でも、学ぶことの多かった1年だったと考えています。

2021年度の主な新規事業は次のとおりです。

- ・閉校後の証明書等の発行システムを、学園と連携して構築しました。
- ・閉校後のモニュメント・閉校セレモニー等の準備をしました。

2021年度の主な継続事業は次のとおりです。

- ・スコーレ（学園共通統合型校務支援システム）、“Google Classroom”（学習管理アプリケーション）、一斉メールシステム等のさらなる活用を行いました。
- ・帰国生の受け入れを継続しました。
- ・英語教育、ICT教育、個別指導等を柱に、教育プログラムを継続しました。
- ・感染症対策を含め、安全で安心できる学校環境を整備しました。
- ・PTA、卒業生、同窓会、他の単位校等との連携を図りました。

II. 新規事業

1. 学校全体

（1）閉校後の証明書等の発行システムの構築 ★

スコーレ（学園共通統合型校務支援システム）を活用しながら、過年度分の証明書等のPDF化を完了しました。閉校後は学園のWebページから申請ができるようになります。ペーパーベースの文書管理・保管方法についても具体的に学園の関係部署と検討を進めました。

（2）モニュメント・閉校セレモニー等の準備

いりなかエリアでのモニュメント建設・展示施設開設等を学園と検討しました。閉校セレモニーについては最後の卒業式とは切り離し、式典およびアルマ・マーテル（南山常盤会）による同窓会イベント等を新型コロナウイルスの感染状況に留意しながら検討していくこととしました。

III. 継続事業

1. 学校全体

（1）スコーレ・Classroom・一斉メールシステム等の活用

個人情報保護を最優先にしながら、スコーレやGoogle Classroom等を活用し、ICT教育、成績処理、双方向コミュニケーション、防災対策等の多様な面でデジタル化・オンライン化を進めました。諸会議や連絡等もペーパーレスで行われ、休校時や自宅待機の生徒へのサポート等も含め、日常的に効率的な学校運営や教育活動が学校全体で定着しました。

（２）生徒募集・編入の実施

2021 年度は、高等学校の 2 学年 3 クラス、計 6 クラスとなりましたが、海外子女教育振興財団や各企業の担当者等と連携し、Web ページや刊行物、学校説明会、日常的な編入相談等を通して、きめの細かい募集活動を行いました。編入審査を年 4 回実施し、帰国生徒受入れ校としての社会的責任を担いました。

（３）安全で安心できる学校の実現

行政・関係機関および学園危機管理委員会と連携しながら、緊急時の対応マニュアルを見直し、安全で安心できる学校づくりに努めました。特に小規模校であることを活かして感染対策を徹底し、クラスター発生や長期の休校等を回避することができました。気象災害、南海トラフ大地震、Jアラート、熱中症等のリスクへの対応に関しても、各家庭と双方向での情報共有を強化し、施設・設備のハード面の点検、災害時の初期対応および心肺蘇生訓練、緊急時の防災備品や携帯用品の整備等を行いました。

また、キリスト教精神に基づく「いじめ防止対策基本方針」を遵守し、毎学期に実施する全校生徒アンケートも活用し、「いじめ」があった場合、迅速な対応をするとともに、総合的な視点で「いじめ」を生まない学校をめざしました。世界各地から帰国した生徒一人ひとりにとって、安心できる母校となり、不安や危険を感じた場合、生徒や保護者がすぐに相談できるような信頼関係を育てていく不断努力を続けました。SNS の普及などの生徒を取り巻く環境に対応し、専門機関とも連携して啓発活動や研修を行いました。教職員による体罰は厳しく禁じています。

（４）保健室業務・スクールカウンセリングの充実

養護教諭に加え、業務委託の看護師を保健室に配置し、生徒の傷病や精神的な悩み等に対応できるようにしました。またスクールカウンセラー（臨床心理士）による通常のカウンセリングに加え、自己認識をテーマに「総合的な探求」授業も実施しました。生徒だけでなく子育てに悩む保護者からの相談にも対応しました。

（５）教育全般の自己点検 ★

全学年保護者を対象にアンケートを実施し、PTA の協力を得て学校関係者評価を行い、『南山国際ブリテン』で公開しました。日常的に保護者会、PTA 活動等を通して寄せられる要望等も含め、自己点検・評価委員会等の各校務組織で分析・検討し、最終年度の行事予定や学校運営にも反映させました。

（６）南山学園内連携事業の推進 ★

学園内の単位校と連携を進め、南山学園だからこそできる教育を目指しました。南山大学各学部と「学域推薦型選抜入試（指定校入試）」「外国高等学校卒業生等入学試験」等を通して高大連携を進めながら、①南山大学外国語教育センターでの英語授業、②南山学園内オープンキャンパス参加、③本校 PTA の南山大学見学説明会（オンライン）等を実施しました。また本校で使用しなくなった備品等は、段階的に他の単位校に移譲し、有効活用を図っています。なお 2022 年度以降、本校卒業生の教育実習は、南山高等・中学校（男子部・女子部）・聖霊高等・中学校で受け入れていただく予定です。

（７）PTA 活動との連携

感染防止のため、保護者が来校する機会を制限せざるを得ませんでしたが、PTA 予算からの教育活動への助成、各種行事参加等を通じて、会員数が減少する中であっても学校を支える重要なパートナーとして活動をしていただきました。11 月に 2 年ぶりに劇団四季劇場で PTA 助成により「芸術鑑賞」を実施することができました。「南山国際ブリテン」と「PTA だより」も合同で編集しています。またカフェテリア営業終了後の昼食サービス（冷凍食品等の販売）も支援いただきました。

（８）生徒表彰「校長賞」の実施

生徒が努力した成果に対して荣誉を称え、各学年から選ばれた生徒 1 名に「校長賞」を授与しました。

(9)『記念誌』の編纂等

2022 年中の刊行をめざし、旧国際部もふくむ国際校『記念誌』編纂作業や史資料の整理と保存を行いました。

2. 教育・研究

(1) 教育環境の改善

南山学園の国際的な教育の一端を担い、質の高い帰国生徒教育を継続しました。英語以外の教科においても、小規模校のメリットを活かし、個別指導を充実させ、帰国生徒の特性をより伸ばさせていくための教育を日常的に行っています。しかし、残念ながら 2020 年度に続き修学旅行（スキー実習）等の行事は感染拡大のため中止しました。

(2) 宗教教育

カトリックのミッションスクールとして、キリスト教精神の涵養を図ります。各学年でキリスト教思想の授業を開講し、多言語による朝の祈り、校内ミサを行いました。今年は 2 年ぶりに南山教会でのクリスマスミサ（2 学期終業式も兼ねる）を実施しました。

(3) 語学教育 ★

「英語を学ぶ」だけでなく「英語で学び、表現する」ことのできる高いレベルの語学力を、すべての生徒が修得できることをめざし、次のような独自の授業プログラム実施とともに、英語検定、TOEFL 等の資格取得を積極的に呼びかけています。具体的には、①習熟度別授業の展開(全学年)、②南山大学外国語教育センターでの英語の授業受講（高校 3 年生）、③リベラルアーツ、イマージョン授業、④TOEFL-ITP(高校 2 年生)、⑤ワールドブラザ(全学年)、⑥日本語弁論大会等を実施しました。

(4) ICT 教育・情報リテラシー ★

視聴覚教室およびメディアセンター常設の PC に加え、2020 年度より休校・自宅待機対応として本格導入した Google Classroom、PTA の支援により購入した Chromebook (64 台)やプロジェクタ等を、さまざまな授業、生徒会活動、部活動、家庭学習、個別指導、諸連絡等において利用し、日常的に実践的なアクティブラーニングを実現しています。同時に、生活指導や情報の授業を中心に、総合的な情報リテラシーの涵養を進めています。

(5) サマースタディ（夏期集中講座）★

夏期休業期間を利用し、オンラインも併用して各教科の補習・補充授業、英語検定試験対策、小論文指導等を「サマースタディ」の名称で開講していました。

(6) 留学・国際交流 ★

アメリカノースカロライナ州ホープウェル高校との短期留学プログラムは、感染拡大により実施できませんでした。豊田市のダービーシャー高校生派遣プログラムはオンラインでの参加となりました。

3. 施設・設備

(1) 教室設備等

教育環境や安全性に配慮して補修を行いました。学校規模縮小にともない使用しない教室・施設・設備の有効活用を進めました。建築構造部だけでなく、非構造部材の安全性も引き続き点検し、必要な修繕を実施していきます。

(2) エネルギー管理委員会による省エネの検討、実施 ★

夏期の熱中症・食中毒・感染症等のリスクを軽減できるようエアコンを適切に使用しながら、南山学園環境宣言を踏まえ、電気使用量の削減に取り組みました。

(3) スクールバス等 ★

通学バス交友会役員会で最終年度までの運行計画に基づき、感染対応を徹底しながら安全で快適な運行を行いました。

4. 社会貢献

(1) 学校施設の社会的利用 ★

施設の貸出等を実施し、①近隣の豊田市民（広域避難場所：体育館、グラウンド）、②豊田市ジュニアオーケストラ（練習場所：講堂）など、地域のニーズに応えました。

(2) 地域交流 ★

生徒数減少による部活動の縮小や新型コロナウイルスの感染対応のため、地域の一斉清掃のほか、地域との交流はできませんでした。

(3) 同窓会活動（南山常盤会およびアルマ・マータール）★

常盤会主催のオンラインによる卒業生との交流企画、南国祭（文化祭）の動画参加等を行いました。

以 上

2021年度聖霊高等学校・中学校事業報告

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業報告の概要

南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」と本校創立時の建学の精神である「光の子として生活せよ」を中心に据え、多くの人々によって育まれた宗教教育・外国語教育・情操教育の3つを柱とした本校の伝統的な教育を継承しながら、3つのポリシーを基本とした教育計画によって未来の聖霊生のために新しい時代に輝く学校となっていくことを目指しています。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・新学習指導要領に基づき完成させた中学・高校の新教育課程改訂案を元に、学則の変更を進めるとともに各教科の専任教員数を点検し、今後の採用計画の検討を進めています。
- ・生徒が安心して活発に行事や運動ができるようにするため、第2グラウンドの整地を行いました。以降4年に1回程度のサイクルで整備修繕工事を実施していきます。また、第1体育館の舞台照明と舞台幕を本校の学校行事や式典に相応しいものに改修しました。
- ・授業料補助等の補助金業務と学納金引落業務を連携させた新たな学費管理システムを導入しました。
- ・教職員用タブレット端末の校舎内利用域を拡充するため、教員用回線の無線LAN設備を増強しました。
- ・広報活動や通信手段としての役割を充実させるため、聖霊高等学校・中学校のWebサイトをリニューアルし、2022年度に向けてスマートフォンからも見やすいページ作りを進めています。

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・校務システムを教職員全員で活用し、校務の効率化と負担軽減を推進しました。併せて校務分掌全体の組織改編について検討を進めた結果、2022年度からの新たな組織体制を策定しました。
- ・ICT教育環境整備計画（2019～2024年度）において基盤整備の充実を図ってきたことから、これらを積極的に活用するための情報教育と教科指導の実践に向けた研究を推進しています。
- ・第2体育館大規模修繕は、使用実態を踏まえて一旦計画を延期し、修繕から改築までを選択肢に含めて再度慎重に検討を進めています。
- ・2020年度に大きく制度変更を行った聖霊中学校入試について、総合的に課題を洗い出して運用を洗練させ、更なる志願者確保と入学定員管理とが両立するよう慎重に入試運営を行いました。
- ・学園バスの財政改善に向けて、運営主体である「聖友会」と協力して会費の引き上げを行うと同時に運行方法や路線の見直しを行いました。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 新しい教育の構築と教育的活用 ★

文化祭・体育祭・宗教行事・式典など様々な学校行事、外来者の来校を伴うオープンキャンパスなどの広報的な企画や入試、日常の学習活動や課外活動における施設設備使用について、実施場所、実施要項などを総点検し、年間を通して教育上有効な活用方法を工夫しました。また必要となる音響、映像設備備品の最適配置などを確立させました。さらに with コロナの環境に適応していくための新たな学校生活と教育環境の活用を目指して行事を進めました。

(2) 教育課程の改訂後の教員構成についての検討 ★

新学習指導要領に基づき、完成させた本校の教育課程の改訂案を元に、教科ごとの授業数や教員数を

点検しました。今後の定年退職予定者や学園内他単位からの教員の移動等による教員の年齢構成の変化に十分に配慮して今後の人事計画の立案を進めました。

2. 教育・研究

(1) ICT 教育機器の運用と教育活動での活用の研究 ★

映像配信システム、教職員へのタブレットと教員用 PC の一人 1 台体制など、運用をはじめた ICT 教育環境について、学習指導における効果的な活用や校務における運用等について更なる研究開発を進めました。また、2021 年度から、ICT 教育環境整備計画推進のための経費を学年諸経費の一部に組み込んだことにより、今後の安定した ICT 教育環境の充実をはかりました。同時に、次期 ICT 教育環境の整備についても検討を進め、2024 年度から学年進行によりタブレット端末の生徒一人 1 台体制を導入し、2026 年度に完成させる計画を立てるに至りました。

2020 年度に配備された全教室映像配信システムを駆使して、学習指導における効果的な活用や校務における運用等だけでなく、学校行事の代替手段としてコロナ禍で想定を超えた活用をしました。この新たな経験を元に、配信範囲を拡充するなどさらに有効な活用方法を取り入れました。電子黒板（インタラクティブホワイトボード）は、継続的な活用に結びつけるため、既存の授業と組み合わせて使う特定の教員を選んで授業研究を促進し、年度末の教科による取り組みで発表するに至りました。

新しい校内組織として ICT 教育研究委員会を設置し、ICT を「教育の情報化」の目標に照らして「何に使うか」「どう使うか」について、より明確にした上で、学校としてそれを実現していくために必要な仕組みや設備、財源などについて、より実践的な検討を進めることができました。

教職員の意識改革の側面からは、同委員会発信で積極的な働きかけが行なわれ、教員向けの学習会や通信によってモチベーションを高めたり、iPad とロイロノート、Google classroom などを活用して技術の向上がはかられたりしました。

3. 施設・設備

(1) 既存施設設備整備の検討 ★

より安心・安全な学校生活と魅力あるキャンパスづくりを進める中で、第 1 体育館や第 2 グラウンドなど、補修や改修を行いました。また「ともの会」から、SOL（生徒）棟の充実のために各 HR 教室にホワイトボード、教材コーナーにパーティション、1 階廊下に掲示板などをご寄付いただき設置しました。

中期計画には、2022 年度に第 2 体育館大規模改修計画を盛り込んでいますが、使用実態を検証し、中小規模なメンテナンス工事を継続的にすることを前提に使い続けることから改築までを含めた計画の見直しを進めています。

(2) 欠席連絡システムの運用 ★

職員用タブレット端末の特性を生かした活用場面の拡充とともに、保護者との緊急時の連絡方法としてメッセージ配信機能をさらに充実させました。導入から 2 年目となり、ほぼ定着しました。

4. その他

(1) Web ページリニューアル ★

セキュリティを強化しつつ、より活発な情報発信を行うため、Web ページ全体のリニューアルを進めました。2022 年 5 月内の運用を目指しています。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) キリスト教に基づく全人教育の継承と宗教教育の確立

南山学園の教育モットーである「人間の尊厳のために」と聖霊の建学の精神である「光の子として生活せよ」と教育理念を基礎に、宗教の授業、学年ごとに実施される朝礼、中学 1 年生の修養会から高校

3 年生の静修の日そして卒業式へと中高一貫で進められる宗教行事と、生徒の実態や時代にふさわしい改善を常に意識しながら、本校の校風にふさわしい宗教教育の内容の確立を進めました。そして、教員一人ひとりのことば一言にさえも本校の教育の精神が宿るように、全教職員で聖霊教育の基本精神を共有しました。

(2) 学園通学バスの財政改善 ★

2020 年度に予測した増収見込みとほぼ一致しており、会員数の減少にほとんどつながらなかったことを考えると、2021 年度の会費値上げは計画どおりの効果を得たといえます。ただし、財政改善は値上げだけで目標が達成できるものではないため、路線の見直し、効率化も並行して検討しています。2021 年度は、主に停留所の改廃を行いました。

(3) 「EVE, My 青春！」の継続実施と実施場所等将来設計の検討 ★

2021 年度で 40 回目を迎えたこの行事は、在校生・既卒生にとって誇りの持てる伝統行事のひとつです。予算面・実施場所・規模・今後の教員体制・生徒の力量低下など課題が山積していますが、2021 年度は、愛知県芸術文化センターのコンサートホールと「EVE, My 青春！」発祥の地でもある「旧もちの木広場（現 Hisaya-odori Park メディアヒロバ）」での実施が叶いました。4 年間、実現に向けて動いてきましたが、ようやく形にすることができました。2022 年度もこれらの場所での実施が決まっています。

(4) 校務組織改編についての検討 ★

役職人事や部署の配置および配属人数等、校務分掌全体の組織改編について検討し、次のとおり 2022 年度から新たな校務分掌となるよう組織改編することとしました。具体的には、2020 年度から試行的に生徒指導部と保健部を統合（業務の改革と効率化）して運営しました。

2022 年度からは、保健的観点を生徒指導に取り入れるための機能に重点を置き、養護教諭と保健の専門家としての知見を持つ保健主事のほか、校内での情報連携と提案のための構成員のみに規模を縮小した「保健教育委員会」を新設することとしました。

生徒指導部はその部員、特に担任は、生徒生活指導だけでなく保健的要素の情報共有と運営に携わるようにしました。また学校美化と生徒美化委員会を指導部に移します。

各部署の役割の見直し、併せて勤務時間内での会議のあり方、部活動、学校週番、出勤時刻や校舎管理方法など、働き方改革の視点からも総点検を進めました。部活動については「部顧問配置と部活動・同好会の設置・廃止に関するルール」を検討・推進しました。

2020 年 11 月から本格運用している教育職員の勤怠管理については、勤務時間の見える化が進むうちに時間管理の概念も徐々に浸透し、労働時間管理や年休の計画的な取得などの基本的な部分から意識を高めることができました。

(5) 教職員必携（保存版）の改訂

2013 年度に完成させた教職員必携（保存版）について、包含する様々な規程・内規の変更に伴い全面的な改訂作業を行ないました。2022 年 4 月に、2022 年度版（第 4 版）として発行します。

(6) 2022 年度入試の総合的な見直し ★

これまでの入試結果を踏まえて、入試日程、入試内容、広報活動、入試制度の設計等を年度ごとに見直してきました。その結果、2022 年度入試全体ではおおむね順調な結果であったと考えています。

2022 年度中学入試においては、入学者定員を満たすことができました。一方で高等学校入試では、わずかながら入学者数が定員に及びませんでした。この結果を踏まえて 2023 年度入試は、より多くの志願者を得られるよう、入試広報活動をこれまで以上に積極的に行い、入学者定員を充足させることができるよう努力していきます。

(7) 学校財政の安定化 ★

学納金収入の中長期的な計画、経常費補助金の獲得、寄附金募集の継続等、財政面において収支均衡を目標として収入確保に向けて努めるとともに、本校の将来を見据えた長期的な目標に向けて、主体的

な目線で中長期および単年度の事業計画立案を進めました。とくに広大な校地のメンテナンスコストについては、予算執行段階においても精査しつつ、支出の抑制に努めることにより学校財政の安定化を図りました。新たに寄附金募集の制度を立ち上げ、Web ページや同窓会だよりなどで募った結果、750 万円を超える寄附金や現物寄附が集まりました。2022 年度からはクレジットカード決済可能な一般寄附金の募集も新たに開始し、積極的に寄附金募集を行います。

2. 教育・研究

(1) 大学入学共通テストへの対応 ★

これまでの大学入試動向を踏まえつつ、大学ごとの入試情報や指導方針などを教員間で共有し、新しい時代の進路指導の在り方を全教職員の共通する指導目標に位置付けます。大学入学共通テストについては、引き続き、進路指導部を中心に分析と必要な対策を継続・実施していきます。

(2) 本校における中学・高校の教育課程の改訂 ★

高校の教育課程における選択講座や総合的な探究学習のあり方について校内での研究を進め、中学生募集から高校卒業後の進路指導までの六年一貫の指導の過程を検討しました。新学習指導要領に対応したカリキュラムは完成しましたが、「総合的な探究の時間」については、研修・研究を通して内容の肉付けをさらに進めていきます。

(3) オーストラリア海外研修およびアイルランド語学研修の見直し ★

オーストラリア海外研修・アイルランド語学研修は、2020 年度に続き従来の形態での実施を見送りました。2020・2021 年度は、オーストラリア・メルボルンの姉妹校である MSJ 校と Zoom を活用して生徒間交流を進めるなどしました。2022 年度もこれを継続するとともに、2021 年度から英語科が中心となって進めている国内プログラム（8 月・3 月に実施）をさらに充実させ、国際交流の体験や学びの環境を提供します。

(4) 南山大学・南山大学附属小学校・学園内中学・高校との連携 ★

南山大学附属小学校から本校へ、さらに本校から南山大学への学園内一貫教育の流れを積極的に紹介し、部活動、文化活動での生徒児童間の交流や提携のみならず、教科指導などでの教職員間の人的交流などを進めたいと考えてきましたが、教職員間の人的交流についてはコロナ禍の中にあって、推進できませんでした。

南山大学との協力関係では、学園内オープンキャンパスへの参加や進路ガイダンスでの説明会、心理人間学科の先生にご助言をいただきながら実施されている「ラボラトリー方式の体験学習」や南山大学生による「中学チューター制」、またキャリア教育などを継続して実施しました。

学園内中学・高校間では、学園内諸会議を通して運営上の情報等を共有しました。また、南山大学附属小学校とは進路学習の一貫として聖霊中学校の「見学会・学校説明会」を行いました。

(5) 職業体験やキャリア指導、進路指導の充実 ★

中学 3 年生で実施するハローワーク講座、高校生の活動としての校外事業所でのインターンシップなど、それぞれの学年にふさわしい職業観を育成することを目標に、活動を継続しました。残念ながら中学 3 年生で実施する職業体験はコロナの影響で実施できませんでした。進路指導室、進路資料室の生徒利用に対応するため、さらに内容を充実させました。

3. 施設・設備

(1) 学園共通統合型校務システムの円滑な稼働

学校全体の情報セキュリティポリシーに基づく教職員の個人レベルでの作業に関する利用規程やマニュアル等を教職員全体で共有し、学園共通統合型校務システムの円滑な稼働と効果的な運用を進めました。

(2) 校舎の保守、環境整備 ★

施設設備の保守管理・定期点検等に必要となる経費を見極めながら、年間での保守・環境整備計画を

立案し施工しました。日常を想定した改善の声を常に意識して環境整備を進めました。

(3) ICT 教育機器ならびに教職員利用 PC の更新 ★

新しい ICT 教育機器の導入を実施し、教職員へのタブレット端末配備と教員用 PC の一人 1 台体制や生徒用 ICT 教育機器の試験的導入を始めながら、校務における運用等や学習指導における効果的な活用について研究と実践を進めました。まずは機器に慣れ使いこなすことで、ソフト面での表現の領域を広げました。その成果に基づいて次期 ICT 教育環境の整備計画立案へと繋げました。

(4) 図書館の蔵書管理

まずは、生徒が自宅からでも蔵書検索ができるようにインターネット環境を整備しました。次の段階として、バーコードによる書籍の貸し出しと返却の体制を整え 2 学期から運用できるようにしました。

併せて、すでに除却処分が決まっている書籍の処分や、開架・閉架図書の分別作業を進めました。仕事量に対して人員不足で時間がかかる傾向があるものの、今後も粛々と進めていきます。

(5) 旧修道院の改修についての検討 ★

聖霊の校舎と旧修道院は接続の面で利便性が高いものの、補修や維持管理経費の必要性も無視できません。聖堂の利用を中心とした今後の活用方法や、補修・維持管理について具体的に検討を進めました。

建物の老朽化とその改修費用の財源について検討を進めていく中で、カトリック学校の特色としての聖堂をどのように整備していくかについては、引き続き検討を重ねてまいります。

4. 社会貢献

(1) 募金活動 ★

聖霊降臨祭、クリスマス聖式などの宗教行事において、全校生徒による献金という形態で、聖霊会の関係する様々な事業所への支援を続けました。地球規模の自然災害など国内外の被災地域に向けた、学年単位や生徒会などによる募金活動、UN 系や NPO 法人を基盤にした部活動による諸活動など、積極的に推進しました。

(2) ボランティア活動 ★

夏季休暇中のボランティア活動だけにとどまらず、学校として継続的な支援活動を模索しました。

学年、生徒会、部活動、個人といった資格で参加し、条件やニーズに応じて幅広く参加できました。

(3) 地域との連携 ★

コロナ禍の中、地元幡山地区および山口地区の自治組織や瀬戸市観光協会との連携のほか、中学 3 年生の職業体験などにおいても瀬戸市を中心とした事業所に協力をお願いしてきましたが、実現に至りませんでした。一方で、創立記念式典での伝統行事「花いっぱい運動」では、全校生から集められた花束を瀬戸市長はじめ地域の方々や、様々な施設に感謝の言葉とともに届けてきましたが、2021 年度は生徒手作りのカードを教員が届けました。また、「EVE, My 青春!」のインターネット配信することができたことで、より多くの方へ映像と音声で感謝の想いを届けることができました。

以 上

2021年度聖園女学院高等学校・中学校事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020年度～2024年度)において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

2021年度も新型コロナウイルス感染拡大防止のための危機管理が重要課題となりましたが、その中でも感染防止対策をしたうえで、2020年度は中止となった学校行事および諸活動を、時期や規模を変えつつも再開することができました。また、教育全体と組織を見直す検討も継続し、教育の質を高め、生徒に満足のいく進路を後押しするための様々な計画を立案し、実施することができました。

さらに、「一人の存在は必ず一つの貴い使命(ミッション)をもっている」というライネルス師の言葉を継続してアピールし、受験生の確保に向けて努力を重ねました。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・防災対策として構内通学路「登校坂」の斜面点検調査を実施し、安全性を確認しました。
- ・TEAP、IELTS などへのサポート体制も整えました。
- ・2020年度の高校棟に続き、中学棟のすべての普通教室にプロジェクターを設置しました。
- ・教育環境整備のための新たな財源の確保の一環として、寄附金募集を開始しました。
- ・保護者の時間的制約を軽減するために、Classi 欠席連絡機能サービスを導入しました。

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・MEA(Misono English Academy)を通して、海外研修再開に向けた準備を開始しました。
- ・総合力の育成として、学年ごとにテーマを定めて総合的学習、総合的探究に取り組みました。
- ・自主的な学習習慣を定着させるために、放課後学習支援を継続しました。
- ・新しい生活様式の中で工夫しながら、球技大会、聖園祭を再開しました。
- ・藤沢市「緑と花のまちづくり」学校花だんコンクールで最優秀賞を受賞しました。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 防災対策 ★

土砂災害防止法に基づく土砂災害警戒区域(特別警戒区域含む)に指定されている校地の一部(構内通学路「登校坂」その他)について、予防的対処のための斜面点検調査を実施しました。その結果、登校坂付近については、「特に新たな対応を必要としない」「現状安定している」との評価を得ることができ、2022年度からの利用再開を決定しました。ただし、「定期的な確認を行い、変状が確認された場合の補修等の対策をとることが望ましい」との意見が付されたため、今後斜面の定期点検回数を増やします。また、学校の防災体制について、対応マニュアルの整備に努め、訓練内容も再検討していきます。

2. 教育・研究

(1) 国際教育の充実 ★

新型コロナウイルス感染により、放課後のMEA(Misono English Academy)は2020年度に続きオンラインで実施しましたが、参加状況は良好でした。また、TEAP、IELTS などへのサポート体制も整えました。また、海外文通も順調に進んでおります。

3. 施設・設備

(1) 管理棟・中学棟 非常用火災報知設備更新および煙感知器改修工事

災害を始めとする危機対応に備え、老朽化による誤作動や発報の不具合を防ぎ、必要な動作や情報が

確実に得られるべく、非常用火災報知設備の更新および煙感知器の改修工事を行いました。

(2) 中学棟普通教室プロジェクター設置 ★

2020 年度に高校棟に設置したことに引き続き、中学棟普通教室にもプロジェクターを設置しました。本校では生徒一人一台の iPad を貸与し、生徒自らが学びの成果を発信する機会を設けていますが、これにより多くの教科の授業において、さらに発信する機会が増え、生徒の自学自習の意識を高めることができました。

(3) 教員用 PC およびサーバ更新

授業での活用はもちろん、学校運営においても ICT を活用する場面が増えていきます。働き方改革も意識しながら、より迅速に、効率的な処理ができるよう更新を行いました。

(4) 校内 LAN 設備の調査

文部科学省の GIGA スクール構想を背景として、本校の ICT 教育の進展を図るためには、全校生徒に貸与している iPad のインターネット接続の不具合を解消し、通信品質の一層の向上が不可欠です。現況設備の接続状況を調査し、2022 年度内に校内 LAN 設備の更新実施を目標に、適切な機器選定のための情報を収集しました。

4. 社会貢献

(1) ボランティア活動 ★

新型コロナウイルスの感染状況から、各施設と連携しての活動は中止となりました。校内活動において、「赤い羽根共同募金」「カリタスジャパンクリスマス募金」に加え、「カンボジアまごころお届けプログラム」に参加しました。

5. その他

(1) 新学籍システム導入準備

2022 年度からの高校学習指導要領改訂に向けて、いくつかの校務支援システムを比較検討しながら、新しい学籍システムの導入の準備を進めましたが、学園内高中校で統一したシステムを導入し管理する方針のもと、2023 年度の導入に向けて再度準備を進めることとしました。

(2) 神奈川私学修学支援センター利用

登校困難な生徒が、支援を受けるために通室しました。2022 年度も学校として神奈川私学修学支援センターの利用を支援し、継続して通室する予定です。

(3) 寄附金募集

本校における校内設備、学校生活改善に対する支援等教育環境整備を行うための新たな財源の確保として、卒業生、在校生および保護者、趣旨に賛同いただける一般の篤志家の方々等に向けて、広く寄附金の募集を開始し、同窓生および地域にお住まいの方から寄附の申込がありました。

(4) 欠席等連絡受付方法の変更

従来の電話による欠席等連絡受付は一部残しつつ、新たに Classi 欠席連絡機能サービスを導入しました。保護者からは時間的制約を気にすることなく連絡することができると好評であり、学校にとっても事務処理のミスリスクが解消され、保護者との連絡の行き違いがなくなりました。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 宗教性の涵養 ★

新型コロナウイルス感染症等の影響により、2021 年度も規模を縮小しての活動となりましたが、6 月の聖心のミサ、11 月の追悼ミサおよび 2 月の卒業ミサをそれぞれ 2 学年ずつ、クリスマスミサは 2 学年ずつ 3 回に分けて実施しました。また、聖書朝礼は 1 学年ずつ 2 回実施しました。これらのミサや聖書

朝礼を通じて、カトリック校としての生徒の宗教性を育むことができました。

(2) 国際性の涵養 ★

高校2年生3名がアメリカ、カナダでの一年留学に参加しました。中学3年次のニュージーランド中期留学がきっかけとなったということです。2022年度のカナダ、ニュージーランドへの海外研修再開の兆しが見えてきたため、2021年度後半はMEAを通して準備段階に入りました。生徒の国際性の涵養を継続していきます。

UPAS(University Pathway Admission Service)加盟校として、推薦入試制度を利用した海外大学進学支援を行うためオンラインによる説明会を数回実施しました。また、台湾やヨーロッパの大学進学を希望する生徒への情報を提供しました。

スタンフォード大学およびシリコンバレーでSTEAM教育を体験できるプログラムに中学生複数名が申し込みましたが、新型コロナウイルス感染により渡航できませんでした。

(3) 留学支援のための奨学金制度

2021年度は新型コロナウイルス感染により留学は実施できませんでしたが、2019年度開始のニュージーランド、Sacred Heart College, Napierでの1年留学および、2014年度から実施しているニュージーランドでの中期留学に、引き続き給付型奨学金の支給を予定しています。生徒・保護者への負担の軽減と、参加意欲の促進、また中学入試の広報活動へのPRにもなっています。

(4) 総合力育成 ★

課題解決のための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度の育成を目指し、学年ごとにテーマを定めて総合的な学習、総合的な探究に取り組みました。成果はクラスや学年単位でのプレゼンテーションで発表することにより、他者に表現する力を磨きました。中学生は取り組みを通じ、「調べる・まとめる・表す」という総合力の基礎を高めました。高校生はSDGsをテーマとしてグローバルな視点を身につけるとともに、中学生で身につけた基礎を土台として「対話・提案・質疑応答」の能力を高めました。

(5) ICT活用 ★

各教科の特性に応じて、アクティブラーニング等の教育方法を研究する中で、ICT機器を積極的かつ適切に利用するための研究を進め、オンライン授業などで活用しました。

(6) 放課後学習支援 ★

自主的な学習習慣を定着させるために、教員による講習・補習の環境を整備しました。また、平日18時までは自習用の教室を準備し、授業の予習復習、宿題をはじめ、検定試験、大学入試に備えた学習環境を充実させました。外部業者を利用した大学生によるメンター制度の導入と教科・クラス担当者による事前指導により、より効果的な取り組みにつなげることができました。また、利用生徒の入退室を管理する入退室システムを導入することで、生徒がより利用しやすい環境を整えました。

さらに、進路実現に向けて、高校生のうち希望者を対象に外部講師による大学受験指導の講座を実施しました。2021年度は受講希望のあった高校1年生・2年生の英語および数学の講座を開講しました。

2. 教育・研究

(1) シラバス改良、評価方法研究、試験作成研究

2022年度の高校学習指導要領改訂に向けて、新カリキュラムの作成と授業と評価のあり方を研究し、2022年度からの新教育課程を作成しました。

(2) 補習・講習・自習 ★

長期休業中の補習・講習・自習について、これまでの反省点を活かすとともに、教科横断型など様々な形態の取り組みも積極的に取り入れられる環境を整えました。

(3) 現地研修・校内研修 ★

中学3年生全員が2泊3日で京都と奈良に出向き、日本の伝統文化への理解を深めるための研修を計

画しましたが、新型コロナウイルスの感染拡大のため計画を中止としました。代替行事として、校内でのVR現地研修、日帰りでの箱根研修を実施しました。

高校2年生全員は現地研修で3泊4日で長崎と平戸に出向き、「祈りと平和」について思いを深めるための研修を行いました。

その他、中学1年生の祈りを中心とした校内研修、中学2年生の鎌倉研修、高校1年生の「愛といのち」の研修、さらに、中学1年生・2年生の、「相互尊重とコミュニケーション能力の育成を目指すプロジェクトアドベンチャー研修」によって、心と体の体験学習の取り組みを継続しました。

(4) 聖園祭・球技大会

新型コロナウイルスの感染状況を踏まえ、感染防止対策を徹底し、実状に合う内容・プログラムに変更し、実施しました。聖園祭は、緊急事態宣言下において、9月開催予定から10月に延期開催となりました。各行事ともに、生徒会活動の一環として、委員会による企画・運営により、新しい生活様式の中での取り組みを工夫し、成果を上げることができました。

(5) 芸術鑑賞教室

生徒の情操発達に資する演目の選択とコロナウイルス感染症予防対策を講じながら、東京サロンシンフォニーオーケストラに依頼して、11月18日（木）に本校講堂にて実施しました。

3. 施設・設備

(1) 省エネ活動・環境保全・美化活動

全校で取り組んでいる節電・節約を通じて、地球環境への負荷を意識し、自らの生活を顧みる取り組みを、継続して行いました。また、聖園生全員で取り組んでいる清掃活動を通じて、自ら進んで環境美化に努める意識を育みました。さらに、藤沢市「緑と花のまちづくり」学校花だんコンクールで最優秀賞を受賞しました。

4. 社会貢献

(1) ボランティア ★

新型コロナウイルスの感染状況から、各施設と連携しての活動や街頭での活動は中止となりましたが、校内活動において、生徒会が中心となって、震災募金・歳末助け合い募金・共同募金を、高校1年生が「赤い羽根共同募金」に参加しました。

5. その他

(1) Webによる出願

Webによる出願、入学金納入に関するシステムを継続しました。現金取り扱いのリスクが大幅に低減するとともに、今後も幅広い地域からの出願をしやすくすることにより多くの受験生確保に努めます。

(2) 積極的な入試広報活動 ★

校内外の説明会・見学会・外部模試の実施、全教育職員による塾訪問、Facebookを始めとしたWebページの充実と最新情報の発信を継続するとともに、2021年度から入試過去問題集の出版・書店販売を新たな活動として導入しました。

(3) 試験採点システム導入準備

試験採点の効率化および試験結果の有効活用のため、いくつかのシステムを比較検討する予定でしたが、新教育課程の作成などを優先して2021年度は準備を進めることができませんでした。2022年度以降、改めて準備を進めます。

(4) 中学入試期間中の緊急時対応体制の整備

地震、大雪などによる試験開始日時の延期等を受験生および受験生保護者に迅速で分かりやすく伝えるとともに、入試実施中の緊急事態に備え、各部署で対応方法を検討し、一元化する仕組みを継続しました。また、神奈川県主催の、新型コロナウイルス感染により受験できなかった場合の追試験も積極的に利用し、受験生に安心感を与え機会提供を行いました。

(5) 他校との交流 ★

高等学校家庭科の授業における、従来の聖園女学院附属聖園幼稚園での保育実習に加え、夏期休業期間を利用しての南山大学による模擬授業、海外留学を経験した南山大学学生による国際交流活動に係る意見交換、ならびに南山大学スタッフによる入試説明会を行いました。

県内カトリック校との交流は、新型コロナウイルス感染症等の影響により、慎重を期した判断のもと、2021 年度も実施できませんでしたが、クラブ活動その他様々な活動で、新型コロナウイルス発生前の、通常の活動に戻すことができるように取り組めます。

以 上

2021年度南山大学附属小学校事業報告

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

本校は、「校訓を体現する児童」「知的・精神的側面において高度に磨かれた児童」「真のリーダーシップを発揮する児童」「自らに与えられた使命を自覚する児童」の育成を目指しています。2021年度もこの目標に向け、全学年にわたり、家庭および地域との教育連携を得ながら、一人ひとりの児童を慈しみ深く、時に厳しく、育てました。2021年度も、2020年度からの続いている新型コロナウイルス感染症への対策を講じながらでしたが、南山学園のモットー「人間の尊厳のために」の実現を大切に、活動を行いました。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・4年生以上の一人1台タブレット端末の活用を推進しました。
- ・3年生以上は宿泊学習に代わる校外学習を実施しました。

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・「南山小学校ならではの学習」を展開しました。

II. 新規事業

1. 学校全体

(1) 総合的な学習「とびら」の時間の設定

「とびら」の時間については、コロナ禍ということもあり、想定していた活動を縮小したり、個人活動中心にしたりという変更を行った上で、可能な範囲の探究的な学習を展開しました。発達段階と宗教の基本方針をふまえた重点（探究課題）を各学年で設定し、児童の実態に合わせた活動内容を工夫することができました。また、「とびら」の時間数のうち10時間をプログラミング教育の時間にあて、実施しました。

(2) タブレット端末の活用推進

2014年から取り組んできた33台のiPadの利用実験をもとに、1学年分のiPadを導入し、活用を推進しました。「タブレット端末の利用によって、写真や図形を自在に活用しながら課題をまとめることができる。」「お互いの意見を述べるだけでなく、タブレットで見せることによって議論も理解も深まる。」などのメリットを活かすことができました。

(3) St Brigid's Catholic Primary School との姉妹校提携に向けて

コロナ禍のため、実現できませんでした。

(4) 働き方改革の推進

休憩室の整備に向けて準備を進めました。出退勤時間の適正な把握のために、タイムレコーダーを導入しました。有給休暇および時間年休についても学校としてさらに取得を促進しました。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 特別支援教育の連続講座

「かけがえのないあなたと私のために」の理念を実現するために、誰に対しても受容的である学校風土をつくることに努めています。2021年度は、コロナ禍のため、講演会を実施できませんでしたが、コ

ナ禍がある程度終息した段階で特別支援連続講座の再開について検討していきます。

(2) 個別支援教育の構築

教育的な配慮が個別に必要な児童に対しては、家庭との連携を積極的に図り、継続的な面談による支援を行いました。

2021 年度も 2020 年度に引き続き、定期的にスクールカウンセラーに来校をお願いし、児童の支援、必要に応じて個別支援について、より効果的な支援体制を構築しました。個別支援が必要な場合は、保護者との話し合いを通して、「合理的な配慮の提供」をしました。

(3) 家庭との連携

2021 年度は、1 学期末に担任による Zoom での保護者面談を実施し、保護者の不安にできるだけ寄り添うことを大切にしました。3 月に実施したクラス懇談会も Zoom で実施しました。コロナ禍の中でも保護者の不安に丁寧に耳を傾け、気持ちに寄り添っていくことができました。

2. 教育・研究

(1) 学習指導

2021 年度は、2020 年度の個人研究（研究テーマ「わかる」「できる」「考える」すなわち、「学ぶ」喜びを感じられる授業づくり）を通して見えた課題の一つである「書く活動」に力を入れた授業づくりを行いました。全教科で同じテーマに取り組んだことで、児童の「書く力」の向上のための手立てや工夫を多面的に見出すことができました。

また、2020 年度に引き続き、各教科における新型コロナウイルス感染防止のためのガイドラインに則りながらも、児童の学びを保障する学習指導の工夫をすることができました。特に感染拡大が心配された 9 月と 1 月、その他学級閉鎖や学年閉鎖期間には、積極的にオンライン授業を行いました。どの教科・学年も、前年度以上に双方向の学習を展開することができました。

(2) 英語教育

2021 年度は、2020 年度行った高学年の授業時間の変更（20 分から 45 分へ）に伴ったカリキュラムの改善の有効性と改善点を、授業実践を通して確かめ、安心・安全に学ぶべく、授業や家庭での学習にさらなる ICT の活用を積極的に取り入れました。復習のための教育的なゲーム等の配信やコミュニケーション能力の育成と、実践の場で活用できる姿勢・能力の育成を一層重視した指導について、研究的な実践を積み重ねました。英語に触れられる安心・安全な環境づくりを意識し、英語科教員との交流の場を授業時間以外にも多様に展開することができました。

(3) 海外研修旅行と学校間交流 ★

コロナ禍のため、海外研修は実施できませんでした。

台湾聖心小学校との学校間交流も実施できませんでしたが、代わりにオンラインでの交流を 5 年生の各クラスで行いました。

(4) 生活指導

2021 年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、状況に応じた対応を行いました。遊具や教室での遊び道具を使用する事前、事後の手指消毒の徹底もしました。また、朝の検温を毎日家庭で行い、「リーバー」というシステムを使って学校に記録を送信していただきました。学校と家庭の両方で児童の体調管理を把握するのに有効でした。また、夏場の熱中症対策として、学年 1 台、ウォーターサーバーを設置しました。

生活時程改定による休み時間の過ごし方については、生活の重点目標として示しました。授業準備をきちんと行うこと、チャイムで始業すること等を伝え、休み時間にすべきことを習慣にしたり、「鳥のさえずり」の音を流したりして、落ち着いた生活を進んで送ることができるよう意識づけを行い、今後も指導を継続していくことが必要です。

2022 年度入学児童より、衛生面の観点からエプロンを長袖つきの物に、体操服に名札を付けることに

しました。

(5) 中学接続に係る取り組み

児童への進路指導については、個別指導に力を入れました。きめ細かな対応ができるよう家庭との連携を重視し、学習面・生活面で改善が必要な児童を対象に保護者と共に面談を繰り返し、計画的に行いました。第4、第5学年で1回、第6学年で2回、また必要に応じて担任との面談、個別の進路面談を行いました。特に推薦を希望する児童・保護者との話し合いをもつことで、個に合わせた進路指導に努めることができました。担任とも指導について連絡を取り合い、学力面をフォローしました。2022年度も児童の進路指導について、家庭に寄り添いながら、児童の個性が伸びるようにしていきます。

(6) 大学・高校・中学との連携

学園内連携推進協議会のもと、小中高協議会や小学校・大学連絡協議会で互いに共通理解を図りました。さらに多くの関係者が参画し、実施形態が多様化していくよう推進します。中学・高校教員との合同研修会についても検討していきます。

(7) 児童の自治的活動

新型コロナウイルス感染予防のために実施が遅れていた委員会、クラブ活動は、10月の下旬にスタートすることができました。その後、新型コロナウイルスのまん延により、1月から実施できなくなりましたが、わずかな期間に組織決めや活動計画づくりを行いました。感染予防をきちんと行ったうえで、あいさつ運動やポスター、新聞づくりなど、できる活動に取り組みました。6年生を送る会では、各学年が動画を作成し、全校で視聴しました。これによって縦割りのつながりを深めることができました。2021年度は、2020年度に導入したICT機器を活用したアイデアを継続し、さらに発展させることで、児童の自治的な活動の幅を広げていくことに取り組みしました。

新型コロナウイルス感染症の拡大が収まらず、委員会の時間を3時間しかとることができませんでした。しかし、挨拶運動や消毒の声かけなどの常時活動や、録画による音楽集会、長縄跳びのペアクラスでの練習など、できる活動を工夫することはできました。クリスマス会や6年生を送る会などの行事も2020年度同様に録画を中心に実施することができました。できる活動を考えることが、児童の自主性を高める機会ともなりました。

(8) 児童の安全の確保

2021年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、登下校時の自動車送迎を認めました。残念ながら苦情が寄せられましたが、その都度、南山小通信や見届けによる対応を行いました。「保護者会わかみどり」の方の協力もあり、マナーも改善していきました。

また、2年生、3年生対象の防犯キッズプロジェクトや全校児童による避難訓練を実施しました。新型コロナウイルス対策を行いながら児童自らが自分の命を守る術を知ることができる体験活動や訓練ができました。

一か月に一度、グラウンドの設備点検を行いました。その都度整備をし、児童が安心して学校生活を送ることができるよう努めました。

(9) 教師力の向上 ★

2020年度各自の研究を通して明らかになった「成果と課題」について交流したことで、学校全体として重点的に取り組むとよいことについて考えた結果、2021年度は、「書く活動」を重視した取り組みを通して、「自分の学びを豊かに表現することができる子の育成」を目指しました。毎月教科部会を行い、それぞれの取り組みを共有することで、教科としての成果と課題を明らかにしました。2月には、各教科の研究のまとめを全体共有しました。2022年度は、学校公開も見据えて、研究を進めていきます。

また、2021年度6月に4年以上の児童に配付されたタブレット端末を活用し、各教科で工夫しながら授業を展開することができました。2022年度は、より適切かつ効果的なタブレットの活用を目指し、教員の研修を充実させていきます。

3. 施設・設備

(1) 校内施設の改装

今後使う見込みのない外調機が設置されていた場所から外調機を撤去し、教職員の休憩室として整備する準備を進めました。グループ学習室に壁や扉を設置し、一般教室と同じように温度管理された環境となるようにしました。

4. その他

(1) 広報活動

2021 年度も引き続きコロナ感染拡大予防の観点から、本校への来校、参観を控えてもらう中での広報活動となりました。しかしながら、本校への入学を希望する保護者の方々は、来校することを強く求めており、実際の様子を伝えていくところに課題がありました。そこで、学校パンフレットの改訂、動画配信の充実、幼稚園雑誌への記事掲載や学校説明会の折り込み広告など、継続して取り組んできました。また、Web による情報発信についても多く行い、情報を公開するように努めました。

2022 年度は、オンライン出願の広報をはじめ、学校情報の積極的な公開、発信を心掛けていきます。

(2) 保護者へのカウンセリングの広報およびカウンセリング事業

2021 年度も、教育相談担当者へカウンセリング予約ができる体制、南山大学保健センターから助言を受けられる体制を継続しました。コロナ禍のため、南山大学人間関係研究センターと連携した子育て支援講演会を Zoom で実施しました。子育て支援グループの会合については、6 月から毎月 8 回 3 グループ実施でしました。2021 年度は、コロナ禍で保護者同士が会う機会がなかなかもてない状況のため、会合の実施を希望する参加者が多くいました。また、保護者のカウンセリング予約に対しては、認知度が高く、利用者が多い状況でした。

(3) 地域との連携 ★

コロナ禍のため、取り組みは限定的でしたが、隼人池花壇の整備は、保護者会の支援を得て行いました。

また、生活科の学習で、地域の商店や施設を訪問し、それぞれの方々の思いにふれながら、地域の方々の働きに感謝の気持ちをもつことを大切にしました。

以 上

2021年度聖園女学院附属聖園幼稚園事業報告

★は「南山学園中期計画」（2020年度～2024年度）において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

新幼稚園教育要領の改正で、『より良い学校教育を通してより良い社会を創る』を目標に掲げ、「保育者の祈り」にある『次の世界を担う幼い子どもたちが神様の呼びかけに応じて意義のある人生を歩むために。』保育しました。そのために様々な課題に挑戦し、考える力、行動力、伝える力、協調性を身につける環境づくりに取り組み、園児一人ひとりの個性を認め合いながら、社会へ対応できる土台作りに力を注ぎました。また、学園の共通の教育モットーである「人間の尊厳のために」を通して、誰もが大切な命であることを、お祈りや保育を通して、丁寧に伝えていきました。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・紙芝居や絵本、制作活動、体験を通して季節の行事を学ばせ、知的理解教育を促進しました。
- ・聖劇を通して宗教性教育を促進しました。
- ・拡張した園庭を利用して戸外遊びを充実させるとともに、正課の体育授業も行いました。
- ・安全、快適な環境整備のため、園舎の外壁修繕工事を行いました。
- ・バス位置情報アプリを活用し、スクールバス利用者の利便性（待ち時間の短縮など）を向上させました。

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・園児の幅広い能力を高めていく環境づくりに取り組みました。
- ・保護者との協力体制を深め、子育て支援に取り組みました。
- ・季節の行事を学べる絵本や、言葉遊びを楽しむしりとり絵本を購入し、保育に取り入れました。
- ・クリスマス献金を通して、社会貢献や命の大切さを育みました。
- ・修道院や老人ホームに訪問し、園児からの手紙や絵、歌をプレゼントしました。

II. 新規事業

1. 教育・研究

(1) 知的理解教育の促進

幼児教育において重要な役割を担っている季節の行事は、紙芝居や絵本、制作活動を通して内容や意味を学びます。2021年度は雛人形を整備し玄関に飾ることで興味を持たせ、保育者とのやり取りの中で学ぶ時間を充実させました。

(2) 宗教性教育の促進

聖劇の衣装を新調し、クラスで協力し合いながらイエス様の降誕をお祝いしました。また、練習を通してクリスマスの意味を学びました。

(3) 戸外遊びの充実

2019年度に拡張した園庭を活用し、戸外遊びが思いきり楽しめるようになり、正課の体育授業も戸外で行うことができるようになりました。

2. 施設・設備

(1) 外壁修繕、排水管洗浄調査および2階サッシ結露対策工事

安全、快適な環境整備のため外壁修繕を行い、園舎も明るい印象になって保護者からも高評価をいただきました。また、築30年経過する園舎の排水管点検、洗浄を行い、継続して使用することが可能となりました。

なお、2 階サッシ結露対策工事は、新型コロナウイルス感染防止として換気を増やしたところ、結露が改善されたため、施工を取り止めました。

3. その他

(1) Web ページ開設による広報活動の充実

園児募集を始め保育や行事の発信をしましたが、特に年度前半は新型コロナウイルス感染拡大のために保育活動も縮小せざるを得ず、定期的な発信をすることができませんでした。2022 年度は、より積極的に取り組んでいきます。

(2) バス位置情報アプリの活用によるスクールバス利用者の利便性の向上

バス位置情報アプリを活用することにより、位置情報、遅延状況の把握、また待ち時間が軽減されました。特に、天候の悪い日にはその活用が大いに役立ち、保護者からも好評をいただきました。

Ⅲ. 継続事業

1. 学校全体

(1) 教育プログラムの見直しの継続

幼児期に必要な心身の調和の取れた人間教育を目指して日々保育を行いました。幼児の幅広い能力を高めていく環境づくりを継続し、体力増進に向けて正課の体育授業を行いました。鉄棒、マット、床運動などに 1 年をとおして裸足で取り組んでいます。

また、夏に聖園女学院高等学校の生徒約 30 名が保育実習のために来園し、園児達と水遊びを通して幼児教育を学ぶ機会を提供しました。園児の視線に合わせて話をする姿は微笑ましく、楽しい時間を過ごしました。

(2) 保護者との協力体制

保護者に寄り添う、心通い合うつながりを目指して日々努力しました。新型コロナウイルス感染拡大の影響でクラス懇談会は行うことができませんでしたが、安心して園児を預けてもらえるよう、幼稚園での様子を園庭から見ていただき、日頃歌っている歌を担当と披露しました。

個別面談では、幼稚園での様子を丁寧に伝え、日頃の取り組みに理解を深めてもらえるようコミュニケーションを図り、保護者の育児相談にも応えました。

(3) 危機管理体制の継続

園児の安全のため、保護者の来園時には保護者カードを携帯するようにお願いしました。降園時には、保護者カードを提示し、名乗ってから園児を引き渡すよう徹底しました。

新型コロナウイルス感染防止対策としては、次亜塩素酸ナトリウム空間除菌脱臭機や小型オゾン除菌・消臭機、加湿器を毎日活用し、日々の保育室等の消毒も継続して取り組みました。

(4) 子育て支援に関する援助 ★

保護者の要望の多い預かり保育、給食、満 3 歳児の保育を継続して行っています。預かり保育では利用者が増え、長期休みには一日 57 人の利用がある日もありました。家庭教育の温かさを保ちながら、安心して預けてもらえるよう継続して努めます。

2. 教育・研究

(1) 絵本の充実

絵本の貸し出しは、新型コロナウイルス感染防止の観点から 2021 年度も実施できませんでしたが、季節の行事を学べる絵本を購入し、保育に取り入れました。また、しりとり絵本を取り入れ、言葉遊びを楽しむ機会を増やしました。

3. 社会貢献

(1) プレ保育の実施 ★

2019年度から開始したプレ保育では、コロナ禍であったものの多くの方々が様々な活動に参加し、幼稚園生活の楽しさを体感していただきましたが、入園に繋げることはできず課題が残りました。2022年度は活動に変化を持たせ、幼稚園の魅力をより発信できるようにしたいと考えています。

また、新型コロナウイルス感染防止の観点から、保護者同士の分かち合いの場は園庭での見守りの中で行い、教員への子育て相談も少人数の受け入れに留まりました。

(2) クリスマス献金 ★

カリタスジャパンの献金箱を配布して、聖劇を終えクリスマスのお祝いの日、クリスマスを迎える心の準備の一つとして世界中の困っている子どものために、全園児が献金を行いました。

(3) 勤労感謝 ★

園内清掃や給食の配布、洗濯等をしてもらっている用務の方へ感謝の気持ちを伝え、プレゼントを渡しました。また、通園バスの運転手、お芋ほりでお世話になった畑の方々へ園児達のプレゼントを渡しました。

(4) 修道院への訪問 ★

聖心の布教姉妹会修道院へ園外保育で訪問し、敷地内でドングリ拾いをしました。拾ったドングリとお芋ほりで収穫したつるでリースを作り、後日お届けしました。

(5) 老人ホームへの訪問 ★

老人ホーム「アンナの家」を年長児希望者で訪問しました。幼稚園の歩みを知り、触れ合い、歌を披露しました。

(6) エコキャップの回収

「世界の子どもにワクチンを」という願いのもと、家庭からの協力を得て使用した飲料水のキャップを回収し寄附を行いました。コロナ禍で回収量は減りましたが、継続して行っています。

以 上

2021年度聖園女学院附属聖園マリア幼稚園事業報告

★は「南山学園中期計画」(2020年度～2024年度)において取り組む事項と関連している項目です。

I. 2021年度事業の概要

保育料の無償化により保育料の高低に関わらず幼稚園・保育園選びができるようになり、他園との差異化を図ることが重要となってきました。本園の特色である「おいのり・親切・がまん・ありがとう」を大切に心身のバランスのとれた成長を促し、保育の質の向上を心掛け、園児と保護者の心に寄り添う保育を目指してきました。新型コロナウイルス感染状況を注視し、実施方法を見直しながら園児や保護者、保育者の安全・安心を心掛け可能な限りこれまでの内容を基本とする事業計画を以下の通り進めました。

2021年度に新規で実施した主な事業は次のとおりです。

- ・軒天井の破損が目立ち始め、剥落を防ぐために、下がり天井部の改修工事を行いました。
- ・Webページの活用と広報ツールを工夫しながら常に新しい教育内容や幼稚園の情報を発信し、園児募集に努めました。

2021年度に継続して実施した主な事業は次のとおりです。

- ・園児および教職員の安全・安心を守るための新型コロナウイルス感染防止対策を継続しました。
- ・子育て支援事業としての未就園児対象「ひよこらんど」を継続し、園児募集に繋げました。
- ・新型コロナウイルス感染防止対策により修道院・シニアホームへの訪問は実施できませんでしたが、敬老の日に合わせて園児がつくったプレゼントを届けました。
- ・預かり保育を充実させるために、時間延長に関するアンケートを実施し2022年度に向けて規程の改正を行いました。
- ・これまで在園児の弟妹で構成してきた満3歳児の受け入れを将来の園児確保につながるよう新規の受け入れを拡張しました。

II. 新規事業

1. 施設・設備

(1) 園舎下がり天井部改修工事

園舎老朽化と暴風雨の影響による軒天井の破損が見られるようになり、剥落防止のために改修工事を行いました。素材を石膏から暴風雨に強いアルミ板にすることでメンテナンスサイクルの長期化が見込まれ、見た目にも優れたものとなりました。

2. その他

(1) Webページ開設による広報活動の充実

2020年度に本園独自のWebページを開設しました。随時、教育活動や行事等の新しい情報を広く発信することが可能となり、園児募集を始め、外部の方への行事連絡等に活用しました。

III. 継続事業

1. 学校全体

(1) 新型コロナウイルス感染防止対策の継続

2020年度に整備した次亜塩素酸空間除菌脱臭機や小型オゾン除菌・消臭機、加湿器などを行事や課外活動で活用し、消毒などの日々の取り組みも含め継続しました。園医との連携を強化し、園での対策

や保育の様子を、Web ページ等を利用して発信すると共に、園児や保護者が安心した園生活を送れるように努めました。

2. 社会貢献

(1) 子ども子育て支援事業「ひよこらんど」の開催(動画配信)

未就園児対象「ひよこらんど」の参加者の過半数が入園していることから、この事業の存在が園児獲得に大きく貢献していることがわかります。同時に、コロナ禍で外出もままならない中、家庭でどのように過ごしたらよいのか悩んでいるという保護者の声が聞かれます。幼稚園への来園が難しい状況であり、当初は動画配信で対応する予定でしたが、新型コロナウイルス感染状況をみながらホールや園庭を活用し、動画を配信することなく、「ひよこらんど」を実施することができました。来園して幼稚園の雰囲気を感じ、親子で楽しむことができる場や、子育ての悩み相談をしやすいきっかけ提供を心掛け、専任教諭が実施することで保育を体験できる内容を取り入れ充実させました。

(2) 園児の活動の動画撮影と上映

新型コロナウイルス感染防止の観点から、聖心の布教姉妹会修道院・シニアホームを訪問することを控えました。また、園児の日頃の活動の動画撮影と修道院・シニアホームで上映の機会は実現できませんでした。代替措置として、園児がつくったプレゼントを届け、互いの様子を撮影した写真での交流を持つことができました。

3. その他

(1) 預かり保育の充実

預かり保育の実施が、園児確保の大きな要因になっています。保護者へのアンケートを実施し、保護者のニーズを踏まえた時間延長を検討し、2022 年度から実施することになりました。

(2) 満3 歳児保育

これまで、現在の在園児を鑑みながら「在園児の弟妹」という条件で変則的に受け入れてきましたが、より多くの未就園児と早い段階でかかわりをもつことが将来の園児獲得に有効と考え、新規の受け入れを広げ、入園時期を5 月からとして保育活動を強化しました。

以 上

学 園 に 貢 献 し た 人 々

2021年5月1日現在

南山学園名誉学園長

氏名	年月日
Albert Bold	1987. 12. 11

南山学園長

氏名	年月日
Aloysius Pache	1949. 3. 29～ 1957. 3. 31
沼澤喜市	1957. 4. 1～ 1970. 3. 31
Albert Bold	1983. 4. 1～ 1987. 12. 10
Pedro Simón	1999. 4. 1～ 2004. 3. 31

名古屋聖霊学園長

氏名	年月日
Pia Anna Heimgartner	1948～ 1953
Hildebelta Anna Weig	1953～ 1960
嶋美恵子	1960～ 1970

南山大学名誉学長

氏名	年月日
Aloysius Pache	1969. 6. 18

南山大学名誉博士

氏名	年月日	種類
Karl Tacke	1962. 10. 3	文学
Ralph Thyken	1966. 6. 28	経済学
August Mölle	1966. 7. 20	文学
Reinhold W. H. Baur-Krey	1966. 12. 14	経済学
H. C. Prälat Joseph Teusch	1974. 11. 4	経済学
松本正夫	1974. 11. 4	文学
Maria Müller-Lüttgenau	1977. 5. 25	経済学
Karl Rudolf Höller	1977. 5. 25	経済学
桑原幹根	1977. 5. 25	文学
Friedrich Kronenberg	1982. 11. 26	経済学
Michael Joseph Mansfield	1986. 7. 2	文学
三宅重光	1986. 7. 2	経済学
豊田英二	1989. 11. 29	経営学
Willy Kraus	1989. 11. 29	経済学
小島鍬次郎	2002. 6. 29	経営学

南山大学名誉教授

氏名	年月日
Ralph Thyken	1952. 5. 19
Arundel del Re	1954. 4. 20
Martin Gusinde	1965. 1. 26
野崎勝太郎	1970. 4. 1
木村太郎	1971. 4. 1
工藤 肅	1971. 4. 1
大庭征露	1971. 4. 1
沼澤喜市	1973. 4. 1
Alfons Migdalek	1973. 4. 1
村松恒一郎	1974. 4. 1
戸田正志	1974. 4. 1
直井 豊	1974. 4. 1
Georg Gemeinder	1976. 4. 1
国分敬治	1978. 4. 1
今川憲次	1978. 4. 1

小林知生	1978. 4. 1
Konstantin Guddorf	1979. 4. 1
Henry Van Straelen	1979. 4. 1
岸田準一	1979. 4. 1
小松日出雄	1979. 4. 1
井上紫電	1979. 4. 1
Anton Lämmerhirt	1980. 4. 1
Alphonse Hotze	1980. 4. 1
小島公一郎	1981. 4. 1
斎藤隆助	1981. 4. 1
八木 弘	1981. 4. 1
Edward Grzenia	1982. 4. 1
元川房三	1983. 4. 1
Hirschmer, Johannes	1983. 6. 16
Artur Lang	1984. 4. 1
Julius Abri	1984. 4. 1
George Pope	1984. 4. 1
松浦一郎	1984. 4. 1
中村 精	1985. 4. 1
Albert Bold	1987. 4. 1
佐藤哲夫	1987. 4. 1
宮内 璋	1990. 4. 1
長坂源一郎	1990. 4. 1
卜部小十郎	1990. 4. 1
Maria Josefa Sarrasin	1991. 4. 1
伊藤孝一	1992. 4. 1
宮川茂夫	1992. 4. 1
石黒 毅	1993. 4. 1
森 茂也	1994. 4. 1
加藤道夫	1994. 4. 1
松山昌司	1994. 4. 1
大雄令純	1994. 4. 1
Albert Dewald	1994. 4. 1
泉 ひさ	1995. 4. 1
阿江 茂	1995. 4. 1
Louis Hanzel	1995. 4. 1
Charles Jarrot	1996. 4. 1
内藤克彦	1996. 4. 1
西脇 博	1996. 4. 1
Jan Van Bragt	1996. 4. 1
Jan Swyngedouw	1996. 4. 1
鎌田信夫	1996. 4. 1
進藤義治	1996. 5. 26
明石陽至	1997. 4. 1
杉山俊治	1997. 4. 1
須磨千頼	1997. 4. 1
末重正行	1997. 4. 1
飯原慶雄	1998. 4. 1
倉田 勇	1998. 4. 1
Eugen Rucker	1998. 4. 1
Pedro Simón	1998. 4. 1
山田隆治	1998. 4. 1
青山 玄	1999. 4. 1
立松弘孝	1999. 4. 1
田中春美	1999. 4. 1
新井喜久夫	2000. 4. 1

栗村道夫	2000. 4. 1
駒井 明	2000. 4. 1
枝村 茂	2001. 4. 1
山本和義	2001. 4. 1
Robert J. Riemer	2001. 4. 1
岩見恒典	2002. 4. 1
荻野昌利	2002. 4. 1
石橋 泰助	2003. 4. 1
三上 茂	2003. 4. 1
大津 誠	2003. 4. 1
五百旗頭博治	2004. 4. 1
栗須公正	2004. 4. 1
藤井達敬	2004. 4. 1
鈴木孝夫	2005. 4. 1
伴 紀子	2006. 4. 1
伊藤秋男	2006. 4. 1
早川正一	2006. 4. 1
David Mayer	2007. 4. 1
大岩 勉	2007. 4. 1
玉崎孫治	2007. 4. 1
岩野一郎	2007. 4. 1
寺田邦昭	2007. 4. 1
John Seland	2007. 4. 1
長谷川利治	2007. 4. 1
生野芳徳	2007. 6. 22
田中恭子	2007. 11. 16
長倉久子	2008. 3. 14
高橋弘一	2008. 4. 1
岡部朗一	2009. 4. 1
富野幹雄	2009. 4. 1
村本正生	2009. 4. 1
美濃部重克	2010. 3. 12
高橋覚二	2010. 4. 1
横田 忍	2010. 4. 1
伏見正則	2010. 4. 1
友岡敏明	2010. 4. 1
宮川佳三	2011. 4. 1
申 七郎	2011. 4. 1
櫻井健吾	2011. 10. 1
山口真人	2012. 2. 3
佐々木剛志	2012. 4. 1
春藤修二	2012. 4. 1
長谷川雅雄	2012. 4. 1
江川 憲	2012. 7. 27
Hans-Jürgen Marx	2013. 4. 1
James Heisig	2013. 4. 1
有元將剛	2013. 4. 1
練尾 毅	2013. 4. 1
黒田清彦	2013. 4. 1
三浦修史	2013. 4. 1
村松久良光	2013. 4. 1
藤原道夫	2013. 10. 18
濱口吉隆	2014. 4. 1
大森正樹	2014. 4. 1
安田文吉	2014. 4. 1
水谷重秋	2014. 4. 1
Ronald Holland	2014. 4. 1
津村俊充	2015. 4. 1
花井 敏	2015. 4. 1
中谷 実	2015. 4. 1

森部 一	2016. 4. 1
グラバア俊子	2016. 4. 1
岡田 泉	2016. 4. 1
浜名優美	2016. 4. 1
木村美善	2016. 4. 1
服部裕幸	2017. 4. 1
Calmano Michael	2017. 4. 1
坂本 正	2017. 4. 1
橋本 恵	2017. 4. 1
木下 登	2017. 4. 1
山田正次	2017. 4. 1
高橋広次	2017. 4. 1
池上久子	2017. 4. 1
石田裕久	2018. 4. 1
細谷 博	2018. 4. 1
佐竹謙一	2018. 4. 1
近藤 仁	2018. 4. 1
中矢俊博	2018. 4. 1
榎本鐘司	2019. 4. 1
丸山 徹	2019. 4. 1
SZIPPL Richard	2019. 4. 1
山田泰広	2019. 4. 1
CAVALLAR Osvaldo	2020. 4. 1
市瀬英昭	2020. 4. 1
大谷津晴夫	2020. 4. 1
斎藤孝一	2020. 4. 1
坂井信三	2020. 4. 1
SWANSON Paul	2020. 4. 1
鳥巢義文	2020. 4. 1
横山輝雄	2020. 4. 1
松戸庸子	2021. 4. 1
岡地 稔	2021. 4. 1

南山短期大学名誉教授

氏名	年月日
Hubert Flatten	1981. 4. 1
大庭征露	1981. 4. 1
清水 勇	1981. 4. 1
嶺 光雄	1981. 4. 1
新納嘉夫	1981. 4. 1
Richard A. Merritt	1986. 4. 1
Albert Bold	1987. 5. 8
伊藤雅子	2000. 4. 1
星野欣生	2001. 4. 1
大橋嘉男	2002. 4. 1
堀部憲夫	2003. 4. 1
田中良子	2004. 4. 1
水野道子	2005. 4. 1
石田幸栄	2007. 4. 1
鈴木貞雄	2010. 4. 1
近江 誠	2011. 3. 31
宮崎公江	2012. 4. 1
小知和優江	2012. 4. 1
Peter Garlid	2012. 4. 1

名古屋聖霊短期大学名誉教授

氏名	年月日
田中喜平治	1983. 4. 1
近藤 尚	1985. 4. 1
Thoma Anna Tellen	1987. 4. 1

横川文雄	1989. 4. 1
細井葉子	1991. 4. 1
中尾正三	1994. 4. 1
鶴見 鼎	1999. 4. 1
山本良子	2000. 4. 1
三上稲子	2000. 4. 1
Christine Leibetseder	2000. 4. 1
瀧本昭彦	2001. 4. 1
賀永マキ子	2002. 4. 1
大脇淳子	2005. 4. 1
丸山よし	2005. 4. 1
會澤俊三	2005. 4. 1

南山高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
一藤季雄	1982. 6. 25
徳永盛和	1982. 6. 25
横尾一夫	1982. 6. 25
荻野秀子	1983. 7. 29
小林武昌	1987. 4. 1
黒宮秋夫	1987. 4. 1
千波富美子	1989. 7. 7
平田 伸	1989. 7. 7
小高知直	1989. 7. 7
藤井輝夫	1990. 6. 1
富田謙一	1991. 4. 1
福山 徹	1992. 4. 1
橋倉溢子	1992. 4. 1
大平 稔	1992. 4. 1
坂口 平	1992. 4. 1
須田一男	1993. 4. 1
飯島昭永	1994. 4. 1
森 昭三	1994. 4. 1
大橋淳一	1994. 4. 1
黒川明雄	1995. 4. 1
高見義朗	1995. 4. 1
山田鈴夫	1995. 4. 1
塚本重巳	1995. 4. 1
伊藤 明	1997. 4. 1
青木 舜	1998. 4. 1
山下俊樹	1999. 4. 1
斎藤邦弥	2000. 4. 1
久田和彦	2000. 4. 1
斎藤清裕	2000. 4. 1
矢谷恵滋	2000. 4. 1
伊藤祐美子	2000. 4. 1
加藤莞二	2001. 4. 1
佐藤静真	2002. 4. 1
柴田整子	2002. 4. 1
渡辺くみ	2002. 4. 1
長谷部勝	2003. 4. 1
岩田邦子	2004. 4. 1
水越淳郎	2004. 4. 1
高柴 浩	2004. 4. 1
上村順造	2004. 4. 1
大津 彰	2005. 4. 1
平川博三	2005. 4. 1
星野正毅	2005. 4. 1
佐々克典	2005. 4. 1
饗庭駿一	2005. 4. 1

岡田充弘	2006. 4. 1
中島 裕	2006. 4. 1
犬飼隆夫	2006. 4. 1
坂田一郎	2006. 4. 1
三好道憲	2007. 4. 1
本藤毅夫	2007. 4. 1
松岡 博	2008. 4. 1
犬飼美知子	2008. 4. 1
河村剛ちよ	2008. 4. 1
鈴木友子	2008. 4. 1
伊藤公二	2009. 4. 1
吉田信義	2009. 4. 1
谷上 勝	2009. 4. 1
伊藤勝人	2009. 4. 1
薄島和子	2009. 4. 1
渡邊紘昭	2010. 4. 1
堤 正文	2010. 4. 1
酒井正之	2010. 4. 1
森 和夫	2012. 4. 1
鍛冶多喜知	2013. 4. 1
松田 智	2013. 4. 1
鶴飼茂雄	2014. 4. 1
横田正行	2014. 4. 1
野呂純二	2014. 4. 1
宮川佳大	2015. 4. 1
澤田擴次	2018. 4. 1
宮崎はるみ	2018. 4. 1
澤田秋善	2019. 4. 1
木村 正	2019. 4. 1
清水榮治	2019. 4. 1
田上秀丸	2020. 4. 1
岡 一郎	2020. 4. 1
奥村説子	2020. 4. 1

南山国際高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
伊藤紫朗	1994. 4. 1
浅野 尚	1995. 4. 1
高橋晴之	2021. 4. 1
下家善樹	2021. 4. 1

聖霊高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
山田和子	1996. 4. 1
井爪謙治	1999. 11. 2
江幡ひさ	1999. 11. 2
大嶽静男	1999. 11. 2
加藤絹子	1999. 11. 2
武内弥太郎	1999. 11. 2
中井延行	2001. 12. 1
伊藤 肇	2002. 4. 1
山根千代美	2002. 4. 1
伊藤蓉子	2003. 4. 1
広幡尚司	2005. 4. 1
渡辺幸男	2005. 4. 1
奥 宏夫	2006. 4. 1
佐々康子	2006. 4. 1
杉若久男	2007. 4. 1
安藤敏之	2008. 4. 1
真野良子	2008. 4. 1

徳竹信夫	2009. 4. 1
三浦繁則	2009. 4. 1
武田ミエ子	2011. 4. 1
吉田進一	2011. 4. 1
梶田悠子	2012. 4. 1
米倉和司	2012. 4. 1
武田 昇	2013. 4. 1
中村裕子	2014. 4. 1
古橋輝明	2020. 4. 1
杉浦泰也	2021. 4. 1

聖園女学院高校・中学名誉教諭

氏名	年月日
西江直広	1966. 4. 1
金浦佐知子	1998. 4. 1
平岡 功	2002. 4. 1
青山剛征	2007. 4. 1
坂東茂範	2010. 4. 1
浜田正夫	2016. 4. 1
清水ますみ	2018. 4. 1
金子喜美江	2018. 4. 1
鳩 憲子	2018. 4. 1
佐藤正志	2019. 3. 31
鴨志田昌子	2021. 4. 1

南山学園名誉職員

氏名	年月日
瀧田慎吉	1982. 6. 25
櫻井正夫	1982. 6. 25
松風誠人	1982. 6. 25
榊原廣士	1983. 5. 27
柴山朋子	1986. 4. 1
春日部道	1988. 4. 1
栗原幸子	1988. 4. 1
市原豊子	1989. 4. 1
中島正治	1992. 4. 1
小久保俊三	1993. 4. 1
西田 博	1993. 4. 1
武田重之	1993. 4. 1
山本勇郎	1995. 4. 1
加藤ちゑ子	1995. 4. 1
加藤松治	1995. 4. 1
伊部 宏	1995. 4. 1
村上匡男	1995. 4. 1
岡崎芳彦	1996. 4. 1
川島成雄	1996. 4. 1
松田政子	1996. 4. 1
新林麗子	1997. 4. 1
坂田常蔵	1998. 4. 1
清水二雄	1998. 4. 1
馬場恭二	1999. 11. 2
水野壽子	2000. 4. 1
三田武男	2000. 4. 1
十時光宏	2001. 4. 1
桃田千代子	2002. 4. 1
円城光子	2004. 4. 1
樋口則子	2004. 4. 1
木戸寿子	2004. 4. 1
内藤英明	2004. 4. 1
余語睦子	2004. 4. 1

鈴木一富	2005. 4. 1
後藤 勝	2006. 4. 1
木村弘子	2006. 4. 1
小林由樹恵	2007. 4. 1
佐藤和彦	2009. 4. 1
加藤忠夫	2010. 4. 1
会沢俊昭	2010. 4. 1
栗山義久	2010. 4. 1
村瀬真剛	2010. 4. 1
岩間潤子	2010. 4. 1
瀧田洋子	2011. 4. 1
鈴木裕子	2011. 4. 1
福田圭子	2012. 4. 1
竹内怡子	2012. 4. 1
糟谷謙三	2012. 4. 1
各務清子	2013. 4. 1
中村政義	2013. 4. 1
岩間陽子	2013. 4. 1
鈴田幸代	2013. 4. 1
小川チエ子	2014. 4. 1
塚本 泉	2014. 4. 1
蒔田 一	2015. 4. 1
波田一夫	2015. 4. 1
倉田啓子	2015. 4. 1
山邊美津香	2015. 4. 1
安田智子	2016. 4. 1
則竹輝一	2016. 4. 1
沢口定雄	2017. 4. 1
森 義明	2017. 4. 1
小川しず子	2017. 4. 1
西田一子	2017. 4. 1
関谷治代	2017. 4. 1
安田 猛	2018. 4. 1
伊藤敦子	2018. 4. 1
橋田裕元	2018. 4. 1
山田雅巳	2018. 4. 1
奥村良和	2019. 4. 1
三輪典由	2020. 4. 1
大川朱美	2020. 4. 1
浅沼和子	2020. 4. 1
井上佐智子	2020. 4. 1
加藤雅毅	2021. 4. 1
山崎則子	2021. 4. 1

歴代の役職者

2021年5月1日現在

南山学園理事長

	氏名	在任期間
初 代	ヨゼフ・ライネルス	1932～1941
第2代	松岡 孫四郎	1941～1948
第3代	フーベルト・フラッテン	1948～1951
第4代	ゲオルク・ゲマインダ	1951～1957
第5代	ヘルマン・ベルテルスベック	1957～1960
第6代	ゲルハルト・シュライバー	1960～1963
第7代	アルベルト・ボルト	1963～1984
第8代	ペドロ・シモン	1984～1999
第9代	ミカエル・カルマノ	1999～2008
第10代	ハンス ユーゲン・マルクス	2008～2017
第11代	市瀬 英昭	2017～

名古屋聖霊学園理事長

	氏名	在任期間
初 代	長谷川 小松	1948～1951
第2代	ピア・アンナ・ハイムガルトネル	1951～1954
第3代	マルチンヒルデ・シュリュートル	1954～1961
第4代	トマ・アンナ・テレン	1961～1995

聖園学院理事長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 テレジア	1951～1965
第2代	聖園 たへ	1965～1973
第3代	久野 芳子	1973～1991
第4代	菊地 アエ	1991～2003
第5代	後藤 澄子	2003～2016

南山大学長

	氏名	在任期間
初 代	アロイジオ・パッヘ	1949～1957
第2代	沼澤 喜市	1957～1972
第3代	ヨハネス・ヒルシュマイヤー	1972～1983
第4代	ロバート・リーマー	1983～1993
第5代	ハンス ユーゲン・マルクス	1993～2008
第6代	ミカエル・カルマノ	2008～2017
第7代	鳥巢 義文	2017～2020
第8代	ロバート・キサラ	2020～

南山短期大学長

※2011年4月から南山大学短期大学部に名称変更

	氏名	在任期間
初 代	フーベルト・フラッテン	1968～1974
第2代	アルベルト・ボルト	1974～1979
第3代	ヨハネス・シュールベルト	1979～1984
第4代	ペドロ・シモン	1984～1988
第5代	宮本 桂	1988～1991
第6代	ペドロ・シモン	1991～1993
第7代	大橋 嘉男	1993～2002
第8代	谷川 義美	2002～2008
第9代	鳥巢 義文	2008～2011
第10代	ミカエル・カルマノ	2011～2017
第11代	鳥巢 義文	2017～2020

名古屋聖霊短期大学長

	氏名	在任期間
初 代	マルチンヒルデ・シュリュートル	1970～1973
第2代	トマ・アンナ・テレン	1973～1987
第3代	會澤 俊三	1987～2005

南山中学校長（旧制）

南山高等学校・中学校長（新制）

	氏名	在任期間
初 代	ヨゼフ・ライネルス	1932～1940
第2代	高山 孫三郎	1940～1944
第3代	野山 忠幹	1944～1945
第4代	牧野 房男	1945～1948
第5代	アロイジオ・パッヘ	1948～1950
第6代	ヨハネス・ボンセレット	1950～1959
第7代	アルベルト・ボルト	1959～1960
第8代	チャールス・バルタ	1960～1966
第9代	フーベルト・フラッテン	1966～1972
第10代	會澤 俊三	1972～1975
第11代	フランツ・トルッケンブロード	1975～1981
第12代	ヨハネス・シュールベルト	1981～1987
第13代	谷川 義美	1987～1996
第14代	深堀 進	1996～2008
第15代	西 経一	2008～2015
第16代	ヨセフ・ブルーノ・ダシオン	2015～

南山国際高等学校・中学校長

	氏名	在任期間
初 代	長坂 源一郎	1993～1994
第2代	ロバート・リーマー	1994～2008
第3代	リチャード・ジッブル	2008～2017
第4代	山田 利彦	2017～

聖霊高等学校・中学校長

	氏名	在任期間
初 代	マルチンヒルデ・シュリュートル	1949～1961
第2代	林 ハルミ	1961～1980
第3代	三国 重子	1980～1981
第4代	大野 寛二	1981～1989
第5代	榊 米一郎	1989～1991
第6代	尾崎 恵	1991～1993
第7代	樋口 富士夫	1993～1995
第8代	トマ・アンナ・テレン	1995～1996
第9代	伊藤 肇	1996～2002
第10代	大橋 嘉男	2002～2008
第11代	深堀 進	2008～2011
第12代	マイケル・リンストロム	2011～

聖園女学院高等学校・中学校長

	氏名	在任期間
初 代	白根 松介	1946～1947
第2代	聖園 たへ	1947～1954
第3代	聖園 イグナチア	1954～1973
第4代	小畑 佳子	1973～1975
第5代	石橋 弘子	1975～1981
第6代	橋本 美穂	1981～1985

第7代	平田 スエ子	1985～1987
第8代	赤羽 さち	1987～2007
第9代	清水 ますみ	2007～2017
第10代	ミカエル・カルマノ	2017～

南山小学校長

	氏名	在任期間
初 代	野村 浩一	1936～1937
第2代	高山 孫三郎	1937～1941

南山大学附属小学校長

	氏名	在任期間
初 代	ハンス ユーゲン・マルクス	2008～2014
第2代	西脇 良	2014～2021
第3代	鳥巢 義文	2021～

聖園小学校長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 たへ	1947～1954
第2代	聖園 イグナチア	1954～1973
第3代	小畑 佳子	1973～1975
第4代	石橋 弘子	1975～1979

聖園女学院附属聖園幼稚園長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 イグナチア	1943～1967
第2代	伊藤 トシ	1967～1968
第3代	村井 正子	1968～1970
第4代	今里 隆子	1970～1973
第5代	中村 淳子	1973～1975
第6代	富山 イツ	1975～1978
第7代	瓦田 国子	1978～1987
第8代	本田 登志子	1987～1997
第9代	山下 説子	1997～2002
第10代	平田 スエ子	2002～2019
第11代	マルチヌス オマン	2019～

聖園女学院附属聖園マリア幼稚園長

	氏名	在任期間
初 代	聖園 イグナチア	1966～1967
第2代	伊藤 トシ	1967～1968
第3代	村井 正子	1968～1970
第4代	今里 隆子	1970～1973
第5代	中村 敦子	1973～1975
第6代	富山 イツ	1975～1978
第7代	宮野 福貴子	1978～1986
第8代	橋本 美穂	1986～1987
第9代	高橋 麗子	1987～1989
第10代	小島 靖子	1989～1995
第11代	近藤 弘子	1995～1996
第12代	宮野 福貴子	1996～2002
第13代	山下 説子	2002～2006
第14代	近藤 弘子	2006～2014
第15代	佐藤 昭子	2014～2016
第16代	平田 スエ子	2016～2017
第17代	櫻井 好枝	2017～2019
第18代	マルチヌス オマン	2019～

II. 財務の概要

【総評】

①経営状況の分析

南山学園における 2021 年度大型事業としては、南山大学名古屋キャンパス施設設備計画（Ⅲ・Ⅳ期）に基づく工事が 2017 年度の着工から 5 年目の完成年度を迎え、基本金組入分を含めて 5 億 94 百万円を計上しました。GIGA スクール構想への取り組みとして、ICT 教育環境への整備を進め、南山高等学校・中学校（男子部）では、校内の無線 LAN 整備工事、電子黒板の普通教室への配備等で 30 百万円支出しました。南山大学附属小学校では、情報機器の導入費用、ネットワーク増強費用等として 9 百万円支出しました。聖園女学院附属聖園幼稚園では、外壁修繕工事として 28 百万円支出いたしました。聖園女学院附属聖園マリア幼稚園では、下り天井改修工事として 31 百万円支出いたしました。

2021 年 5 月 1 日現在の学園全体の学生生徒児童幼児数は 14,500 名であり、収容定員数（15,195 名）を 695 名下回りました。その結果、学生生徒等納付金収入については、前年度と比較して 1 億 15 百万円の減収となりました。

2021 年度事業活動収支決算について、事業活動収入計は 184 億 11 百万円、事業活動支出計は 180 億 34 百万円となり、基本金組入前当年度収支差額は 3 億 77 百万円、基本金組入額 13 億 1 百万円を加えた当年度収支差額は△9 億 24 百万円となりました。

②経営上の成果と課題

基本金組入前当年度収支差額について 2018 年度以降昨年度まで支出超過の状態が続き、大学等設置に係る寄附行為（変更）認可後の財政状況及び施設等整備状況調査において指摘を受けてきたところですが、南山大学における施設設備計画が 2020 年度までに大方完了し大規模事業が一段落したこと、さらに新型コロナウイルス感染症の影響で事業活動が抑制されたことにより、2021 年度においては 17 年度以来の収入超過となりました。今回のような支出超過が継続して発生する状態に再び陥ることの無いよう、一層綿密な中・長期的財政計画ならびに財政目標の策定・実行に努め、経営基盤の安定確保を図ります。

2021 年度は繰越収支差額の改善に向けた取り組みとして、前年度に引き続き、第 1 の目標として各学校の収支差額を収支均衡以上とする財務目標を設定しつつ、一部の学校には財政状況等を踏まえた財務目標を第 2 の目標として設定しました。しかし、聖霊高等学校・中学校においては、新校舎取得にともなう減価償却額の増加が大きく影響したため、第 2 の目標を達成することができませんでした。また、第 1 の目標である収支差額を収支均衡以上とすることは、学園全体として達成することはできませんでした。2022 年度には第 2 の目標を設定して 3 年目を迎えることから、今後は財務の目標について見直しを図り、学校ごとの財政状況等を勘案するだけでなく、中・長期的な視点も考慮し、収支改善に向けたより効果的な財務目標の設定が必要であると考えています。

③今後の方針・対応方策

今後も、健全な財政基盤の確立に向けて、引き続き収支均衡以上を目標としつつも、段階的に収支改善を図ります。また、適切な学生・生徒・児童・幼児数の安定的な確保についても、継続的に努めることとします。

【事業活動毎の収支状況】（百万円未満四捨五入）

①教育活動収支差額

科目		本年度 決算額 (百万円)	前年度 決算額 (百万円)	差額	特記事項
収入	学生生徒等納付金	12,314	12,429	△115	南山国際高等・中学校分の差額：△38 百万円
	手数料	750	725	25	
	寄付金	332	454	△122	
	経常費等補助金	3,300	3,319	△19	
	付随事業収入	170	161	9	
	雑収入	497	594	△97	
支出	人件費	11,052	11,003	49	
	教育研究経費	5,408	6,356	△948	
	管理経費	1,362	1,374	△12	
	徴収不能額等	1	2	△1	
教育活動収支差額		△459	△1,055	596	

②教育活動外収支差額

	科目	本年度 決算額 (百万円)	前年度 決算額 (百万円)	差額	特記事項
収入	受取利息・配当金	968	882	86	株式配当金：874 百万円
支出	借入金利息	79	85	△6	
教育活動外収支差額		889	797	92	

③特別収支差額

	科目	本年度 決算額 (百万円)	前年度 決算額 (百万円)	差額	特記事項
収入	資産売却差額	19	68	△49	
	その他の特別収入	62	108	△46	寄付金：18 百万円 現物寄付：22 百万円 補助金：21 百万円
支出	資産処分差額	48	538	△490	
	その他の特別支出	86	28	58	過年度修正額：86 百万円
特別収支差額		△53	△390	337	

④当年度収支差額

科目	本年度 決算額 (百万円)	前年度 決算額 (百万円)	差額	特記事項
当年度収支差額	△924	△2,181	1,257	

⑤翌年度繰越収支差額

科目	本年度 決算額 (百万円)	前年度 決算額 (百万円)	差額	特記事項
翌年度繰越収支差額	△33,835	△33,058	△778	

【基本金の状況】（百万円未満四捨五入）

基本金全体で13億1百万円の組入れ、1億46百万円の取崩しとなりました。
主な増減理由は以下のとおりです。

科目	増減 (百万円)	主な増減理由	残高 (百万円)
第1号基本金	1,112	南山大学 ・ 第Ⅲ・Ⅳ期工事による組入：588百万円 南山高等学校・中学校女子部 ・ 空調機器一部除却による取崩：114百万円	90,350
第2号基本金	25	南山高等学校・中学校女子部 ・ 第1体育館改修・改築計画による組入	50
第3号基本金	18	南山大学：基金への組入	24,751
第4号基本金	0	組入なし	1,458

以上

付記：決算額の詳細は別添の決算報告書をご確認ください。

https://www.nanzan.ac.jp/data/item/pdf/2021_kessan.pdf

資金収支計算書

2021年4月1日から

2022年3月31日まで

＜総括表＞

(単位:円)

	予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	12,322,310,000	12,313,874,460	8,435,540
手数料収入	712,000,000	749,315,680	△ 37,315,680
寄付金収入	334,113,000	333,892,569	220,431
補助金収入	3,327,633,000	3,321,242,278	6,390,722
国庫補助金収入	1,415,828,000	1,395,874,500	19,953,500
地方公共団体補助金収入	1,911,805,000	1,925,367,778	△ 13,562,778
資産売却収入	1,245,643,000	1,156,585,952	89,057,048
付随事業・収益事業収入	193,193,000	170,187,252	23,005,748
受取利息・配当金収入	951,284,000	967,779,913	△ 16,495,913
雑収入	424,310,000	487,646,797	△ 63,336,797
前受金収入	2,399,131,000	2,462,233,437	△ 63,102,437
その他の収入	4,920,484,000	5,031,707,968	△ 111,223,968
資金収入調整勘定	△ 2,706,753,000	△ 2,826,911,292	120,158,292
当期収入合計	24,123,348,000	24,167,555,014	△ 44,207,014
前年度繰越支払資金	7,549,299,000	7,549,299,834	△ 834
収入の部合計	31,672,647,000	31,716,854,848	△ 44,207,848
人件費支出	11,485,307,832	11,167,897,198	317,410,634
教育研究経費支出	3,708,432,000	3,318,729,275	389,702,725
管理経費支出	1,299,038,141	1,159,063,200	139,974,941
借入金等利息支出	78,535,000	78,532,185	2,815
借入金等返済支出	665,960,000	665,960,000	0
施設関係支出	274,526,027	1,930,262,611	△ 1,655,736,584
設備関係支出	239,921,000	209,781,325	30,139,675
資産運用支出	2,389,211,000	2,210,755,507	178,455,493
その他の支出	5,626,475,000	5,662,211,441	△ 35,736,441
	(70,000,000)		
[予備費]	0		0
資金支出調整勘定	△ 761,035,000	△ 2,233,932,477	1,472,897,477
当期支出合計	25,006,371,000	24,169,260,265	837,110,735
翌年度繰越支払資金	6,666,276,000	7,547,594,583	△ 881,318,583
支出の部合計	31,672,647,000	31,716,854,848	△ 44,207,848

付記：私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

活動区分資金収支計算書

2021年4月 1日から
2022年3月31日まで

<総括表>

(単位:円)

科 目		予算	決 算	差異
教育活動による資金収支	収入			
	学生生徒等納付金収入	12,322,310,000	12,313,874,460	8,435,540
	手数料収入	712,000,000	749,315,680	△37,315,680
	特別寄付金収入	227,753,000	242,052,122	△14,299,122
	一般寄付金収入	71,770,000	73,967,447	△2,197,447
	経常費等補助金収入	3,306,492,000	3,300,101,278	6,390,722
	付随事業収入	193,193,000	170,187,252	23,005,748
	雑収入	423,129,000	486,093,104	△62,964,104
	教育活動資金収入計	17,256,647,000	17,335,591,343	△78,944,343
	支出			
	人件費支出	11,485,307,832	11,167,897,198	317,410,634
	教育研究経費支出	3,708,432,000	3,318,729,275	389,702,725
	管理経費支出	1,297,845,141	1,156,599,059	141,246,082
施設整備等活動による資金収支	教育活動資金支出計	16,491,584,973	15,643,225,532	848,359,441
	差引	765,062,027	1,692,365,811	△927,303,784
	調整勘定等	△129,790,000	△340,934,636	211,144,636
	教育活動資金収支差額	635,272,027	1,351,431,175	△716,159,148
	収入			
	施設設備寄付金収入	34,590,000	17,873,000	16,717,000
	施設設備補助金収入	21,141,000	21,141,000	0
	施設設備売却収入	140,000,000	140,000,000	0
	聖園施設設備拡充引当特定資産取崩収入	100,000,000	100,000,000	0
	聖園女学院施設設備拡充引当特定資産取崩収入	200,000,000	200,000,000	0
	施設整備等活動資金収入計	495,731,000	479,014,000	16,717,000
	支出			
	施設関係支出	274,526,027	1,930,262,611	△1,655,736,584
その他の活動による資金収支	設備関係支出	239,921,000	209,781,325	30,139,675
	第2号基本金引当特定資産繰入支出	25,000,000	25,000,000	0
	減価償却引当特定資産繰入支出	234,560,000	234,560,000	0
	聖園施設設備拡充引当特定資産繰入支出	100,000,000	100,000,000	0
	聖園女学院高等・中学校施設設備拡充引当特定資産繰入支出	200,000,000	200,000,000	0
	南山学園将来構想引当特定資産繰入支出	350,000,000	350,000,000	0
	施設整備等活動資金支出計	1,424,007,027	3,049,603,936	△1,625,596,909
	差引	△928,276,027	△2,570,589,936	1,642,313,909
	調整勘定等	△477,195,000	1,155,508,095	△1,632,703,095
	施設整備等活動資金収支差額	△1,405,471,027	△1,415,081,841	9,610,814
小計(教育活動資金収支差額+施設整備等活動資金収支差額)		△770,199,000	△63,650,666	△706,548,334
その他の活動による資金収支	収入			
	有価証券売却収入	1,105,613,000	1,016,582,532	89,030,468
	退職給与引当特定資産取崩収入	150,694,000	61,585,257	89,108,743
	イブ・ハツエ国際交流奨励金引当特定資産取崩収入	900,000	2,100,000	△1,200,000
	南山学園単位校間移籍者人件費引当特定資産取崩収入	24,551,000	24,806,489	△255,489
	貸付金回収収入	11,734,000	12,115,899	△381,899
	預り金受入収入	3,939,419,000	4,123,633,451	△184,214,451
	貯蔵品売却収入	30,000	3,420	26,580
	その他の収入	4,888,000	19,400,410	△14,512,410
	小計	5,237,829,000	5,260,227,458	△22,398,458
	受取利息・配当金収入	951,284,000	967,779,913	△16,495,913
	過年度修正収入	1,181,000	1,553,693	△372,693
	その他の活動資金収入計	6,190,294,000	6,229,561,064	△39,267,064
	支出			
	借入金等返済支出	665,960,000	665,960,000	0
	有価証券購入支出	1,103,714,000	1,014,367,319	89,346,681
	第3号基本金引当特定資産繰入支出	18,252,000	18,252,039	△39
	退職給与引当特定資産繰入支出	350,695,000	261,585,257	89,109,743
	イブ・ハツエ国際交流奨励金引当特定資産繰入支出	7,000	7,892	△892
	ICT環境構築費引当特定資産繰入支出	3,305,000	3,305,000	0
	有価証券売却益分配引当特定資産繰入支出	3,678,000	3,678,000	0
	貸付金支払支出	13,767,000	3,967,000	9,800,000
	預り金支払支出	3,996,240,000	4,040,809,158	△44,569,158
	その他の支出	67,793,000	88,626,390	△20,833,390
	小計	6,223,411,000	6,100,558,055	122,852,945
	借入金等利息支出	78,535,000	78,532,185	2,815
	過年度修正支出	1,193,000	2,464,141	△1,271,141
	その他の活動資金支出計	6,303,139,000	6,181,554,381	121,584,619
	差引	△112,845,000	48,006,683	△160,851,683
	調整勘定等	21,000	13,938,732	△13,917,732
	その他の活動資金収支差額	△112,824,000	61,945,415	△174,769,415
[予備費]		(70,000,000)		0
支払資金の増減額 (小計+その他の活動資金収支差額-予備費)		△883,023,000	△1,705,251	△881,317,749
前年度繰越支払資金		7,549,299,000	7,549,299,834	△834
翌年度繰越支払資金		6,666,276,000	7,547,594,583	△881,318,583

付記:私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

事業活動収支計算書

2021年4月 1日から
2022年3月31日まで

<総括表>

(単位:円)

			予 算	決 算	差 異
教育活動収支	事業活動収入	学生生徒等納付金	12,322,310,000	12,313,874,460	8,435,540
		手数料	712,000,000	749,315,680	△ 37,315,680
		寄付金	307,281,000	332,155,635	△ 24,874,635
		経常費等補助金	3,306,492,000	3,300,101,278	6,390,722
		国庫補助金収入	1,404,358,000	1,384,404,500	19,953,500
		地方公共団体補助金収入	1,902,134,000	1,915,696,778	△ 13,562,778
		付随事業収入	193,193,000	170,187,252	23,005,748
		雑収入	454,186,000	496,783,348	△ 42,597,348
		教育活動収入計	17,295,462,000	17,362,417,653	△ 66,955,653
	動事業支出	人件費	11,388,302,455	11,051,583,024	336,719,431
		教育研究経費	5,790,730,545	5,407,601,625	383,128,920
		管理経費	1,534,951,000	1,362,441,302	172,509,698
		徴収不能額等	1,624,000	232,000	1,392,000
		教育活動支出計	18,715,608,000	17,821,857,951	893,750,049
教育活動収支差額			△ 1,420,146,000	△ 459,440,298	△ 960,705,702
教育活動外収支	動事業収入	受取利息・配当金	951,284,000	967,779,913	△ 16,495,913
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	951,284,000	967,779,913	△ 16,495,913
	動事業支出	借入金等利息	78,535,000	78,532,185	2,815
		その他の教育活動外支出	0	0	0
		教育活動外支出計	78,535,000	78,532,185	2,815
教育活動外収支差額			872,749,000	889,247,728	△ 16,498,728
経常収支差額			△ 547,397,000	429,807,430	△ 977,204,430
特別収支	動事業収入	資産売却差額	18,699,000	18,699,602	△ 602
		その他の特別収入	74,762,000	62,435,956	12,326,044
		特別収入計	93,461,000	81,135,558	12,325,442
	動事業支出	資産処分差額	19,422,000	48,067,503	△ 28,645,503
		その他の特別支出	1,193,000	85,836,151	△ 84,643,151
		特別支出計	20,615,000	133,903,654	△ 113,288,654
特別収支差額			72,846,000	△ 52,768,096	125,614,096
[予備費]			(70,000,000) 0		0
基本金組入前当年度収支差額			△ 474,551,000	377,039,334	△ 851,590,334
基本金組入額合計			△ 1,542,167,000	△ 1,300,737,053	△ 241,429,947
当年度収支差額			△ 2,016,718,000	△ 923,697,719	△ 1,093,020,281
前年度繰越収支差額			△ 33,057,510,000	△ 33,057,509,576	△ 424
基本金取崩額			232,905,000	145,885,560	87,019,440
翌年度繰越収支差額			△ 34,841,323,000	△ 33,835,321,735	△ 1,006,001,265
(参考)					
事業活動収入計			18,340,207,000	18,411,333,124	△ 71,126,124
事業活動支出計			18,814,758,000	18,034,293,790	780,464,210

付記：私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

貸 借 対 照 表
2022年3月31日

<総括表>

(単位:円)

資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定資産	93,493,245,262	93,003,794,335	489,450,927
有形固定資産	60,036,293,383	60,347,023,588	△ 310,730,205
土地	16,700,955,715	16,824,075,715	△ 123,120,000
建物	33,578,612,879	33,241,493,650	337,119,229
構築物	2,411,065,192	2,705,737,448	△ 294,672,256
教育研究用機器備品	999,781,814	1,173,783,850	△ 174,002,036
管理用機器備品	60,903,173	63,611,831	△ 2,708,658
図書	6,275,414,431	6,324,773,683	△ 49,359,252
車両	6,561,019	9,684,251	△ 3,123,232
建設仮勘定	2,999,160	3,863,160	△ 864,000
特定資産	32,870,682,332	32,062,785,890	807,896,442
第2号基本金引当特定資産	50,000,000	25,000,000	25,000,000
第3号基本金引当特定資産	24,750,736,157	24,732,484,118	18,252,039
減価償却引当特定資産	922,572,000	688,012,000	234,560,000
聖園施設設備拡充引当特定資産	351,236,858	351,236,858	0
南山学園将来構想引当特定資産	1,050,000,000	700,000,000	350,000,000
南山学園瀬戸聖霊キャンパス整備資金引当特定資産	40,000,000	40,000,000	0
南山大学施設設備拡充引当特定資産	400,000,000	400,000,000	0
南山高等学校・中学校女子部施設設備拡充引当特定資産	50,000,000	50,000,000	0
ICT環境構築費引当特定資産	3,305,000	0	3,305,000
聖園女学院高等・中学校施設設備拡充引当特定資産	966,285,000	966,285,000	0
聖園女学院附属聖園幼稚園施設設備拡充引当特定資産	249,052,784	249,052,784	0
聖園女学院附属聖園マリア幼稚園施設設備拡充引当特定資産	201,600,000	201,600,000	0
南山学園単位校間人件費引当特定資産	1,364,732,493	1,389,538,982	△ 24,806,489
退職給与引当特定資産	1,900,024,259	1,700,024,259	200,000,000
諸宗教研究援助引当特定資産	111,396,715	111,396,715	0
有価証券売却益分配引当特定資産	3,678,000	0	3,678,000
南山大学短期留学奨学金引当特定資産	200,000,000	200,000,000	0
奨学引当特定資産	123,964,301	123,964,301	0
イブ・ハツエ国際交流奨励金引当特定資産	17,918,765	20,010,873	△ 2,092,108
学生緊急支援引当特定資産	114,180,000	114,180,000	0
その他の固定資産	586,269,547	593,984,857	△ 7,715,310
電話加入権	10,854,253	11,229,173	△ 374,920
施設利用権	5,369,506	7,192,103	△ 1,822,597
ソフトウェア	59,611,579	120,160,473	△ 60,548,894
収益事業元入金	428,126,593	428,126,593	0
長期貸付金	12,107,616	20,256,515	△ 8,148,899
差入保証金	70,200,000	7,020,000	63,180,000
流動資産	8,129,230,604	8,134,361,409	△ 5,130,805
現金預金	7,547,594,583	7,549,299,834	△ 1,705,251
未収入金	445,084,080	488,855,262	△ 43,771,182
貯蔵品	14,003,980	12,151,897	1,852,083
立替金	6,970,427	923,447	6,046,980
前払金	115,486,174	83,038,609	32,447,565
預け金	91,360	92,360	△ 1,000
資産の部合計	101,622,475,866	101,138,155,744	484,320,122
負債の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
固定負債	14,176,554,399	13,294,858,554	881,695,845
長期借入金	8,797,410,000	9,527,890,000	△ 730,480,000
長期末払金	1,746,792,444	12,954,602	1,733,837,842
退職給与引当金	3,282,244,378	3,409,182,457	△ 126,938,079
長期預り金	350,107,577	344,831,495	5,276,082
流動負債	4,672,206,848	5,446,621,905	△ 774,415,057
短期借入金	730,480,000	665,960,000	64,520,000
未払金	417,204,531	1,413,491,224	△ 996,286,693
前受金	2,462,267,994	2,382,464,569	79,803,425
預り金	1,062,254,323	984,706,112	77,548,211
負債の部合計	18,848,761,247	18,741,480,459	107,280,788
純資産の部			
科 目	本 年 度 末	前 年 度 末	増 減
基本金	116,609,036,354	115,454,184,861	1,154,851,493
第1号基本金	90,350,300,197	89,238,700,743	1,111,599,454
第2号基本金	50,000,000	25,000,000	25,000,000
第3号基本金	24,750,736,157	24,732,484,118	18,252,039
第4号基本金	1,458,000,000	1,458,000,000	0
繰越収支差額	△ 33,835,321,735	△ 33,057,509,576	△ 777,812,159
翌年度繰越収支差額	△ 33,835,321,735	△ 33,057,509,576	△ 777,812,159
純資産の部合計	82,773,714,619	82,396,675,285	377,039,334
負債及び純資産の部合計	101,622,475,866	101,138,155,744	484,320,122

付記：私立学校法に基づく収益事業会計は、本計算書には含まれておりません。

学校法人南山学園 2021 年度決算補足資料について

学校法人南山学園 2021 年度決算に係る補足資料として、学校法人会計が企業会計と異なる点を踏まえた各計算書類とその科目についての説明および過去 5 年間の財務数値・財務比率の推移に関する以下の資料をあわせて掲載いたします。

資料 1	学校法人会計の説明	
資料 2	資金収支計算書	2017－2021 年度（5 年間）推移
	グラフ 1－1～2	
資料 3	活動区分資金収支計算書	2017－2021 年度（5 年間）推移
	グラフ 2	
資料 4	事業活動収支計算書	2017－2021 年度（5 年間）推移
	グラフ 3－1～4	
資料 5	財務比率（事業活動収支関連）	2017－2021 年度（5 年間）推移
	グラフ 4	
資料 6	貸借対照表	2017－2021 年度（5 年間）推移
	グラフ 5－1～2	
資料 7	財務比率（貸借対照表関連）	2017－2021 年度（5 年間）推移
	グラフ 6	

（特記事項）

- ・金額は百万円未満を四捨五入しているため、合計など金額が一致しない場合があります。

資料1 <学校法人会計の説明>

学校法人会計が企業会計と異なる点を踏まえ、各計算書類とその科目について説明いたします。

私立学校(学校法人)は、その運営費の一部として国や地方公共団体から経常費補助金の交付を受けています。この補助金を受ける場合、「学校法人会計基準」に従って計算書類を作成し、計算書類を所轄庁に届け出ることが義務付けられています(私立学校振興助成法 第14条)。この計算書類(資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表)は以下のとおりです。

(1)-1 資金収支計算書

年間の諸活動に対応する全ての資金の動きを明らかにする計算書

当該年度の現金・預貯金(支払資金)の支払と受入の顛末を表す書類であり、教育研究諸活動に対応して生じる全ての収入および支出の内容を明らかにするものです。企業会計におけるキャッシュ・フロー計算書と同じく資金の収支内容と顛末を明らかにすることを目的としています。活動に収入と支出を関連付けて表示していない点で大きく異なります。

また、学校法人会計基準特有の考え方で、調整勘定というものがあります。資金収支計算書は本来あるべき年度に収支を計上する発生主義と、実際の資金の出入りを計上する現金主義の折衷を図っています。例えば、大学の新入生の授業料は通常前年度までに納入されます。新入生に対する授業自体は入学年度から行われるため、入学年度の収入とするのが妥当です。しかし、実際には前年度に納入されており、入学年度の収入としてしまうと支払資金の残高が合わなくなってしまう。そこで、入学年度には授業料収入として計上するとともに、前期末前受金という調整勘定を用いてマイナス計上し、調整します。これにより、入学年度の授業料収入を正しく認識するとともに、実際の資金の残高を把握することが可能になります。調整勘定には前受金の他に、未収入金、未払金、前払金があります。

<資金調整勘定>

期末未収入金: 当年度中に収受すべき収入のうち、入金が翌年度以降になるもの

前期末前受金: 当年度中に収受すべき収入のうち、前年度までに入金済みのもの

期末未払金: 当年度中に支払うべき支出のうち、翌年度以降に支払うもの

前期末前払金: 当年度中に支払うべき支出のうち、前年度まで支払済みのもの

<資金収支計算書の科目の解説>

・学生生徒等納付金収入

学生・生徒・児童から教育の対価として徴収させて頂いている収入です。入学金や授業料などがあります。

・手数料収入

教育研究活動に付随して用益の提供を行い、その対価として徴収させて頂いている収入です。入学検定料などがあります。

・寄付金収入

金銭の寄付を頂いた際に計上される収入です。寄付者が特定の意図を持って寄付したものや、学校が用途を指定して募集したものを「特別寄付金」、特に用途指定の無いものを「一般寄付金」といいます。

・補助金収入

国または地方公共団体からの助成金です。

・資産売却収入

固定資産等を売却した時に得られた収入です。

・付随事業・収益事業収入

食堂・売店・学生寮・スクールバスなど教育に付随する活動によって得られた収入および寄附行為に規定した収益事業がある場合の収益事業会計から繰り入れられた収入です。

・受取利息・配当金収入

学校法人が所有する資産を運用した結果得られた収入です。預貯金の利息や有価証券の配当金による収入などがあります。

・雑収入

上記に含まれない収入で事業活動収入となるものです。私学の退職金団体からの交付金や施設利用料収入などがあります。

・借入金等収入

新規の借入れによる資金調達のことです。南山学園は発行していませんが、学校債発行による収入も含まれます。

・前受金収入

翌年度の事業活動収入とすべきもので当会計年度末までに入金があった場合に使われます。

・人件費支出

学校法人と雇用契約によって提供される労働サービスの対価として支払われる支出です。

・教育研究経費支出

教育研究のための経費支出です。ただし、学生生徒等を募集するための経費は管理経費支出になります。

・管理経費支出

教育研究経費支出以外の経費支出です。

・借入金等利息支出

借入金や学校債などの債務から発生する利息支出です。

・借入金等返済支出

借入金や学校債などの債務の返済支出です。

・施設関係支出

学校法人が使用する土地、建物、構築物などを取得するための支出です。

・設備関係支出

学校法人が使用する備品、図書、車輛などを取得するための支出です。

・資産運用支出

有価証券の購入や引当特定資産への繰入のための支出です。

資金収支計算書の計算



※上記の図の斜体字は、資金収支計算書と事業活動収支計算書とで内容が異なる科目

資金収支計算書の付表であり、活動区分ごとの資金の流れがわかる計算書

<活動区分>

①教育活動による資金収支

学校の本業である教育活動（研究活動を含む）に関する収入・支出が該当します。ただし、教育活動の範囲は多岐に渡り、定義が困難なことから以下の②、③にあてはまらないものを計上することとしています。

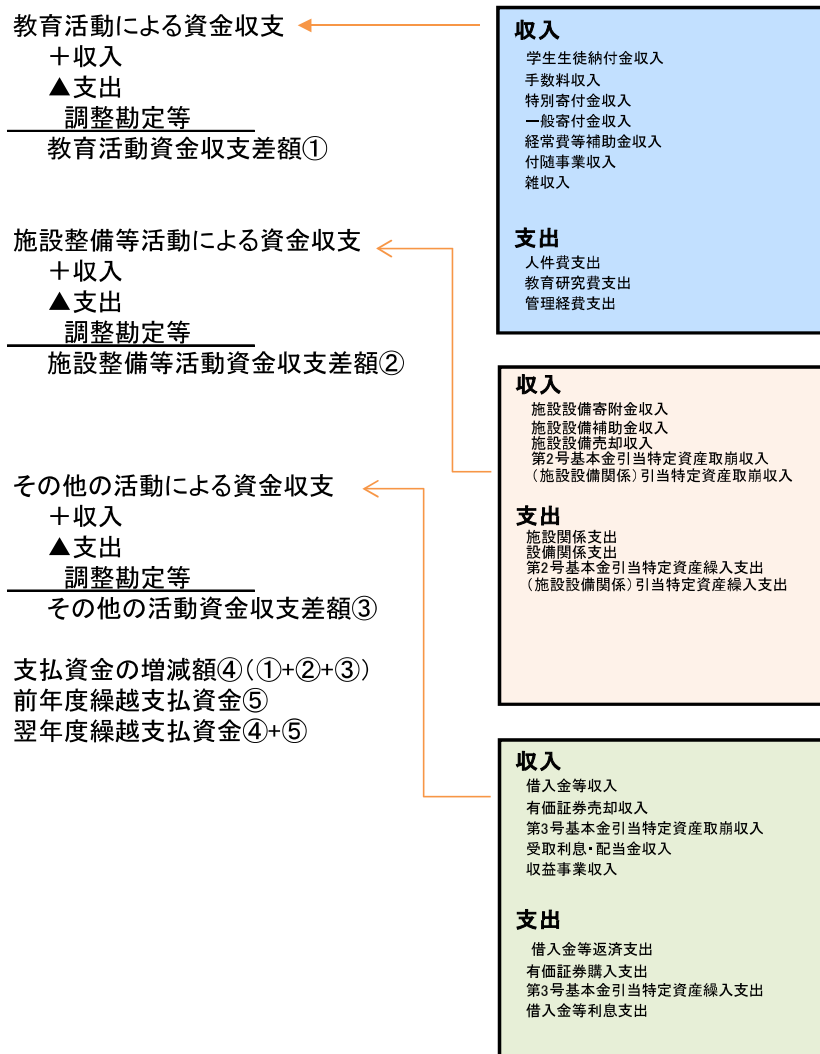
②施設整備等活動による資金収支

施設設備に関する収入・支出が該当します。例えば固定資産の購入や売却、施設設備の拡充のための寄付金や補助金、施設設備の取得を目的とした特定資産への繰入や戻入等が挙げられます。

③その他の活動による資金収支

財務活動（資金調達・資金運用）、収益事業、預り金の受け払い等の経過的な活動、過年度修正額による収入・支出が該当します。

活動区分資金収支計算書の計算



(2) 事業活動収支計算書

当該年度における収支の状況を明らかにする計算書

事業活動収支計算書は単年度の事業活動収入と事業活動支出の差額から基本金組入額を控除した当年度収支差額によって、収支の均衡状態を明らかにする計算書であり、企業会計における損益計算書に相当します。

事業活動収支計算書では、資金の増減を示すのではなく、経営状態が健全であるかを示すための実質的な収支を計算します。このため資金収支計算書の収入や支出とその内容が異なります。

例えば、支払資金の増加や減少を伴わない現物寄付、減価償却額、退職給与引当金繰入額、徴収不能引当金繰入額などを事業活動収支計算書では収入または支出に含めます。

逆に支払資金の増加や減少を伴う借入金等収入、預り金収入、前受金収入、借入金返済支出、施設関係支出、設備関係支出等は事業活動収支計算書では収入または支出に含めません。

企業会計では、収益から費用を引くことにより利益を計算します。これに対して学校法人会計では、まず事業活動収入から事業活動支出を引くことにより基本金組入前当年度収支差額を計算します。そして、さらに学校法人が維持すべき資産に相当する金額である基本金への組入額を控除して収支差額を計算する点が特徴的です。企業では、利益額を大きくすることが求められますが、学校法人では長期的にはこの差額が過大にならず、収支均衡であることが要請されています。

< 事業活動収支計算書の用語の解説 >

(1) 事業活動収入

学生生徒等納付金、補助金、寄付金、資産運用収入などの負債とはならず純資産を増加させる収入のことです(学校法人会計基準 第16条)。

負債の性質をもつ借入金、前受金、預り金などは事業活動収入には含めません。

事業活動収入＝学校法人の負債とらない収入＝純資産を増加させる収入

(2) 事業活動支出

人件費をはじめ光熱水費、消耗品費等の費用は純資産を減少させる支出であるため、これらを事業活動支出としています。光熱水費、消耗品費等は用途により教育研究経費と管理経費に分類されます。

借入金等返済支出や貸付金支払支出等は、資金は減少するものの同時に負債の減少や資産の増加を伴うため純資産は減少しておらず、事業活動支出には該当しないことになります。

一方、減価償却額、退職給与引当金繰入額、徴収不能引当金繰入額等、資金支出を伴わないが該当期間の費用とすべきものは事業活動支出として計上します。

(3) 基本金組入前当年度収支差額

事業活動収入から事業活動支出を差し引いて計算されます。企業会計の「当期純利益(損失)」と比較されるもので学校法人会計基準改正前は帰属収支差額と呼ばれていました。

(4) 基本金組入額

学校法人が教育研究活動を行っていくためには、校地、校舎、機器備品、図書、現金・預金などの資産は必須であり、これらを継続的に保持するために学校法人会計独特の「基本金」制度があります(学校法

人会計基準 第 29 条)。

学校法人会計基準において、学校法人が維持すべき資産として以下の 4 種類をあげ、それに相当する金額を事業活動収入から基本金として組み入れる必要があります(学校法人会計基準 第 30 条)。

第 1 号基本金:校地、校舎、機器備品、図書等の自己資金で取得した固定資産の取得価額

第 2 号基本金:将来取得する固定資産の取得に充てる予定の預金などの資産の額

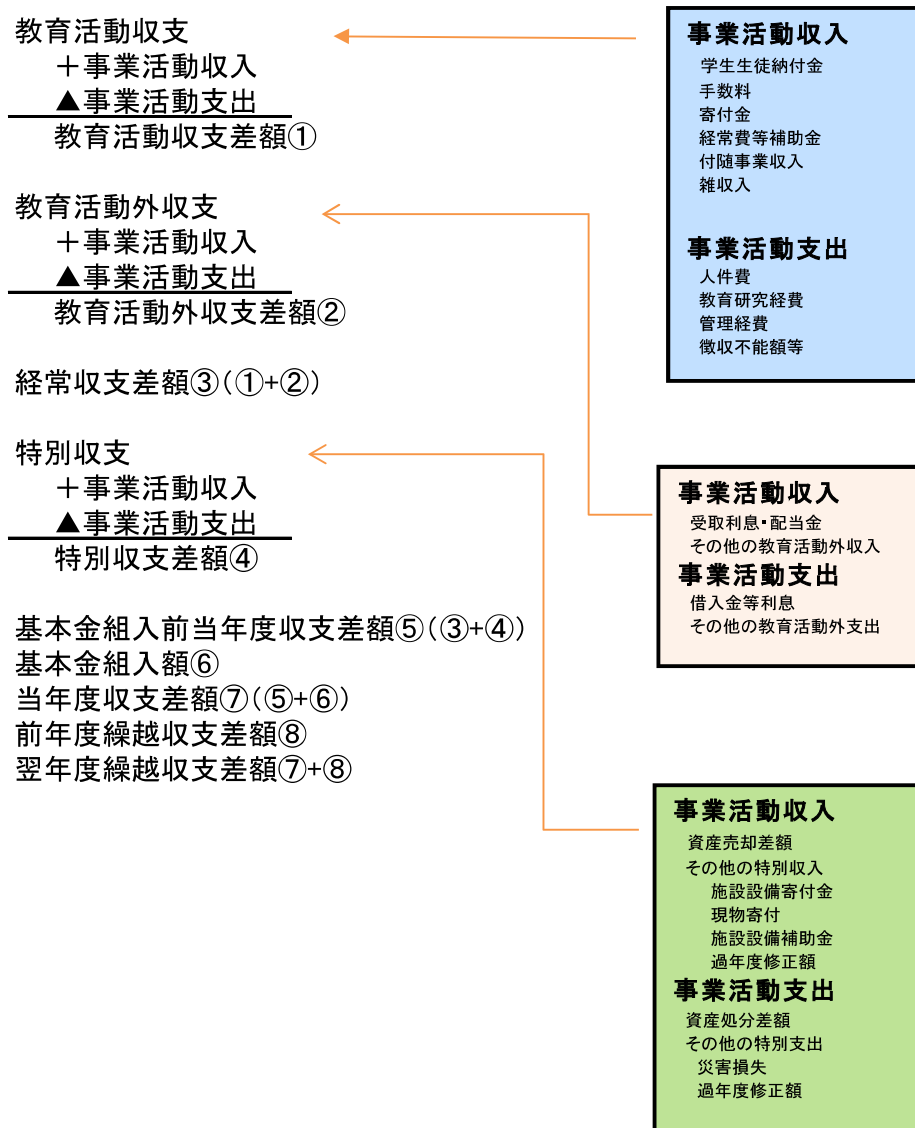
第 3 号基本金:奨学基金、研究基金などとして継続的に保持・運用する資産の額

第 4 号基本金:文部科学大臣が定める恒常的に保持すべき運転資金の額

(5) 当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額に基本金組入額を加味したものを当年度収支差額といいます。学校法人会計ではこの差額が過大にならず、収支均衡であることが要請されています。

事業活動収支計算書の計算



(3) 貸借対照表

年度末における財政状態を表わす表

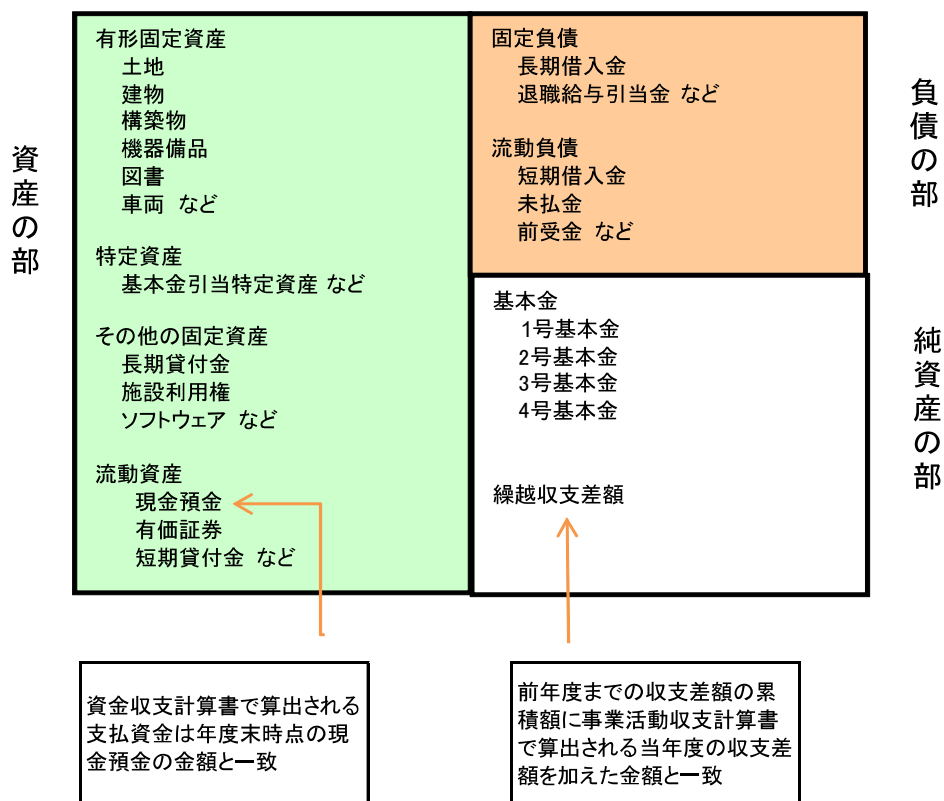
貸借対照表は、当該年度の決算日（年度の末日）における資産（現金預金、固定資産等）や負債（借入金等）の内容とその金額を明示し、学校の財政状態を明らかにすることを目的としています。

また、資金収支計算書および事業活動収支計算書は、年度中における収入および支出の状況、すなわち、年度中の動き（フロー）を示すのに対し、貸借対照表は決算日における財産の金額（ストック）を表しています。

資産と負債の差額は企業会計と同様に「純資産の部」と呼ばれています。企業会計では「純資産の部」は主として株主に帰属する部分である株主資本ですが、学校法人会計では「基本金」と「繰越収支差額」の合計を指します。

また、企業会計ではほとんどの場合、流動性の高いものから順に記載していきますが、学校法人会計では固定資産、固定負債が流動資産、流動負債より先に記載されています。これは固定性配列法と呼ばれ、固定資産の占める割合が極めて高い場合に用いられ、学校法人の他にも電気会社やガス会社で採用されています。

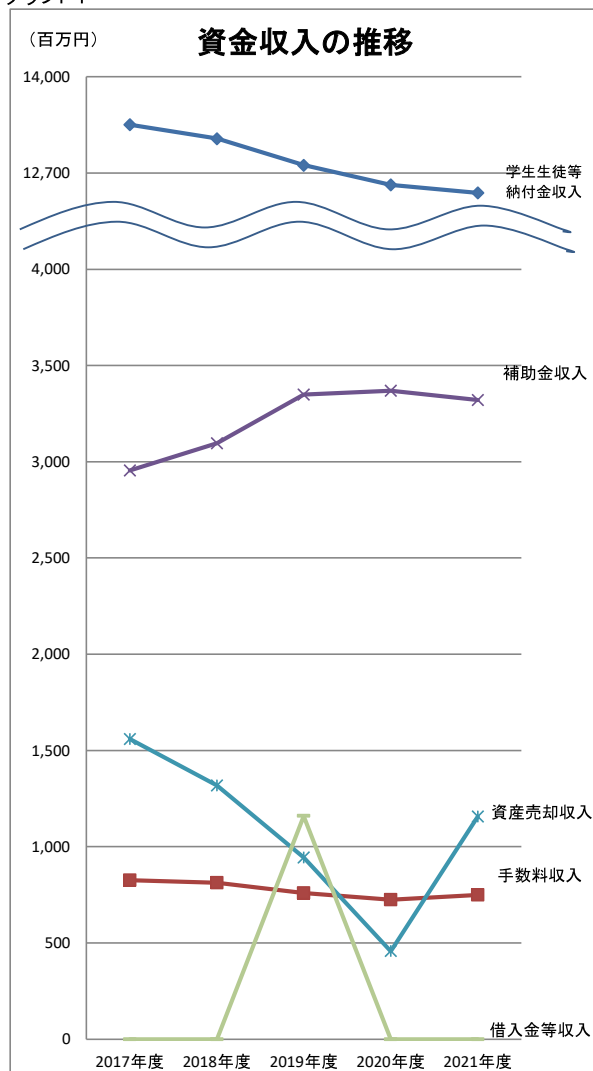
貸借対照表



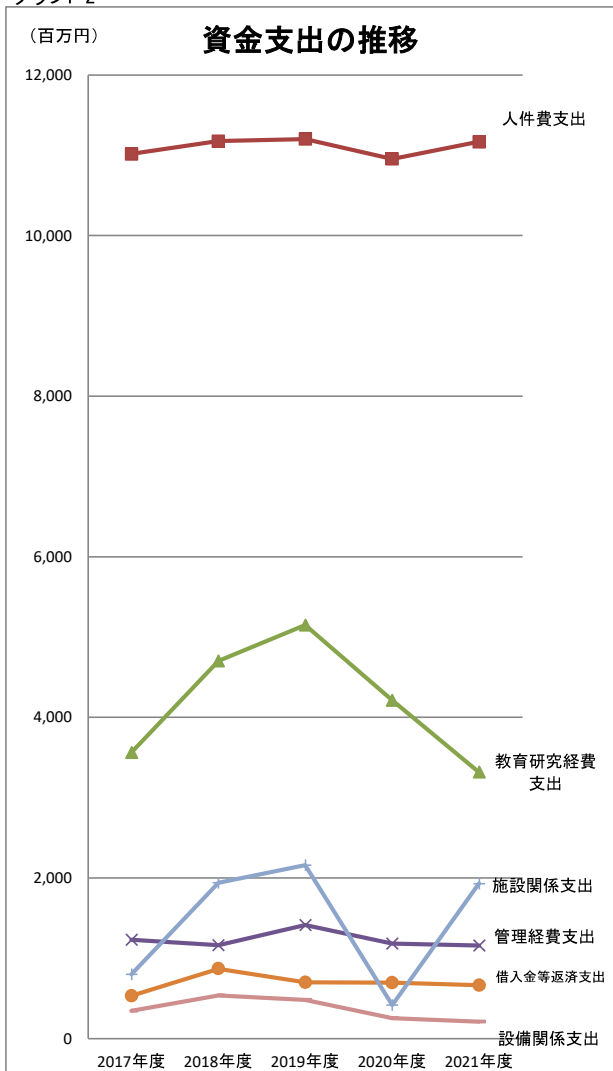
(単位:百万円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資金収入の部					
学生生徒等納付金収入	13,305	13,100	12,715	12,429	12,314
手数料収入	826	813	760	725	749
寄付金収入	431	416	322	448	334
補助金収入	2,955	3,097	3,350	3,369	3,321
資産売却収入	1,559	1,319	944	458	1,157
付随事業・収益事業収入	245	230	225	161	170
受取利息・配当金収入	772	785	810	882	968
雑収入	494	638	519	573	488
借入金等収入	0	0	1,160	0	0
前受金収入	2,481	2,299	2,424	2,382	2,462
その他の収入	6,661	5,613	5,521	5,177	5,032
資金収入調整勘定	△ 3,105	△ 2,941	△ 2,863	△ 2,913	△ 2,827
当期収入合計	26,625	25,368	25,885	23,691	24,168
前年度繰越支払資金	10,056	12,026	9,971	7,296	7,549
収入の部合計	36,680	37,394	35,857	30,986	31,717
資金支出の部					
人件費支出	11,016	11,176	11,202	10,954	11,168
教育研究経費支出	3,564	4,703	5,149	4,213	3,319
管理経費支出	1,232	1,164	1,414	1,182	1,159
借入金等利息支出	69	64	87	85	79
借入金等返済支出	535	871	701	696	666
施設関係支出	802	1,941	2,161	419	1,930
設備関係支出	345	537	482	255	210
資産運用支出	3,329	4,289	3,884	1,005	2,211
その他の支出	4,164	4,626	5,129	5,316	5,662
資金支出調整勘定	△ 401	△ 1,949	△ 1,647	△ 689	△ 2,234
当期支出合計	24,655	27,423	28,561	23,437	24,169
翌年度繰越支払資金	12,026	9,971	7,296	7,549	7,548
支出の部合計	36,680	37,394	35,857	30,986	31,717

グラフ1-1



グラフ1-2

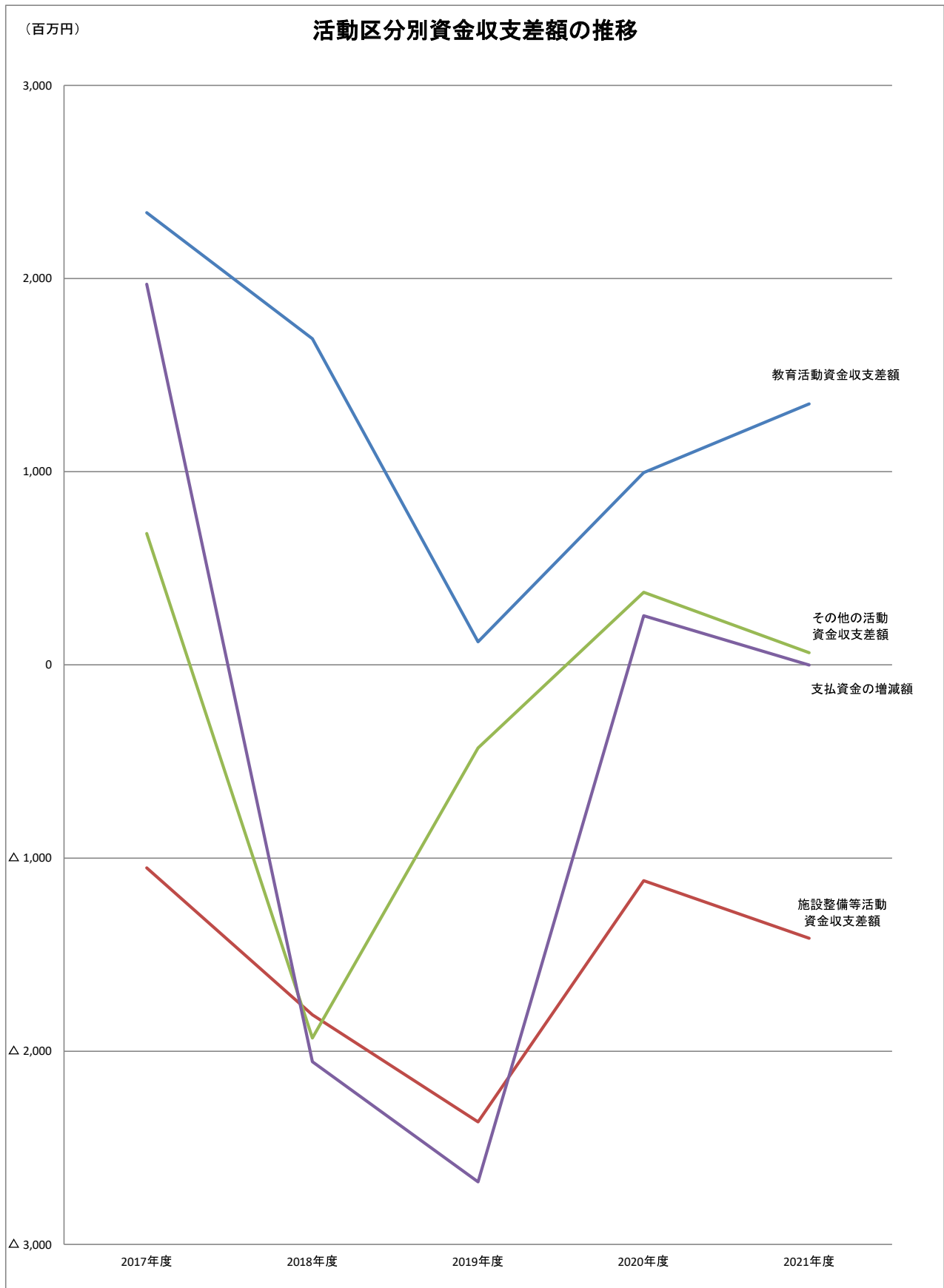


資料3 活動区分資金収支計算書 2017-2021年度(5年間)推移

(単位:百万円)

科 目 / 年度		年度					
		2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	
教育活動による資金収支	収入	学生生徒等納付金収入	13,305	13,100	12,715	12,429	12,314
		手数料収入	826	813	760	725	749
		特別寄付金収入	326	330	212	259	242
		一般寄付金収入	89	70	87	173	74
		経常費等補助金収入	2,911	3,041	3,173	3,319	3,300
		付随事業収入	245	230	225	161	170
		雑収入	492	633	514	563	486
		教育活動資金収入計	18,195	18,217	17,685	17,628	17,336
	支出	人件費支出	11,016	11,176	11,202	10,954	11,168
		教育研究経費支出	3,564	4,703	5,149	4,213	3,319
管理経費支出		1,230	1,162	1,305	1,163	1,157	
教育活動資金支出計		15,810	17,041	17,656	16,330	15,643	
差引		2,384	1,177	30	1,298	1,692	
調整勘定等		△ 43	512	90	△ 303	△ 341	
教育活動資金収支差額		2,341	1,688	120	995	1,351	
施設整備等活動による資金収支	収入	施設設備寄付金収入	16	15	23	16	18
		施設設備補助金収入	43	56	177	50	21
		施設設備売却収入	4	1	0	33	140
		第2号基本金引当特定資産取崩収入	220	653	287	0	0
		その他の引当特定資産取崩収入	440	313	162	0	300
		施設整備等活動資金収入計	724	1,038	648	99	479
	支出	施設関係支出	802	1,941	2,161	419	1,930
		設備関係支出	345	537	482	255	210
		第2号基本金引当特定資産繰入支出	100	0	0	25	25
		その他の引当特定資産繰入支出	634	932	591	227	885
		施設整備等活動資金支出計	1,880	3,410	3,234	926	3,050
	差引		△ 1,156	△ 2,372	△ 2,586	△ 827	△ 2,571
	調整勘定等		105	561	220	△ 290	1,156
施設整備等活動資金収支差額		△ 1,051	△ 1,811	△ 2,365	△ 1,117	△ 1,415	
小計(教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額)		1,291	△ 123	△ 2,246	△ 122	△ 64	
その他の活動による資金収支	収入	借入金等収入	0	0	1,160	0	0
		有価証券売却収入	1,555	1,318	944	425	1,017
		第3号基本金引当特定資産取崩収入	1,436	431	0	5	0
		その他の収入	3,853	3,770	4,606	4,607	4,244
		小計	6,844	5,519	6,710	5,038	5,260
		受取利息・配当金収入	772	785	810	882	968
		過年度修正収入	2	5	5	10	2
		その他の活動資金収入計	7,618	6,309	7,525	5,930	6,230
	支出	借入金等返済支出	535	871	701	696	666
		有価証券購入支出	1,550	1,296	950	446	1,014
		第3号基本金引当特定資産繰入支出	1,039	440	11	0	18
		その他の支出	3,769	5,581	6,209	4,202	4,402
		小計	6,894	8,187	7,870	5,344	6,101
		借入金等利息支出	69	64	87	85	79
		過年度修正支出	2	2	109	19	2
		その他の活動資金支出計	6,965	8,253	8,066	5,448	6,182
	差引		653	△ 1,944	△ 541	483	48
	調整勘定等		26	13	111	△ 107	14
	その他の活動資金収支差額		679	△ 1,931	△ 430	376	62
	支払資金の増減額 (小計＋その他の活動資金収支差額)		1,970	△ 2,054	△ 2,676	254	△ 2
前年度繰越支払資金		10,056	12,026	9,971	7,296	7,549	
翌年度繰越支払資金		12,026	9,971	7,296	7,549	7,548	

グラフ2

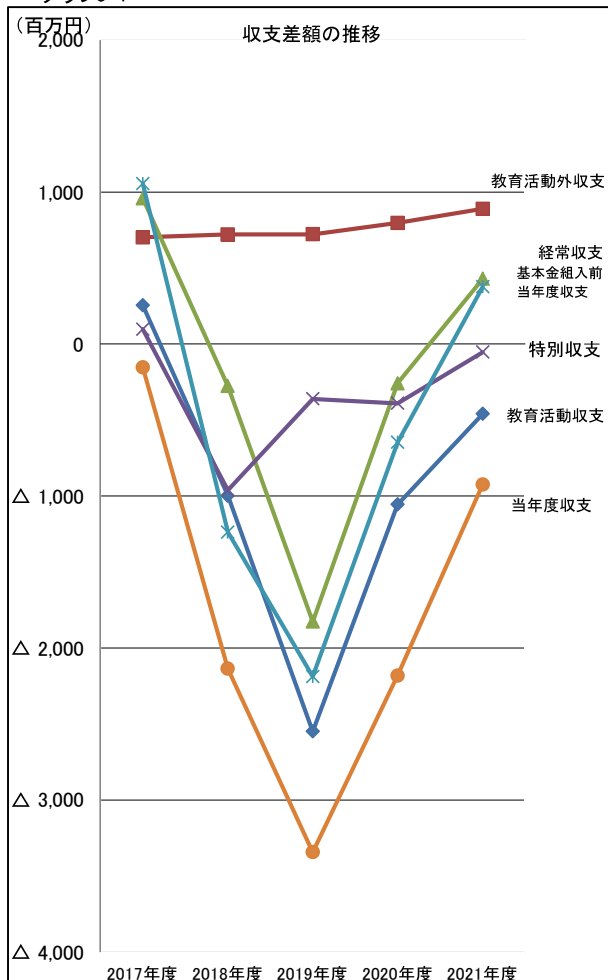


資料4 事業活動収支計算書 2017～2021年度(5年間)推移

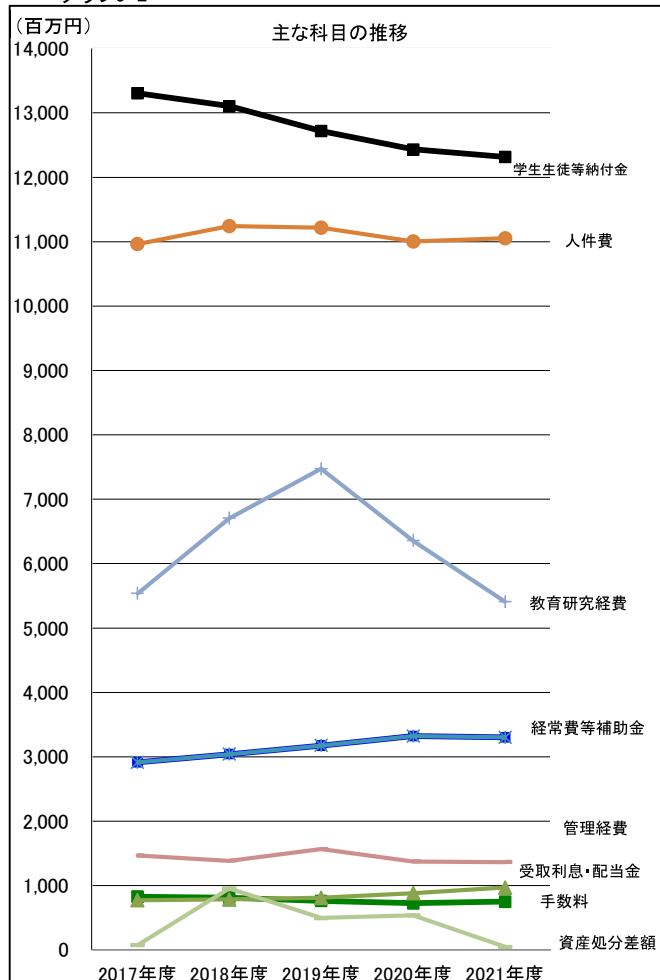
(単位:百万円)

	科目	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
教育活動収支	事業活動収入					
	学生生徒等納付金	13,305	13,100	12,715	12,429	12,314
	手数料	826	813	760	725	749
	寄付金	427	415	307	454	332
	経常費等補助金	2,911	3,041	3,173	3,319	3,300
	付随事業収入	245	230	225	161	170
	雑収入	506	732	525	594	497
	教育活動収入計	18,221	18,330	17,705	17,681	17,362
	事業活動支出					
	人件費	10,961	11,239	11,216	11,003	11,052
	(退職給与引当金組入額・退職金)	464	682	585	553	469
	教育研究経費	5,537	6,703	7,473	6,356	5,408
	(減価償却額)	1,966	1,985	2,040	2,124	2,074
	管理経費	1,466	1,383	1,564	1,374	1,362
	(減価償却額)	236	221	217	212	207
	徴収不能額等	1	2	2	2	0
	教育活動支出計	17,965	19,328	20,254	18,736	17,822
	教育活動収支差額	256	△ 997	△ 2,549	△ 1,055	△ 459
教育活動外収支	事業活動収入					
	受取利息・配当金	772	785	810	882	968
	その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外収入計	772	785	810	882	968
	事業活動支出					
教育活動外収支	借入金等利息	69	64	87	85	79
	その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
	教育活動外支出計	69	64	87	85	79
	教育活動外収支差額	702	721	722	797	889
	経常収支差額	958	△ 276	△ 1,827	△ 258	430
特別収支	事業活動収入					
	資産売却差額	9	23	0	68	19
	その他の特別収入	164	106	244	108	62
	特別収入計	173	129	244	177	81
	事業活動支出					
特別収支	資産処分差額	74	952	496	538	48
	その他の特別支出	2	138	109	28	86
	特別支出計	76	1,091	605	566	134
	特別収支差額	97	△ 962	△ 360	△ 390	△ 53
	基本金組入前当年度収支差額	1,055	△ 1,238	△ 2,188	△ 647	377
基本金組入額合計		△ 1,208	△ 898	△ 1,156	△ 1,534	△ 1,301
当年度収支差額		△ 153	△ 2,137	△ 3,344	△ 2,181	△ 924
前年度繰越収支差額		△ 31,647	△ 31,066	△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058
基本金取崩額		734	2,186	1,154	2,330	146
翌年度繰越収支差額		△ 31,066	△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058	△ 33,835
(参考)						
事業活動収入計		19,166	19,244	18,759	18,740	18,411
事業活動支出計		18,111	20,482	20,946	19,387	18,034

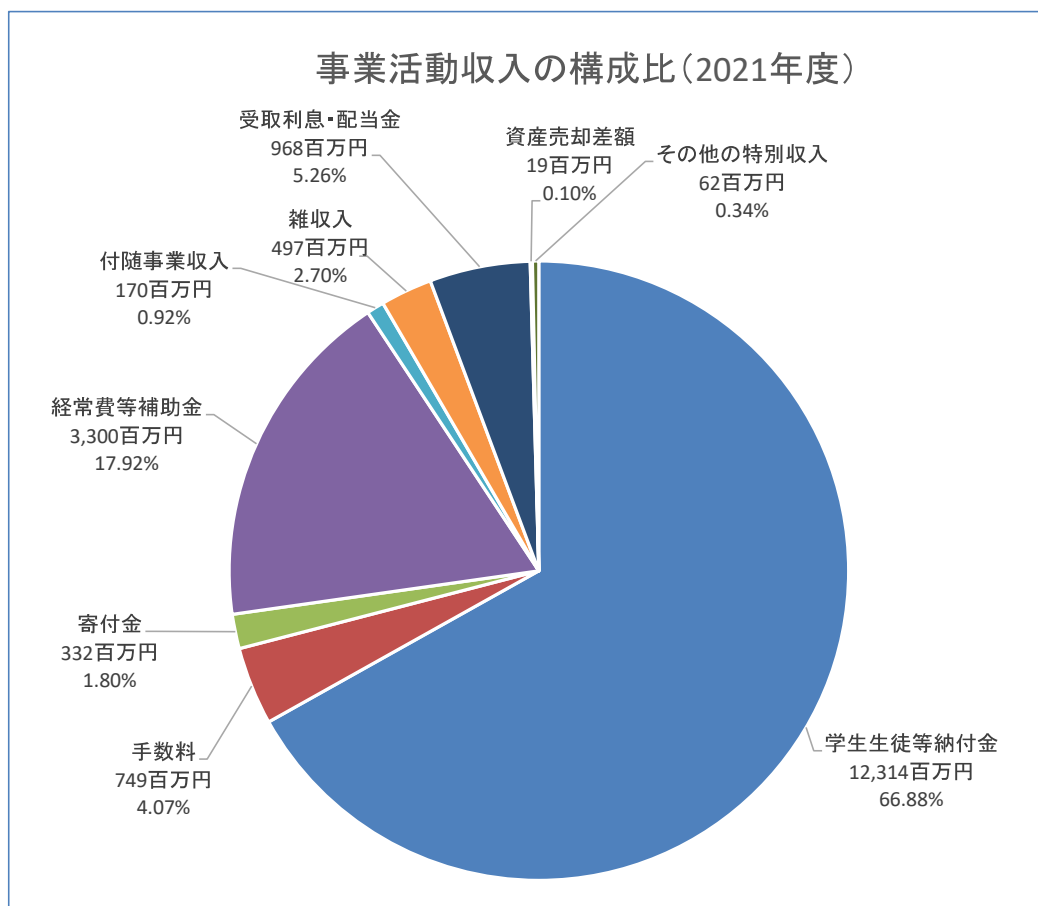
グラフ3-1



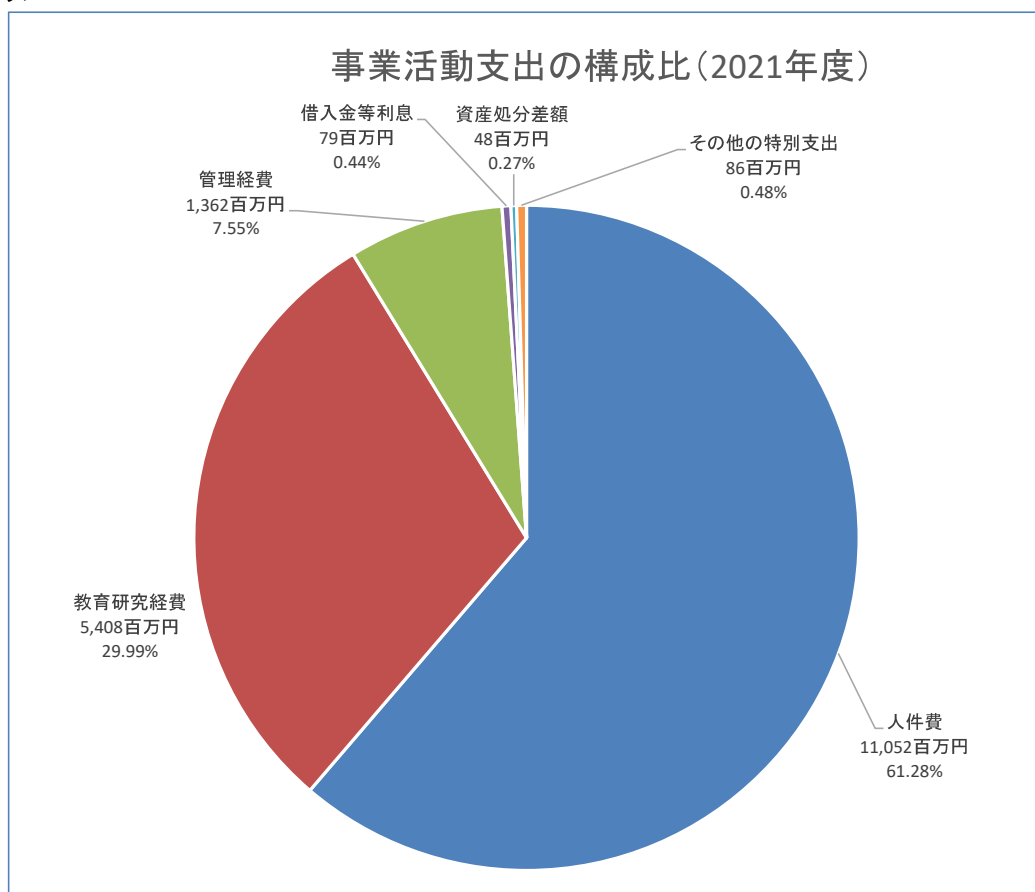
グラフ3-2



グラフ3-3



グラフ3-4



資料5 財務比率(事業活動収支関連) 2017-2021年度(5年間)推移

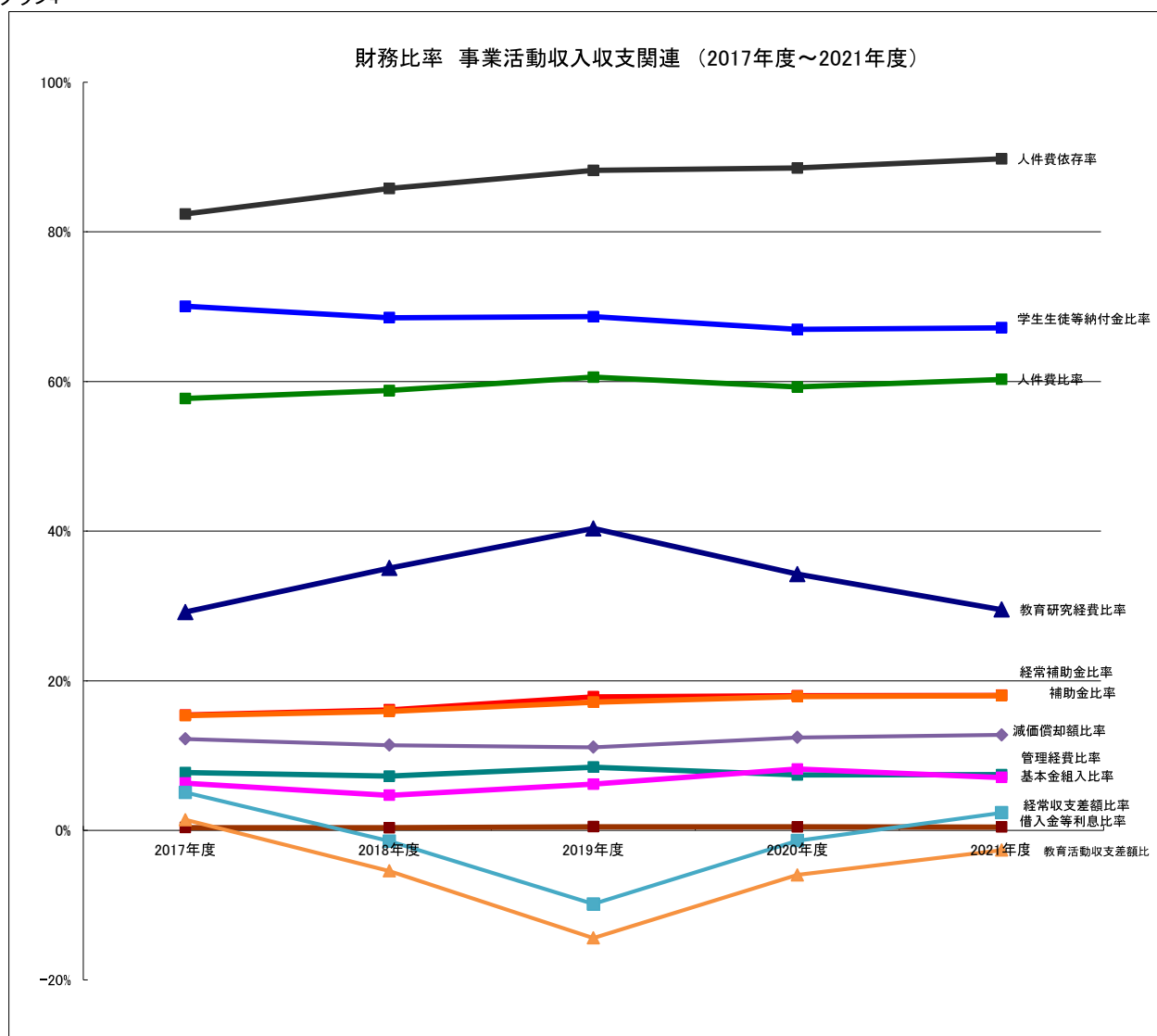
比率	計算式	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	全国平均 ※1	評価指標 ※2
人件費比率	人件費/経常収入	57.7%	58.8%	60.6%	59.3%	60.3%	51.8%	▼
人件費依存率	人件費/学生生徒等納付金	82.4%	85.8%	88.2%	88.5%	89.7%	69.6%	▼
教育研究経費比率	教育研究経費/経常収入	29.2%	35.1%	40.4%	34.2%	29.5%	35.2%	△
管理経費比率	管理経費/経常収入	7.7%	7.2%	8.4%	7.4%	7.4%	8.2%	▼
借入金等利息比率	借入金等利息/経常収入	0.4%	0.3%	0.5%	0.5%	0.4%	0.1%	▼
学生生徒等納付金比率	学生生徒等納付金/経常収入	70.1%	68.5%	68.7%	67.0%	67.2%	74.4%	～
補助金比率	補助金/事業活動収入	15.4%	16.1%	17.9%	18.0%	18.0%	14.1%	△
経常補助金比率	教育活動収支の補助金/経常収入	15.3%	15.9%	17.1%	17.9%	18.0%	13.9%	△
基本金組入比率	基本金組入額/事業活動収入	6.3%	4.7%	6.2%	8.2%	7.1%	10.4%	△
減価償却額比率	減価償却額/経常支出	12.2%	11.4%	11.1%	12.4%	12.7%	11.7%	～
経常収支差額比率	経常収支差額/経常収入	5.0%	-1.4%	-9.9%	-1.4%	2.3%	4.6%	～
教育活動収支差額比率	教育活動収支差額/教育活動収入計	1.4%	-5.4%	-14.4%	-6.0%	-2.6%	3.0%	～

※1 全国平均 : 大学法人(医歯系法人を除く)の令和二年度全国平均 典拠:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)より

※2 評価指標 : 評価は、それぞれの大学法人の特殊性があり一概にはいえないが、一般的には以下のように考えられる

△高い値がよい ▼低い値がよい ～どちらともいえない

グラフ4

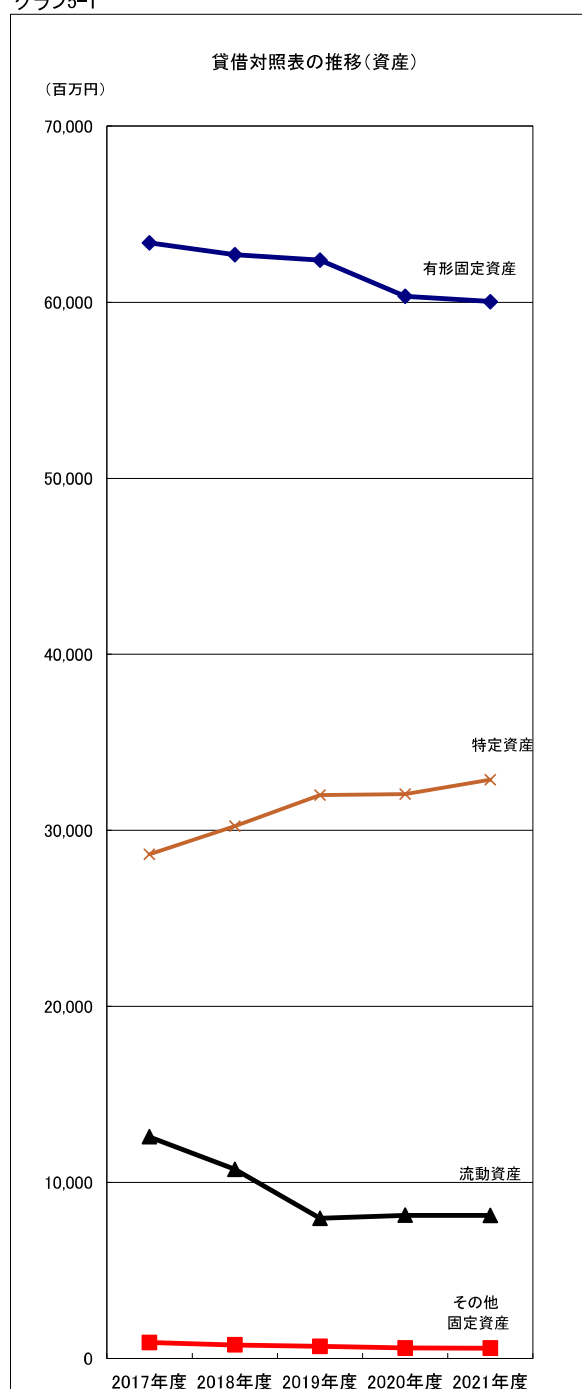


資料6 貸借対照表2017-2021年度(5年間)推移

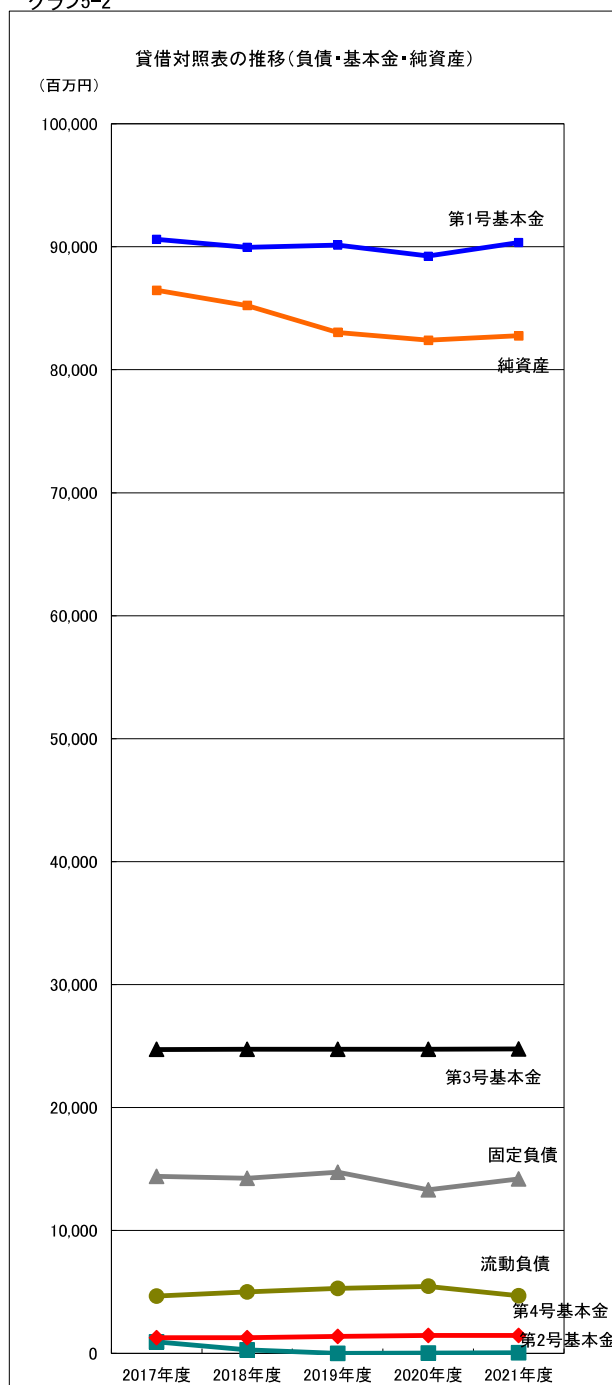
(単位:百万円)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度
資産の部					
固定資産	92,918	93,717	95,096	93,004	93,493
有形固定資産	63,370	62,708	62,389	60,347	60,036
特定資産	28,643	30,239	32,012	32,063	32,871
その他固定資産	905	770	694	594	586
流動資産	12,592	10,741	7,957	8,134	8,129
資産の部合計	105,510	104,458	103,053	101,138	101,622
負債の部					
固定負債	14,386	14,232	14,733	13,295	14,177
流動負債	4,654	4,994	5,276	5,447	4,672
負債の部合計	19,040	19,226	20,009	18,741	18,849
純資産の部					
基本金	117,536	116,248	116,251	115,454	116,609
第1号基本金	90,600	89,955	90,138	89,239	90,350
第2号基本金	940	287	0	25	50
第3号基本金	24,718	24,727	24,738	24,732	24,751
第4号基本金	1,277	1,280	1,375	1,458	1,458
繰越収支差額	△ 31,066	△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058	△ 33,835
翌年度繰越収支差額	△ 31,066	△ 31,016	△ 33,207	△ 33,058	△ 33,835
純資産の部合計	86,470	85,232	83,044	82,397	82,774
負債および純資産の部合計	105,510	104,458	103,053	101,138	101,622

グラフ5-1



グラフ5-2



資料7 財務比率(貸借対照表関連) 2017-2021年度(5年間)推移

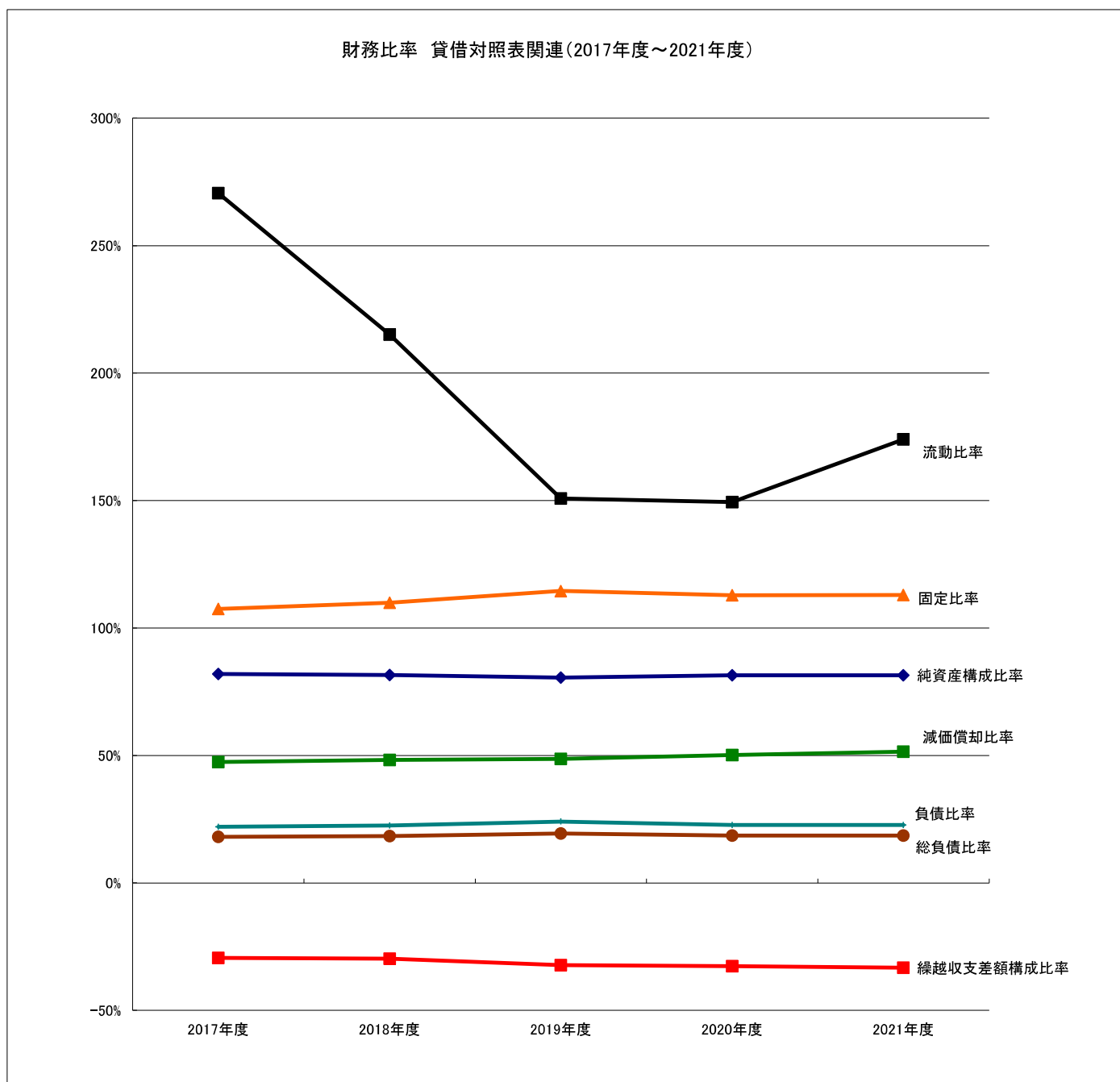
比率	計算式	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	全国平均 ※1	評価指標 ※2
純資産構成比率	純資産/(負債+純資産)	82.0%	81.6%	80.6%	81.5%	81.5%	87.9%	△
繰越収支差額構成比率	繰越収支差額/(負債+純資産)	-29.4%	-29.7%	-32.2%	-32.7%	-33.3%	-15.3%	△
固定比率	固定資産/純資産	107.5%	110.0%	114.5%	112.9%	113.0%	98.2%	▼
減価償却比率	減価償却累計額/減価償却資産取得額	47.4%	48.2%	48.6%	50.2%	51.5%	53.2%	～
流動比率	流動資産/流動負債	270.6%	215.1%	150.8%	149.3%	174.0%	256.6%	△
総負債比率	総負債/総資産	18.0%	18.4%	19.4%	18.5%	18.5%	12.1%	▼
負債比率	総負債/純資産	22.0%	22.6%	24.1%	22.7%	22.8%	13.8%	▼

※1 全国平均 : 大学法人(医歯系法人を除く)の令和二年度全国平均 典拠:「今日の私学財政」(日本私立学校振興・共済事業団)より

※2 評価指標 : 評価は、それぞれの大学法人の特殊性があり一概にはいえないが、一般的には以下のように考えられる

△高い値がよい ▼低い値がよい ～どちらともいえない

グラフ6



学校法人南山学園 財産目録[2022年3月31日現在]

(単位 円)

I. 資産総額				101,614,887,874
内 1. 基本財産				58,819,093,180
2. 運用財産				42,795,794,694
[収益事業用財産				435,714,585]
II. 負債総額				18,848,761,247
[収益事業用負債				0]
III. 正味財産				82,766,126,627
[1] 資 産				101,614,887,874
1. 基本財産				58,819,093,180
(1) 土 地	473,853.92	m ²		15,614,003,441
(2) 建 物	264,934.62	m ²		33,409,319,865
(3) 構 築 物	641	件		2,390,498,698
(4) 機 器 備 品				1,060,684,987
ア 教育研究用機器備品	19,683	点		999,781,814
イ 管理用機器備品	320	点		60,903,173
(5) 図 書	1,146,052	冊		6,275,414,431
(6) 車 輜	38	台		6,561,019
(7) 建 設 仮 勘 定	1	件		2,999,160
(8) ソ フ ト ウ ェ ア	16	口		59,611,579
2. 運用財産				42,795,794,694
(1) 預 貯 金 ・ 現 金				7,547,594,583
ア 預 貯 金		諸口		7,542,428,909
イ 現 金				5,165,674
(2) 特 定 資 産		諸口		32,870,682,332
(3) 不 動 産				1,248,657,296
ア 土 地	101,376.57	m ²		1,079,364,282
イ 建 物	4,450.36	m ²		169,293,014
(4) 構 築 物	33	件		20,566,494
(5) 電 話 加 入 権	207	本		10,854,253
(6) 施 設 利 用 権	12	件		5,369,506
(7) 長 期 貸 付 金	18	口		12,107,616
(8) 差 入 保 証 金	1	口		70,200,000
(9) 収 益 事 業 元 入 金	1	口		428,126,593
(10) 貯 蔵 品		諸口		14,003,980

(11)	未 収 入 金	諸口	445, 084, 080
(12)	前 払 金	諸口	115, 486, 174
(13)	立 替 金	20 口	6, 970, 427
(14)	預 け 金	7 口	91, 360
[収益事業用財産]			435, 714, 585
(1)	土 地	4, 809. 86 m ²	426, 652, 864
(2)	建 物	183. 04 m ²	1
(3)	預 貯 金 ・ 現 金		9, 061, 720
ア	預 貯 金	1 口	9, 061, 720
イ	現 金		0
[2] 負 債			18, 848, 761, 247
1.	固定負債		14, 176, 554, 399
(1)	長 期 借 入 金	9 口	8, 797, 410, 000
(2)	退 職 給 与 引 当 金	諸口	3, 282, 244, 378
(3)	長 期 預 り 金	諸口	350, 107, 577
(4)	長 期 未 払 金	7 口	1, 746, 792, 444
2.	流動負債		4, 672, 206, 848
(1)	返済期限が1年以内の長期	9 口	730, 480, 000
(2)	前 受 金	10, 731 口	2, 462, 267, 994
(3)	未 払 金	諸口	417, 204, 531
(4)	預 り 金	諸口	1, 062, 254, 323
[収益事業用負債]			0
[3] 借用財産			
(1)	土 地	56, 966. 53 m ²	
(2)	建 物	5, 383. 98 m ²	

監 査 報 告 書

2022 年 5 月 23 日

学校法人南山学園

理 事 会 御中

評 議 員 会 御中

学校法人南山学園

監事

蔦 田 一



監事

根 本 景 子



私たち監事は、私立学校法第 37 条第 3 項および学校法人南山学園寄附行為第 15 条第 1 項の規定にもとづき、学校法人南山学園の 2021 年度の業務および財産の状況ならびに理事の業務執行の状況について監査を行いましたので、その結果について以下のとおり報告します。

1. 監査の方法

監査にあたり、理事会、評議員会およびその他の重要な会議に出席し意見を述べたほか、理事の業務を確認するとともに、計算書類（資金収支計算書、事業活動収支計算書、貸借対照表）等および南山大学における公的研究費の管理・執行について確認し、必要と思われる監査手続きを実施しました。

2. 監査の結果

- (1) 本法人の業務に関する決定および執行は、適切な手続きを経て行われており、業務もしくは財産または理事の業務執行に関する不正の行為はなく、かつ法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。
- (2) 計算書類等は、本法人の収支および財産の状況を適正に表示しているものと認めます。
- (3) 南山大学における公的研究費の管理・執行は、「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン（実施基準）」（令和 3 年 2 月 1 日改正、文部科学大臣決定）にもとづき、適正に行われているものと認めます。

以上

南山学園役員報酬・退職金支給規程

(目的)

第1条 学校法人南山学園寄附行為第37条の規定に基づく、役員報酬等の支給の基準については、この規程の定めるところによる。

(定義等)

第2条 この規程において、次の各号に掲げる用語の定義は、当該各号に定めるところによる。

- 1 役員とは、理事および監事をいう。
- 2 この法人の職員とは、学校法人南山学園と直接雇用関係のある者をいう。
- 3 報酬等とは、報酬、退職金その他の役員としての職務執行の対価として受ける財産上の利益であって、その名称の如何を問わない。この役員報酬等には、職員に対する各学校の給与規程に基づくものを含まない。
- 4 費用とは、役員としての職務執行に伴い生じる旅費（交通費、宿泊費等）、会合参加費および手数料等の経費をいう。

(報酬等の支給)

第3条 役員に対しては、次のとおり報酬等を支給するものとする。

- 1 理事 報酬、退職金
- 2 常任監事 報酬、退職金
- 3 監事 報酬

② 退職にあたっては、前項に定める退職金以外については、功労金をはじめとするいかなる金員も支給しない。

(報酬等の額の算定方法)

第4条 理事に対する報酬等の額は、次のとおりとする。

- 1 この法人の職員である理事
 - (1) 報酬 別表第1に定める額
 - (2) 退職金 別表第6に定める額
- 2 この法人の職員でない理事
 - (1) 報酬 別表第2に定める額
 - (2) 退職金 別表第7に定める額

② 常任監事に対する報酬等の額は、次のとおりとする。

- 1 報酬 別表第2に定める額
- 2 退職金 別表第7に定める額

③ 監事に対する報酬の額は別表第2および別表第3に定める額とする。

④ 報酬の基礎となる指定職俸給表は別表第4、期末手当基礎額への加算月数および加算乗率は別表第5のとおりとする。

(報酬等の支給方法)

第5条 役員に対する報酬等の支給の時期は、次の各号による報酬等の区分に応じて、当該各号

に定める時期とする。

- 1 報酬 毎月 17 日（ただし、支給日が休日または土曜日にあたる場合は、16 日、16 日が土曜日に当たるときは、15 日とする。）
- 2 退職金 任期の満了、辞任または死亡により退職した後 1 か月以内
- ② 報酬等は、通貨により本人に支給する。ただし、本人の同意を得れば、本人の指定する金融機関の口座に振り込むことができる。
- ③ 報酬等は、法令の定めるところによる控除すべき金額および本人から申し出のあった立替金、積立金等を控除して支給する。

（費用）

第 6 条 役員には、南山大学出張等に関する規程に準じて、旅費を支給する。

- ② 役員が職務の執行にあたって旅費以外の費用を要する場合は、当該費用を支給する。

（報酬の日割り計算）

第 7 条 新たに役員に就任した者には、就任の日から月末までの日割計算で報酬を支給する。

- ② 役員が退任し、または解任された場合は、発令の日の属する月分の全額を支給する。

（端数の処理）

第 8 条 この規程により、報酬の計算金額に 1,000 円未満の端数が生じたときは、その端数金額が 500 円未満であるときは、これを切り捨て、その端数金額が 500 円以上であるときは、これを 1,000 円に切り上げるものとする。

- ② 退職金の計算金額に 100 円未満の端数が生じたときは、その端数金額を切り上げるものとする。

- ③ 費用の計算金額に 1 円未満の端数が生じたときは、その端数金額が 50 銭未満であるときは、これを切り捨て、その端数金額が 50 銭以上であるときは、これを 1 円に切り上げるものとする。

（公表）

第 9 条 この法人は、この規程をもって、私立学校法第 63 条の 2 第 4 号に定める報酬等の支給の基準として公表する。

（補則）

第 10 条 この規程の実施に関し必要な事項は、理事長が、別に定める。

第 11 条 この規程の改廃は、評議員会の意見を聴いた上で、学園理事会の議決により行う。

附 則

- 1 この規程は、2020 年 4 月 1 日より施行する。
- 2 次の規程は、これを廃止する。
 - (1) 南山学園役員給与規程（平成 4 年 4 月 1 日施行）
 - (2) 南山学園役員退職金支給規程（平成 4 年 4 月 1 日施行）

附 則

この規程の改正は、2021 年 4 月 1 日より施行する。

別 表 第1 この法人の職員である理事の報酬

報酬はポイント制とし、1ポイント月額16,000円とする。

区分	役職名、ポイントの基準	ポイント
基本	理事	6
	常務理事	18
	副理事長	18
	理事長	30
加算	常務理事で担当理事を委嘱された者 受けた者	1つにつき3
	理事で担当理事を委嘱された者	1つにつき6

別 表 第2 この法人の職員でない理事および常任監事の報酬

報酬は以下の算式により算出する額とする。

区分	役員区分	報酬（月額）
基本	この法人の職員でない理事	〔指定職俸給表指定額×12ヶ月+期末手当（指定職俸給表指定額×加算月数×加算乗率）の10万円未満を切り捨てた額〕×週5日のうち出勤を要する日数 ÷12ヶ月
	常任監事	
	監事	

別 表 第3 監事の加算報酬

区分	加算の基準	報酬（月額）
加算	公認会計士、税理士またはそれ相当の資格を有する場合	別表第2による報酬額に5割を加算する
	決算監査を行った場合	決算監査1回につき7万円（行った月にのみ加算）

別 表 第4 指定職俸給表

俸給月額	573,000円
------	----------

別 表 第5 期末加算月数および加算乗率

区 分	加算月数	加算乗率
理事、常任監事、監事	5.0か月	20%

別 表 第6 この法人の職員である理事の退職金

区 分	期 間	金 額
理事長	在任1か年につき	200,000円
副理事長		200,000円
常務理事		200,000円
担当理事		150,000円
理事		100,000円

※上記期間における端数は月割りとする。ただし、1か月未満は1か月に切り上げる。

別 表 第 7 この法人の職員でない理事および常任監事の退職金

区 分	期 間	金 額
この法人の職員でない理事 常任監事	在任1か年につき	報酬年額の120分の15

※上記期間における端数は月割りとする。ただし、1か月未満は1か月に切り上げる。